

東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構
国際教育部門日本語教育コース

2024 年度報告書

Japanese Language Course Annual Report
2024.4-2025.3

*Japanese Language Course
School of Engineering
The University of Tokyo*

はじめに

ICT（情報通信技術）の活用によって、インターネットやデジタルツールを用いたオンライン教育の開発が進んでいる。オンライン教育は、教員が設計した授業・教材を使用し、LMSなどを用いたリアルタイムまたはオンデマンド授業で、教員と学習者との対話を中心とした教育形態である。一方、近年、AI（人工知能）の急速な発展により、AIを活用した学習支援ツールや指導支援システムの導入が進みつつある。特に自然言語処理技術を応用した音声認識や発話練習、文法チェック、作文添削、自動翻訳などのツールは、学習者の自律学習を支援する手段として注目されている。本コースでは、毎年、日本語講師を対象とした生成 AI に関する勉強会を開催している。複数の生成 AI の特徴およびその教育現場における活用方法に関する講義を実施し、日本語講師が実際に AI ツールを用いる体験的な機会を得て、その知識やスキルを習得している。

他方で、AI やオンライン教育が進展する中であっても、対面授業の重要性は依然として高い。特に言語教育においては、教員と学習者、また学習者同士の直接的な相互作用を通じた学びが、言語運用能力の定着に寄与する点が大い。対面授業では、学習者の理解度や反応を即時に把握し、状況に応じて柔軟に指導内容を調整することが可能である。また、発話練習やグループ活動などを通じて、学習者が他者と協働しながら学ぶ体験を提供できる点も、対面授業ならではの利点である。さらに、学習の不安やつまづきを察知し、きめ細かなサポートを行うためにも、教員による対面での指導が極めて重要である。こうした対面授業の特性は、AI やオンラインツールには代替しきれない教育的価値を有していると言える。今後は対面授業の特性と AI の特性を的確に理解し、倫理的な配慮を踏まえた上で、学習者一人ひとりの目標や背景に応じた柔軟かつ実効性のある教育設計を行っていくことが、日本語教育における重要な課題となるであろう。

工学系研究科国際工学教育推進機構国際教育部門、「日本語教室」は、今年度より「日本語教育コース」へと名称を改めた。本コースは、日本語教育の体系化および専門性の向上を目的とし、従来の実践的な日本語指導に加えて、教育内容の充実と発展的なカリキュラムの構築を目指している。今後も、本コースの改善と発展に向けて努力し、社会に貢献する活動を展開していきたい。

本報告書は 2024 年度の工学系研究科日本語教育コースの授業・諸活動を振り返り、今後の課題を明確にすることにより、さらに充実した日本語教育の実施を目指して作成した。本報告書が工学系研究科の教職員や関係者、また日本語教育に関心のある方々にとって、役立つことを願うと同時に、平素より工学系研究科日本語教育コースへのご理解、ご支援を頂いている皆様にここに感謝の意を表す。

2025 年 3 月

工学系研究科国際工学教育推進機構 国際教育部門日本語教育コース
古市由美子

目 次

はじめに	
第1章 日本語教育コースの概要	1
1.1 運営と目的	1
1.2 受講対象者および教職員	2
1.3 学内日本語教育関連組織との連携	3
1.4 年間スケジュール	4
第2章 日本語教育の実践と運営	6
2.1 概要	6
2.2 コースデザインの特徴	6
2.3 コースの履修プロセス	8
2.4 日本語教育コースのシラバスおよび報告	9
2.5 受講者と修了者	105
2.6 日本語教育コースのコース評価	112
2.7 言語使用実態調査	120
第3章 日本文化体験	126
第4章 国際交流支援	130
4.1 学生授業ボランティア	130
4.2 International Lounge	133
4.3 日本語ラーニングアドバイスセッション	134
第5章 海外協定校とのネットワークの構築と連携	136
5.1 国際連携(特別)実習 VI	137
5.2 海外体験活動プログラム	142
5.3 さくらサイエンスプログラム	149
5.4 ケンブリッジ大学短期受入れプログラム	151
第6章 研究活動・教材作成	153
6.1 JLCSE における日本語教育の実践研究	153
6.2 各専門分野における研究成果	154
第7章 今後の課題	157
7.1 日本語教育	157
7.2 日本文化事情教育	158
7.3 留学生と日本人学生の国際交流支援	158
7.4 国際化教育	159
7.5 実践研究および教材開発	159
巻末資料	
2024 年度概要・時間割	160
受講者数・修了者数データ	168
Can Do Statements	176
言語使用実態調査シート・コース評価シート	177
ポスター	181

第1章 日本語教育コースの概要

1.1 運営と目的

工学系研究科日本語教育コースは1981年に設置され、2011年度より工学系研究科国際工学教育推進機構国際事業推進センターの下に配置された。その後、2020年4月の国際工学教育推進機構の組織改編に伴い、同コースは国際教育部門に所属することとなった。2023年度からは高鍋和弘部門長の下、留学生および研究員が日本において充実した学びと円滑な研究活動を実現できることを目指して活動を展開しており、2024年度にはコース設置44年目を迎える。

本コースは、東京大学におけるグローバルキャンパスの構築を担う一翼として、留学生を対象とした日本語教育を主軸とし、日本文化事情教育をはじめ、留学生と日本人学生の国際交流支援、さらには日本人学生を対象とした国際化教育を実施している。単なる言語習得にとどまらず、人と人とのつながりを重視した「ことばの支援」を理念に掲げ、日本語運用能力の向上に加え、相互理解のためのコミュニケーション能力、そして留学生と日本人学生が共に連携し、社会に積極的に参加していく力の育成を教育ビジョンとしている。さらに、卒業後にグローバル社会においてリーダーとして活躍できる人材の育成を視野に入れ、キャリア形成支援の一環として、就職支援を中心に据えた授業や就職活動に関する個別サポートも展開している。

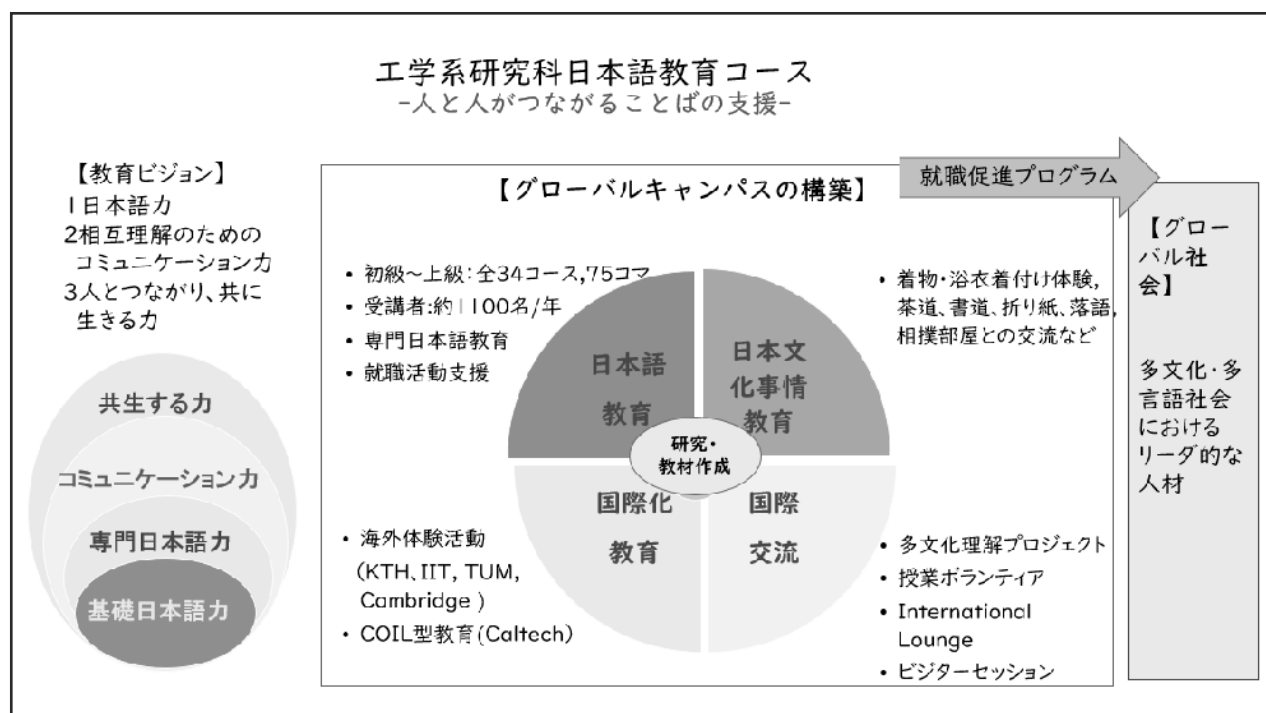


図1 工学系研究科日本語教育コース概要

本コースが掲げる具体的な目標は以下の5項目である。

- 1 留学生・研究員などに対する生活・研究支援としての日本語教育
 - 2 留学生・研究員などに対する日本文化事情教育
 - 3 留学生・日本人の国際交流および多言語・多文化支援
 - 4 国際化推進の一環としての日本人学生の国際化教育
 - 5 工学系に特化した専門日本語教育の実践研究と教材開発
1. To provide Japanese language education to support academic life and life in Japan of international students and researchers.
 2. To provide Japanese cultural education to international students and researchers.
 3. To promote and develop friendship and understanding amongst multi-lingual and multi-cultural group of people.
 4. To broaden Japanese students' knowledge and understanding of other cultures as a part of internationalization.
 5. To conduct research on Japanese language education especially for science and engineering area, and to develop new learning materials.

1.2 受講対象者および教職員

工学系研究科日本語教育コースの受講対象者は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の修士、博士、交換留学生（学部、大学院）、研究生、研究員、インターンシップ生とその配偶者である。これに加え2014年度からは全学交換留学生(USTEP)の受け入れを開始するとともに、他研究科の修士、博士、交換留学生、研究生も数多く受け入れている。2024年度の日本語教育コースの教職員は、教授1名、特任准教授2名、特任講師1名、特任助教S1S2:2名、A1A2:1名、非常勤講師14名、職員2名である。（各職位と氏名は下記の通り）。

教授：古市由美子

特任准教授：市原明日香・牛山和子

特任講師：猪狩美保

特任助教：金瑜眞（2024年8月末退職）・劉羅麟

非常勤講師：内田あゆみ・大西由美・片岡さゆり・米谷章子・佐藤瑞恵・鈴木恵理

武田聡子・中村亜美・ハワード文江・東平福美・久田美菜・藤井明子

宮瀬真理・佐野理恵

職員：佐々木知子（2024年9月採用）・早坂美和子・山畑めぐみ（2024年8月末退職）

1.3 学内日本語教育関連組織との連携

1.3.1 東京大学内の日本語教育プログラム

東京大学では、駒場、本郷、柏の3つのキャンパスで多様な日本語教育プログラムが開講されている。

本郷キャンパスでは、工学系研究科日本語教育コース（JLCSE）、グローバル教育センター日本語教育部門、人文社会系研究科・文学部、薬学系研究科・薬学部で日本語教育プログラムが開講されている。この内、本コース（対面形式）およびグローバル教育センター日本語教育部門（オンライン形式）は、所属を問わず、全留学生、研究者、配偶者を対象に日本語教育を行っている。人文社会学系研究科・文学部日本語教室は、所属留学生、研究者、配偶者を主な対象者とし、全留学生を定員の範囲内で受け入れている。薬学研究科・薬学部は所属の留学生、研究者、配偶者の日本語教育を担当している。

なお、工学系研究科内には、本コースのほかに、3つの専攻日本語教室がある。当日本語教育コースは工学系研究科、情報工学系研究科、および新領域創成科学研究科の留学生、研究生、研究員、USTEP（全学交換留学生）、配偶者などを対象にしているのに対し、専攻日本語教室は各専攻の留学生が主な対象である。専攻日本語教室は、設立年度順に社会基盤学日本語教室（1982年）、システム創成系日本語教室（1989）、IME大学院日本語教室（2001年）の3つで、それぞれが独立したカリキュラムを作成し、日本語教育を行っている。

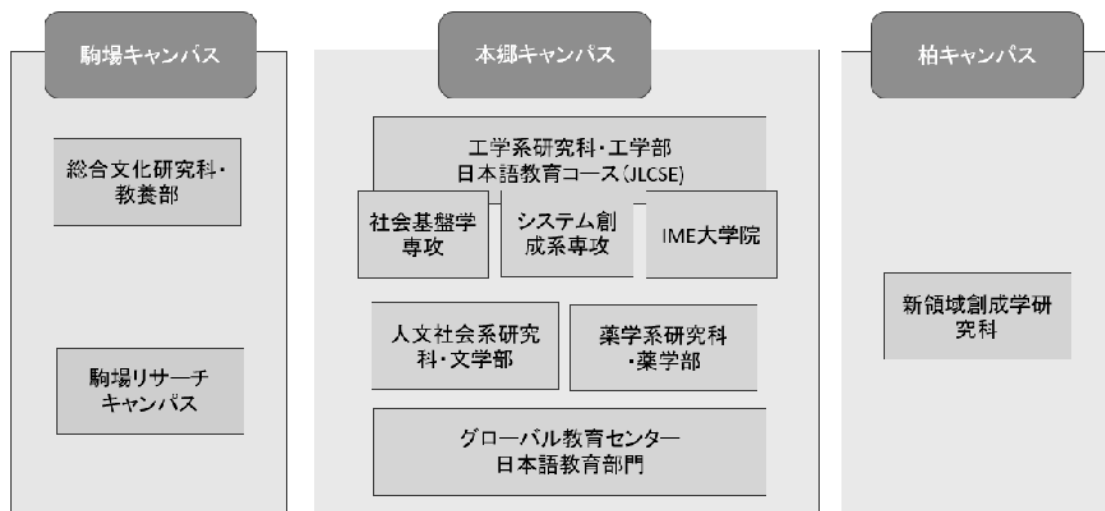


図2 東京大学における日本語教育

駒場Iキャンパスの総合文化研究科・教養部では、学部生留学生・PEAK生等の日本語科目が開講されており、駒場IIキャンパスでは、「駒場リサーチキャンパス日本語教室」で研究者や大学院生等を主対象にグローバル教育センターがプログラムを提供している。また、柏キャンパスでは、新領域創成科学研究科、国際交流室日本語教室が日本語プログラムを提

供している。

1.3.2 工学系研究科内日本語教室との連携

工学系研究科日本語教育コース（JLCSE）と工学系専攻日本語教室との連携活動として、毎年度末に年次報告会を行っている。2024年度第24回工学系研究科日本語教室年次報告会は、2024年3月7日にオンラインで行われた。当日は、各日本語教室顧問及び担当教員が出席し、本コース及び3つの専攻日本語教室からカリキュラム、活動内容、課題などについて報告が行われ、各教室間の交流と連携と強化を目指し、意見交換が行われた。また、担当の工学系専門の先生方から今後の日本語教育の展望につながる貴重なコメントをいただいた。

本コースは全コースで対面授業を行った。システム創成系日本語教室は、対面とオンラインを同時に行うハイブリッド形式の授業を、社会基盤学日本語教室は、言語指導はオンライン、定期試験、作文指導、文化活動は対面という形で授業を実施した。夜間に授業を行うIME大学院日本語教室は、オンラインでの授業を行った。今後も工学系留学生への日本語教育に対して、三つの日本語教育コースが連携を図りながら、教育内容のさらなる改善と充実に努めていきたいと考えている。

1.4 年間スケジュール

2024年度の工学系研究科日本語教育コースのスケジュールは、以下の通りである。

[2024年]

- | | |
|-----|--|
| 4月 | S1S2 学期授業開始（4月5日-7月24日）
学生授業ボランティア受け入れ
ケンブリッジ大学より教員1名、学生5名受入れ |
| 5月 | 落語体験開催 |
| 6月 | S2 入門コース開始（6月4日）
茶道体験、書道ワークショップ、浴衣ワークショップ開催 |
| 7月 | 七夕体験
S1S2 学期授業終了 |
| 8月 | 工学系研究科日本語教育コース教師会
就職支援短期集中講座（留学生就職促進プログラム） |
| 9月 | 2024年度 A1A2 学期時間割・概要をHPに掲載、登録開始
スウェーデン・イギリス体験活動プログラム（スウェーデン王立工科大学・ケンブリッジ大学での異文化理解体験活動ー学生交流と企業訪問を通してー）実施 |
| 10月 | A1A2 学期授業開始（10月2日-1月29日）
体験活動にて学生授業ボランティア受け入れ |

- 書道ワークショップ開催
- 11 月 A2 入門コース開始 (11 月 30 日)
アニメアテレコイベント、着物体験開催
- 12 月 さくらサイエンスプログラム IITM&IITH 受け入れ (7 日間、教員 1 名、学生 7 名)
折り紙ワークショップ開催

[2025 年]

- 1 月 お汁粉体験、茶道体験開催
A1A2 学期授業終了
- 2 月 工学系研究科日本語教育コース教師会
インド体験活動プログラム (インド工科大学マドラス校での学生交流と文化体験活動-日本語教育ワークショップ・企業訪問を通して) 実施
国際連携特別実習 (カリフォルニア工科大学 COIL 型教育) 実施
就職支援短期集中講座・内定者・OB 講話会 (留学生就職促進プログラム)
- 3 月 第 24 回工学系研究科日本語教育年次報告会
2025 年度 S1S2 時間割を HP に掲載、登録開始

第2章 日本語教育の実践と運営

2.1 概要

日本語科目は留学生を対象としており、2015年度に単位化されて以来、原則1コマ2単位が付与されている。レベルは入門から上級2まで7レベルに分かれており、総合、聴解、会話、読解、文章とその他のコース（専門語彙・漢字、多文化理解プロジェクト、日本語キャリアブリッジ、日本語キャリアデザイン）がある。開講日程は工学系研究科の学事日程に倣い、4月からS1S2（14週間）、10月からA1A2（14週間）となっている。各学期の時間割、概要、シラバスは、日本語教育コースのホームページに掲載されている（<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>）。授業は1コマ105分で、1限目8時30分～10時15分、2限目10時25分～12時10分、3限目13時～14時45分、4限目14時55分～16時40分である。日本語教育コースのオフィスは工学部8号館1階128B号室、非常勤講師室は2階88S号室である。当コースは工学部8号館を中心に授業を行っている。

表1 日本語教育コース レベル別コース

*（ ）内はコマ数、入門はS2/A2に開講

スキル レベル	総合			聴解	会話	読解	文章	その他
	レギュラー	インテンシブ						
初級 1 & 初級 2	初級 1 (3)	インテンシブ 初級Ⅰ (5)	* 入門 (3)					
	初級 2 (2)							
初級 3 & 初級 4	初級 3 (2)	インテンシブ 初級Ⅱ (4)						
	初級 4 (2)							
中級 1	総合 (2)			聴解 (1)	会話 (1)	専門読解 (1)	文章 (1)	
中級 2	総合 (2)			聴解 (1)	会話 (1)	読解 (1)	文章 (1)	専門語彙・漢字 (1)
中級 3	総合 (2)			聴解 (1)	会話 (1)	専門読解 (1)	文章 (1)	多文化理解 プロジェクト(1)
								日本語キャリア ブリッジ(1)
上級 1	総合 (2)			聴解 (1)	会話 (1)	読解 (1)	文章 (1)	日本語キャリア デザイン(1)
上級 2	総合 (1)			聴解 (1)	会話 (1)	読解 (1)	文章 (1)	

2.2 コースデザインの特徴

日本語教育コースでは、レギュラーコースのほか、インテンシブコースやスキル別コース

など、多様なコースを提供している。また、工学系および情報理工学系の大学院生が主な対象者であることを踏まえ、中上級レベルでは、工学系に特化した日本語科目を開講している。さらに、専門分野の授業や実験と並行して出席できるよう、コース選択にバリエーションを持たせた時間割を設定している。以下に、日本語科目の特徴をまとめた。

(1) バリエーション豊かな初級日本語コース

工学系研究科では、研究活動に用いる言語は主に英語であるが、日本での研究・留学生活には、やはり基礎的な日本語の運用力が必要となる。そこで、さまざまな留学生のニーズに合わせた多様な初級日本語コースを提供している。

- ・レギュラーコース : 週 2 回 計 2 コマ (初級 1 は計 3 コマ)
- ・インテンシブ初級 I コース : 週 3 回 計 5 コマの集中コース
- ・インテンシブ初級 II コース : 週 2 回 計 4 コマの集中コース
- ・入門コース : S2/A2 から開始する週 2 回 計 3 コマ

レギュラーコースは、初級 1、2、3、4 に分かれており、修士・博士の学生が専門科目と両立させながら日本語を習得するコースである。インテンシブコースは、集中的かつ効率的に基礎的な日本語を習得するコースで、インテンシブ初級 I はレギュラーコースの初級 1 と 2 の内容、インテンシブ初級 II は、レギュラーコースの初級 3 と 4 の内容を S1S2 または、A1A2 で修了する。入門コースは S2 および A2 に開講され、基礎的な日本語の口頭表現に焦点を絞って習得するコースである。このように、学習時間数、開講日にバリエーションを持たせ、多様なニーズを持つ留学生が学習目的や学習状況によって日本語を学べるようなコース展開となっている。

(2) スキル別の中級・上級日本語コース

中級 1～3 および上級 1・2 レベルは、総合コースの他、聴解、会話、読解、文章のコースを設け、スキル別に日本語が学べるコースデザインにしている。スキル別により、多忙な工学系留学生が実験や専門授業の合間に、自分が伸ばしたいスキルのコースを選択して受講することができるようになっている。上級 2 レベルについては、2024S1S2 学期より新たに聴解、読解コースを開講し、現在はすべてのレベルで多様なスキルを受講できるようになっている。

(3) 工学系に特化した専門日本語教育

日本語教育コースは、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の学生などを主な対象としていることから、生活で使われる日本語だけでなく、研究室でよく用いられる専門的な語彙や表現の指導も行っている。そのコースの一つである「中級 1 専門読解」では、東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事に基づいた東京大学オリジナル

のオンライン読解教材を大学総合教育研究センターと共同で開発した。この教材は東京大学の研究内容に関する文章の読解、語彙、文型、表現の習得を目指している。「中級2 専門語彙・漢字」では、当教室のコーパス研究チームで調査・研究した結果をもとに、専門語彙・漢字教育を行っている。「中級3 専門読解」では、中級1 専門読解と同様に、『Ttime!』の記事をもとに作成した工学系の研究内容に関する文章を読み、専門分野に関する語彙力、読解力の育成を目指している。このように、日本語教育コースで工学系に特化したオリジナル教材を作成し、日本語教育を実施している。

2.3 コースの履修プロセス

コースの履修登録のプロセスは、次の通りである（図1 参照）。開講1 か月前に日本語教育コースのHPに時間割・概要・シラバスを掲載し、各専攻事務室に周知した後、STAR（Student Tools for Access and Review）システムを通したオンラインコース登録を開始する。

日本語教育コースで運営するコース履修を希望する学生は、レベル判定のためのプレイスメントテストを受ける。まず、「Can Do Statements（巻末資料参照）」に基づいて作成した日本語レベルを自己評価し、そのレベルに基づき、スキル別（文法、読解、聴解、作文）のテストを受ける。その判定結果に応じて表示される履修可能なコースから希望科目を選び、登録する。

このように、オンライン上で登録が可能のため、渡日前に日本語コースを決定することができる。

各コースの第1 週目はオリエンテーション・ウィークである。教師はオリエンテーションガイドに沿ってコースのレベルや内容、スケジュールの説明を行う。また、履修登録をした留學生がそのコースのレベルに合っているかどうかを確認し、レベル変更を希望する留學生には適宜レベル相談を行う。

開講期間中には、日本語の講義の実施以外に、文化体験として茶道体験や着物体験、浴衣や書道のワークショップなど、様々な文化的なイベントを企画し開催している。他にも、シニアボランティアとの自由会話を行うビジターセッション、日本人学生や他の留學生と交流する International Lounge（IL）の開催、日本人学生の授業ボランティアとしてのクラス参加など、日本人と留學生との活発な交流支援を行う。

開講期間終了後、規定の要件を満たした学生には、希望に応じて修了証が発行される。

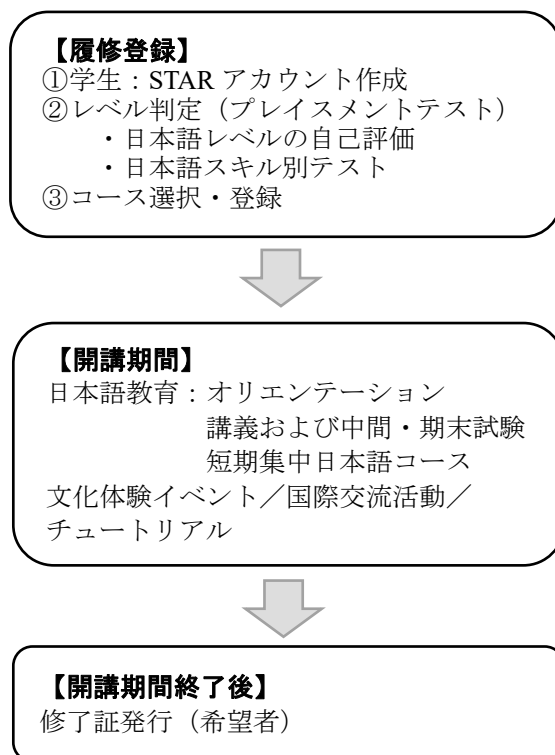


図1 コース履修のプロセス

2.4 日本語教育コースのシラバスおよび報告

本節では、2024 年度に実施した各コースのシラバスと授業実践報告および冬季日本語特別集中科目 1、チュートリアルセッション、ビジターセッション・日本文化体験についての活動報告を行う。

シラバスならびに授業実践報告は、「冬季日本語特別集中科目 1」を除き、2024S1S2 における報告であるが、2024A1A2 においてもすべて同じコースを開講した。

入門

2024年度S1S2

レベル	: 入門
スキル	: 総合
開講期間	: 2024/ 06/ 04 - 2024/ 07/ 24
時間	: 13:00 - 14:45 火曜日 14:55 - 16:40 火曜日 13:00 - 14:45 木曜日
場所	: 火曜日：工学部8号館 88L教室 木曜日：工学部8号館 88M教室 (教室変更の場合は周知あり)
学習目標	: 初級前半の文型を習得し、日常生活での基本的なコミュニケーションができる。 カタカナ、ひらがなを認識できる。
対象	: はじめて日本語を勉強する人。短期滞在者対象。
テキスト	: ・『Basic Japanese for Students はかせ1』(スリーエーネットワーク) ・まるごとプラス Learning Japanese (https://a1.marugotoweb.jp/en/index.php)
評価	: 教室活動5%、語彙クイズ10%、かなクイズ10%、課題15%、中間試験20%、期末試験25%、期末発表15% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上、2) 期末試験を受験。 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間や期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位3認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード: 大学院3799-901-1, 学部FEN-JL4m01L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して、オリエンテーションを受けてください。
担当	: 劉 羅麟 Liu Luolin, 中村 亜美 NAKAMURA Ami nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	6/ 4	火	オリエンテーション, L0
2	6/ 4	火	L1, カタカナ 1, 語彙クイズL1
3	6/ 6	木	L2, カタカナ 2, 語彙クイズL2
4	6/ 11	火	L3, カタカナ 3, 語彙クイズL3&4
5	6/ 11	火	L4, カタカナ 4
6	6/ 13	木	L5, カタカナ 5, 語彙クイズL5, 課題①
7	6/ 18	火	L6, カタカナ 6, 語彙クイズL6&7, 課題②
8	6/ 18	火	L7, カタカナ復習
9	6/ 20	木	L1-7復習, カタカナクイズ, 課題③
10	6/ 25	火	中間試験
11	6/ 25	火	L8, ひらがな 1
12	6/ 27	木	L9, ひらがな 2, 語彙クイズL8&9, 期末発表(導入)
13	7/ 2	火	L11, ひらがな 3, 語彙クイズL11&12, 課題④
14	7/ 2	火	L12, ひらがな 4

15	7/ 4	木	L13, ひらがな 5, 語彙クイズL13, 課題⑤, 期末発表（ドラフト提出）
16	7/ 9	火	L14, ひらがな 6, 語彙クイズL14
17	7/ 9	火	ひらがな復習, 期末発表（ドラフト書き直し）
18	7/ 11	木	L1-14復習, ひらがなクイズ
19	7/ 16	火	休講
20	7/ 16	火	休講
21	7/ 18	木	期末試験
22	7/ 23	火	期末発表（最終ドラフトとPPTの確認, 練習）
23	7/ 23	火	期末発表

入門

報告者：劉 羅麟・中村 亜美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

入門コースは、ゼロ初級の日本語学習者を対象とする科目である。特に、新学期開始以降に来日した学習者や、スケジュールなどの関係で初級 1 コースの履修が難しい学習者を対象に、ひらがなとカタカナの読み書きおよび日常生活において必要な表現・語彙を習得することを目的としている。S2 学期（A2 学期）に開講し、週 2 日で 3 コマ、計 7 週間の授業を行った。教科書は『はかせ 1』（スリーエーネットワーク）を用い、授業は主に 1) 新出語彙の導入、2) 文型の説明と練習、3) ロールプレイ会話などによる応用練習、4) 仮名の練習の流れで行った。

【授業の内容】

7 週間という短い授業期間のため、『はかせ 1』の L1～9 および L11～14 を扱った。教科書のトピックに沿って授業を進め、日常挨拶、数字、時刻と曜日、動詞、形容詞などを導入し、それを用いた簡単な会話練習を通して知識の定着を図った。教科書にはローマ字が併記されているが、ひらがなとカタカナの読み書きも練習し、今後の日本語学習に繋がるように指導した。仮名クイズ・中間試験・期末試験のような筆記試験以外、期末発表で履修者の口頭での応用能力を評価した。

2. その他

授業前には予習型の語彙クイズが設けられており、そのため各課の導入前に履修者が各自語彙を勉強したうえでオンラインでクイズを受けた。また、学期を通して 5 回の課題を宿題として配布した。この課題では、学習者が文字に親しみを持てるよう、レストランのメニューなどからカタカナのことはさがす「カタカナハンティング」や習った表現を使用し作文を書く「日記」などの練習を行った。授業には数名の日本人学生がボランティアとして参加し、履修者の日本語学習をサポートした。日本語という言語の学習を介して、ボランティアたちも履修者と互いの習慣や文化について話し合い、異文化交流を楽しんでいた。

3. まとめ・今後の課題

2024S2 学期は履修者が 6 名のみであったが、全員日本語学習に熱心に取り組んでおり、学期末に 5 名が本コースを修了した。出席率もよく、少人数だったため、口頭練習に時間をかけることができ、ボランティアの学生と実践的な会話練習もできた。ただ、授業外での学習時間が短かったのか語彙などがなかなか定着しないことがあった。来学期以降は仮名の導入時期・順番など、コースのスケジュールを見直し、必要な修正を行いたいと考える。

インテンシブ初級Ⅰ

2024年度S1S2

レベル	: 初級1&2 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日 10:25 - 12:10 月曜日 08:30 - 10:15 水曜日 10:25 - 12:10 水曜日 08:30 - 10:15 金曜日
場所	: 工学部8号館 123教室(月・水)、324C教室(金)
学習目標	: 入門レベルから初級前半 (L1-22) の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。ひらがな・カタカナが書けるようになる。日本語能力試験N5相当の漢字を110字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: はじめて日本語を勉強する人
テキスト	: 『大地1 メインテキスト』 (スリーエーネットワーク) 電子書籍あり※ 『大地1 文型説明と翻訳』 (スリーエーネットワーク) 電子書籍あり※ 『にほんごチャレンジ かんじN4-5』 (アスク) ※勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。
評価	: 教室活動5%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、聴解クイズ5%、作文課題10%、かなクイズ5%、文法クイズ10%、中間発表5%、中間試験20%、期末発表10%、期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上、2) 期末試験を受験。 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間や期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位10認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード: 大学院 3799-910-1, 学部 FEN-JL4m12L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. 授業のスピードが速いため、十分な予習と復習が必要である。 8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して、オリエンテーションを受けてください。
担当	: 劉 羅麟 Liu Luolin, 中村 亜美 NAKAMURA Ami, 武田 聡子 TAKEDA Satoko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	オリエンテーション, L0(日常の表現, 学習ウェブサイト), VQ(語彙クイズ)1
2	4/ 8	月	L1, ひらがな(1)
3	4/ 8	月	L1, ひらがな(2)
4	4/ 10	水	L2, ひらがな(3), VQ2 due
5	4/ 10	水	L2, ひらがな(4)
6	4/ 12	金	休講
7	4/ 15	月	練習(L1&2), ひらがな復習 1, VQ3 due
8	4/ 15	月	L3, ひらがな(5)
9	4/ 17	水	L3, ひらがな(6), VQ4 due
10	4/ 17	水	L4, ひらがな(7)
11	4/ 19	金	L4, ひらがな復習 2

12	4/ 22	月	練習(L3&4), ひらがなクイズ, VQ5 due
13	4/ 22	月	L5, ひらがなのフィードバック
14	4/ 24	水	L5, カタカナ(1), VQ6 due
15	4/ 24	水	L6, カタカナ(2)
16	4/ 26	金	L6, カタカナ(3), LQ(聴解クイズ)1 due
17	4/ 29	月	祝日
18	4/ 29	月	祝日
19	5/ 1	水	練習(L5&6), カタカナ(4)
20	5/ 1	水	まとめ1, 復習(L1-6), カタカナ復習 1
21	5/ 3	金	祝日
22	5/ 6	月	祝日
23	5/ 6	月	祝日
24	5/ 7	火	【月曜授業振替】 L7, カタカナ(5), VQ7 due, LQ2 due
25	5/ 7	火	【月曜授業振替】 L7, カタカナ(6)
26	5/ 8	水	L8, カタカナ復習 2, VQ8 due
27	5/ 8	水	L8, カタカナクイズ
28	5/ 10	金	練習(L7&8), カタカナのフィードバック
29	5/ 13	月	L9, Kanji#1-5, VQ9 due, Wri(作文課題)1 due
30	5/ 13	月	L9, Kanji#6-10
31	5/ 15	水	【金曜授業振替】 L10, VQ10 due, KQ(漢字クイズ)1-10 due, Wri2 due
32	5/ 15	水	休講
33	5/ 17	金	L10, Kanji#11-15
34	5/ 20	月	練習(L9&10), Kanji#16-20, VQ11 due, LQ3 due
35	5/ 20	月	L11
36	5/ 22	水	L11, Kanji#21-25, 中間発表(導入), VQ12 due, KQ11-20 due
37	5/ 22	水	L12, Kanji#26-30
38	5/ 24	金	休講
39	5/ 27	月	L12, Kanji#31-35, KQ21-30 due
40	5/ 27	月	練習(L11&12), 中間発表(サポート)
41	5/ 29	水	中間発表
42	5/ 29	水	まとめ2, 復習(L1-12)
43	5/ 30	木	【金曜授業振替】 L13, Kanji#36-40, VQ13 due
44	5/ 31	金	休講
45	6/ 3	月	中間試験(L1-12)
46	6/ 3	月	L13, Wri3 due
47	6/ 5	水	練習(L13), Kanji#41-45, VQ14 due, KQ31-40 due
48	6/ 5	水	L14, Kanji#46-50
49	6/ 7	金	L14, KQ41-50 due
50	6/ 10	月	練習(L14), 漢字復習 1-50, 文法クイズ 1 (辞書形), VQ15 due, LQ4 due
51	6/ 10	月	L15
52	6/ 12	水	L15, Kanji#51-55, KQ1-50 due
53	6/ 12	水	練習(L15), Kanji#56-60, 中間試験のフィードバック
54	6/ 14	金	L16, Kanji#61-65, 文法クイズ 2 (て形), VQ16 due, KQ51-60 due
55	6/ 17	月	L16, Kanji#66-70, Wri4 due
56	6/ 17	月	練習(L16)
57	6/ 19	水	L17, Kanji#71-75, VQ17 due, KQ61-70 due

58	6/ 19	水	L17, Kanji#76-80
59	6/ 21	金	練習(L17), 文法クイズ 3 (ない形)
60	6/ 24	月	L18, Kanji#81-85, VQ18 due, KQ71-80 due, Wri5 due
61	6/ 24	月	L18, Kanji#86-90
62	6/ 26	水	練習(L18), まとめ3, 復習(L13-18), 文法クイズ 4 (た形), VQ19 due, KQ81-90 due
63	6/ 26	水	L19, Kanji#91-95
64	6/ 28	金	L19, Kanji#96-100, LQ5 due
65	7/ 1	月	練習(L19), 文法クイズ 5 (普通形), VQ20 due, KQ91-100 due
66	7/ 1	月	L20, Kanji#101-105, 期末発表(導入)
67	7/ 3	水	L20, Kanji#106-110
68	7/ 3	水	練習(L20), 期末発表(テーマ決定)
69	7/ 5	金	L21, VQ21 due, KQ101-110 due
70	7/ 8	月	L21, Wri6 due
71	7/ 8	月	練習(L21), 漢字復習 51-110
72	7/ 10	水	L22, 期末発表(1st Draft提出), VQ22 due, KQ51-110 due
73	7/ 10	水	L22
74	7/ 12	金	練習(L22), LQ6 due
75	7/ 15	月	祝日
76	7/ 15	月	祝日
77	7/ 17	水	休講
78	7/ 17	水	休講
79	7/ 19	金	まとめ4, 復習(L13-22)
80	7/ 22	月	期末試験(L1-L22)
81	7/ 22	月	期末発表(1st Draft書き直し)
82	7/ 24	水	期末発表(Final DraftとPPTのチェック, 練習)
83	7/ 24	水	期末発表

インテンシブ初級 I

報告者：劉 羅麟・中村 亜美・武田 聡子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、はじめて日本語を学ぶ学習者を対象とした初級のインテンシブコースである。授業は週3回行われ、週5コマである。主教材として、『日本語初級1 大地』（スリーエーネットワーク）を使用した。学習目標として、初級前半（L1-22）の文型および語彙を学習することで、総合的な日本語の運用力を身につけることを挙げた。文字については、ひらがなやカタカナのほか、日本語能力試験 N5 相当の漢字を 110 字習得することを目標として、『にほんごチャレンジかんじ N4-5』（アスク）を用いて指導を行った。

【授業の内容】

本コースにおける内容および進度は、概ね次の通りである。授業前には履修者が各自語彙リストを参照しながら語彙を学習した後、オンラインの語彙クイズを受けた。授業では教科書に沿って各課の内容を2コマで学習し、語彙の発音や使い方の確認、文型の導入、パターンプラクティス、短い作文やロールプレイ会話で練習を行った。その後、1コマを使って学習した内容の応用練習を行った。授業後は、聴解クイズ、漢字クイズ、作文課題などで、履修者の習得状況を随時確認していた。

2. その他

各種クイズや定期試験のような筆記試験以外、中間発表・期末発表で履修者の口頭での応用能力を評価した。中間発表では国や町、楽しかった日の紹介、期末発表では趣味、家族、友達、将来から好きなテーマを選び発表した。原稿をすべて覚えて発表するクラスメートに刺激を受けている様子も見られた。また、学習した表現を用いた質疑応答も活発に行われた。

3. まとめ・今後の課題

2024S1S2 学期は履修者が 27 名、とても賑やかなクラスになった。実際に受講した 22 名のうち、16 名が本コースを修了した。2 コマ続きの授業では、課が進むにつれ学習内容が増え、疲れが見られることもあったが、前向きに授業に取り組み、積極的にクラス内の活動に参加していた。ただし、金曜日の1コマの授業では、月・水曜日と比べて出席者が少ない傾向があった。インテンシブコースという性質上、各回の授業に出席しないことで学習の進度に付いていくことが難しくなる場合がある。そのため、来学期はスケジュールや授業内容に緩急をつけて、できるだけ履修者にとって負担の少ない形に改善していきたいと考える。また、履修者が多い場合は教員による個別サポートに限界があるため、日本人学生の授業ボランティアの導入を検討し、個々人の学習スタイルに合わせて学習支援を行いたい。

初級1

2024年度S1S2

レベル	: 初級1 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 月曜日 10:25 - 12:10 水曜日 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 324C教室
学習目標	: 入門レベルから初級前半 (L1-12) の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。ひらがな・カタカナが書けるようになる。日本語能力試験N5相当の漢字を50字習得する。基本的なコミュニケーションができる。
対象	: はじめて日本語を勉強する人
テキスト	: 『大地1 メインテキスト』（スリーエーネットワーク）電子書籍あり※ 『大地1 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）電子書籍あり※ ※勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。
評価	: 教室活動5%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、聴解クイズ5%、作文課題5%、かなクイズ5%、文法クイズ5%、中間発表10%、中間試験20%、期末発表10%、期末試験25% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上、2) 期末試験を受験。 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間や期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合は評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位6認定（ただし、単位が不要な学生も履修可） UTASコード：大学院3799-904-1、学部FEN-JL4m20L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して、オリエンテーションを受けてください。
担当	: 東平 福美 HIGASHIHIRA Fukumi, 劉 羅麟 Liu Luolin, 武田 聡子 TAKEDA Satoko, 鈴木 恵理 SUZUKI Eri, 藤井 明子 FUJII Akiko, 市原 明日香 ICHIHARA Asuka, 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri, ハワード 文江 HOWARD Fumie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	オリエンテーション, L0(日常の表現, 学習ウェブサイト)
2	4/ 8	月	L1(1,2), ひらがな(1) あ、か、が行
3	4/ 10	水	L1(3,4), ひらがな(2) さ、ざ、た、だ行
4	4/ 12	金	休講
5	4/ 15	月	L1(5,P=練習), VQ(語彙クイズ)1, ひらがな(3) な、は、ば、ば行
6	4/ 17	水	L2(1,2), ひらがな(4) ま、や行, VQ2 due
7	4/ 19	金	L2(3,4,5), ひらがな(5) ら行、わ、を、ん
8	4/ 22	月	L2(6,7,P), ひらがな復習 1
9	4/ 24	水	L3(1,2), ひらがな(6) 拗音やゆよ & 促音っ, VQ3 due
10	4/ 26	金	L3(3,4), ひらがな(7) 長音
11	4/ 29	月	祝日

12	5/ 1	水	L3(P), L4(1), ひらがな復習 2, VQ4 due
13	5/ 3	金	祝日
14	5/ 6	月	祝日
15	5/ 7	火	【月曜授業振替】 L4(2,3), カタカナ(1) ア、カ、ガ、サ、ザ行
16	5/ 8	水	L4(4,P), ひらがなクイズ
17	5/ 10	金	L5(1,2), カタカナ(2) タ、ダ、ナ、ハ、バ、パ行, VQ5 due
18	5/ 13	月	L5(3,4), カタカナ(3) マ、ヤ、ラ行、ワ、ヲ、ン, Wri(作文課題)1 due
19	5/ 15	水	【金曜授業振替】 L5(5,P), カタカナ復習 1, LQ(聴解クイズ)1 due
20	5/ 17	金	L6(1,2), カタカナ(4) 拗音ヤユヨ & 促音ツ & 長音 & 外来語の音, VQ6 due
21	5/ 20	月	L6(3,4), カタカナ復習 2
22	5/ 22	水	L6(5,P), カタカナクイズ
23	5/ 24	金	休講
24	5/ 27	月	復習(L1-L6), まとめ1, 文法クイズ-1(動詞の活用), LQ2 due
25	5/ 29	水	中間試験(L1-6)
26	5/ 30	木	【金曜授業振替】 L7(形容詞導入,1), Kanji(漢字)#1-5, VQ7 due
27	5/ 31	金	休講
28	6/ 3	月	L7(2,3), Kanji#6-10
29	6/ 5	水	L7(4,P), 中間発表(導入), KQ(漢字クイズ)1-10 due
30	6/ 7	金	L8(1,2), Kanji#11-15, VQ8 due
31	6/ 10	月	L8(3,5), Kanji#16-20
32	6/ 12	水	L8(4), 中間試験のフィードバック, KQ11-20 due
33	6/ 14	金	L8(P), 中間発表
34	6/ 17	月	L9(1,2), Kanji#21-25, VQ9 due
35	6/ 19	水	L9(3,4), Kanji#26-30
36	6/ 21	金	L9(P), L10(1), KQ21-30 due
37	6/ 24	月	L10(2,4), Kanji#31-35, VQ10 due
38	6/ 26	水	L10(3,P), Kanji#36-40, LQ3 due
39	6/ 28	金	L11(1,2), 期末発表(導入), VQ11 due, KQ31-40 due
40	7/ 1	月	L11(3,4), Kanji#41-45, 期末発表(テーマ決定), Wri2 due
41	7/ 3	水	L11(5,P), Kanji#46-50
42	7/ 5	金	L12(1,3), 期末発表(1st Draft提出), VQ12 due, KQ41-50 due
43	7/ 8	月	L12(2,P), 漢字復習#1-50, LQ4 due
44	7/ 10	水	まとめ2, 期末発表(フィードバック & 書き直し), KQ1-50 due
45	7/ 12	金	復習(L1-L12), 文法クイズ-2(形容詞の活用)
46	7/ 15	月	祝日
47	7/ 17	水	休講
48	7/ 19	金	期末発表(Final DraftとPPTのチェック & 練習)
49	7/ 22	月	期末試験(L1-12)
50	7/ 24	水	期末発表

初級 1

A クラス： 東平 福美・劉 羅麟・武田 聡子

B クラス： 鈴木 恵理・藤井 明子・劉 羅麟

C クラス： 市原 明日香・片岡 さゆり・ハワード 文江

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

授業は月・水・金の各 1 コマで行った。『大地 1』（スリーエーネットワーク）の L1～L12 を扱い、初級前半の文法項目の定着ならびに読む・書く・聞く・話すという四技能をバランスよく伸ばすことを目指した。また、ひらがなとカタカナを導入した後、『にほんごチャレンジ N4-5 かんじ』（アスク）の L5 までの 50 字を、漢字シートを配布して指導した。

【授業の内容】

新しい課に入る授業の前には、オンラインの語彙クイズを満点が取れるまで受けるように学生に指示し、語彙の定着を図った。授業では、文型の導入、基本練習、応用練習を実施し、口頭練習を心掛けた。授業後には、教科書の会話文を元に作成した聴解課題のほか、作文課題や漢字クイズで聞く・書く・読む力の向上を目指した。定期試験の前には、教科書のまとめの単元、自作の復習プリント、副教材のリスニングなどを使って復習を実施した。

2. その他

仮名クイズ・文法クイズ・中間試験・期末試験のような筆記試験以外、中間発表・期末発表で履修者の口頭での応用能力を評価した。中間発表では、クラスや研究室など身近な友人にインタビューしたうえで、その結果をタスクシートにまとめてクラスで紹介してもらった。期末発表では、一学期の学習成果の確認として、国やふるさと、旅行、好きなものの人や物などに関する期末発表を実施した。

3. まとめ・今後の課題

A クラス：学期開始時に 20 名が登録し、最終的に 9 名が修了した。個人差を考慮し、ボトムアップで語彙や文法の定着を図った。曜日や授業内容によって出席者数にばらつきがあった。来学期は持続参加を促し、聴解や会話練習を増やし四技能を満遍なく伸ばしたい。

B クラス：学期開始時に 17 名が登録し、最終的に 13 名が修了した。コース初日から全員出席という真面目さ、積極性がコース期間中、継続されていた。積極的に授業に参加し、授業後も質問しに来る学生が多く、常に活発な雰囲気、楽しく学習できたクラスであった。

C クラス：学期開始時に 16 名が登録し、最終的に 6 名が修了した。研究活動で忙しく、出席率が僅かに不足した学生がいた。全体的に教室活動に積極的に参加し、期末発表では質疑応答も活発に行われた。活動時、学生同士のコミュニケーションもよく取れていた。

初級2

2024年度S1S2

レベル	: 初級2 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日 08:30 - 10:15 水曜日
場所	: 工学部8号館 324B(月) 324C(水)
学習目標	: 初級前半 (L13-22) の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N5相当の漢字を60字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人、またはCEFR A1.1相当
テキスト	: 『大地1 メインテキスト』 (スリーエーネットワーク) 電子書籍あり※ 『大地1 文型説明と翻訳』 (スリーエーネットワーク) 電子書籍あり※ ※勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。
評価	: 教室活動5%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、聴解クイズ5%、作文課題10%、文法クイズ15%、中間発表5%、中間試験20%、期末発表10%、期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上、2) 期末試験を受験。 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間や期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード: 大学院3799-905-1, 学部FEN-JL4m30L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 鈴木 恵理 SUZUKI Eri, 劉 羅麟 Liu Luolin, 猪狩 美保 IGARI Miho, 藤井 明子 FUJII Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	月	オリエンテーション、レベルチェッククイズ
2	4/ 10	水	L13(1,2), Kanji#51-55
3	4/ 15	月	L13(3,4), Kanji#56-60, VQ(語彙クイズ)13
4	4/ 17	水	L14(1,2), KanjiReview#51-60, VQ14 due
5	4/ 22	月	L14(3,4,5), LQ(聴解クイズ)1 due, KQ(漢字クイズ)51-60 due
6	4/ 24	水	L15(1,2), Kanji#61-65, 文法クイズ-1(辞書形), VQ15 due
7	4/ 29	月	祝日
8	5/ 1	水	L15(3,4,5), Kanji#66-70, Wri(作文課題)1 due
9	5/ 6	月	祝日
10	5/ 7	火	【月曜授業振替】 L16(1,2), KanjiReview#61-70, 文法クイズ-2(て形), VQ16 due
11	5/ 8	水	L16(3,4), 中間発表(導入), KQ61-70 due
12	5/ 13	月	L17(1,2), Kanji#71-75, VQ17 due
13	5/ 15	水	休講

14	5/ 20	月	L17(3,4), Kanji#76-80, Wri2 due
15	5/ 22	水	復習(L13-17), KanjiReview#71-80, 文法クイズ-3(ない形), LQ2 due
16	5/ 27	月	中間試験(L13-17)
17	5/ 29	水	中間発表, KQ71-80 due
18	6/ 3	月	L18(1,2), Kanji#81-85, VQ18 due
19	6/ 5	水	L18(3,4), Kanji#86-90
20	6/ 10	月	L19(1,2), KanjiReview#81-90, まとめ3, 文法クイズ-4(た形), VQ19 due
21	6/ 12	水	L19(2,3), KQ81-90 due, Wri3 due
22	6/ 17	月	L20(1,2), Kanji#91-95, 文法クイズ-5(普通形), VQ20 due
23	6/ 19	水	L20(2), Kanji#96-100, Wri4 due
24	6/ 24	月	L21(1,2), KanjiReview#91-100, 期末発表(導入), VQ21 due
25	6/ 26	水	L21(2,3), 期末発表(テーマ決定), KQ91-100 due
26	7/ 1	月	L22(1,2), Kanji#101-105, VQ22 due
27	7/ 3	水	L22(3,4), Kanji#106-110, 期末発表(1st Draft提出), LQ3 due
28	7/ 8	月	復習(L13-22), まとめ4, KanjiReview#101-110
29	7/ 10	水	復習シートのフィードバック, 期末発表(Draft書き直し & PPTチェック & 練習), LQ4 due, KQ101-110 due
30	7/ 15	月	祝日
31	7/ 17	水	休講
32	7/ 22	月	期末試験(L13-22)
33	7/ 24	水	期末発表

初級 2

A クラス： 鈴木 恵理・劉 羅麟

B クラス： 猪狩 美保・藤井 明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは週 2 回（1 コマ 105 分）の授業において『大地 1』（スリーエーネットワーク）の後半（L13～L22）を 1 課 2 コマのペースで扱い、既習文法を確認しつつ、新しい文法項目の定着ならびに運用力の向上を目指した。並行して、漢字学習として N5 レベルの漢字（後半）60 字を導入した。

【授業の内容】

新しい課に入る授業の前には、語彙クイズをオンラインで実施し、語彙の定着を図った。授業では新出語彙の発音や使い方を確認したうえで、文型の導入、基本練習、応用練習を行った。並行して、漢字の導入や練習を授業内で行った。授業後には学習した漢字や漢字語彙を扱った漢字クイズ、教科書をベースに作成した聴解クイズや作文課題などを適宜、宿題として課し、学習内容の定着を図った。学期中は、て形やない形などのような重要な動詞の活用を学習した後に、タイミングをはかって文法クイズを実施し、習得状況を確認した。

2. その他

学期半ばには、作文課題で書いた内容をさらに改善し、家族や友人をテーマに中間発表を行った。学期末には、当該コースで学んだ文型や語彙を使いこなし、それぞれのテーマについて原稿を作成し、それをもとに PPT を使用しながら期末発表を実施した。発表の際には一方的に話すのではなく、スピードやアイコンタクトを意識して発表し、発表後は日本語を使ってクラスメートと Q&A を行います。

3. まとめ・今後の課題

A クラス：学期開始時には 22 名が登録し、最終的には 10 名が修了した。新しい学びを面白いと感じ、授業に真面目に取り組む学生が多かった。そのおかげで、学期の後半に授業内容が難しくなったり、専攻のほうで忙しくなったりする場合も多いものの、コース終了までクラスの雰囲気が明るく保たれていた。今後は理工系の学生がよく遭遇する場面をピックアップし、学習項目の応用練習をうまくアレンジしていきたい。

B クラス：学期開始時には 22 名が登録し、最終的には 9 名が修了した。各学習者が自分なりのペースで学習を進めることができ、それぞれの目標が達成できた。専門の授業や研究活動で忙しく、コースの途中で継続が難しくなる学生も見られたが、修了者は熱心に参加していた。今後は学習項目の定着と口頭能力の向上が実感できるクラス活動を目指したい。

インテンシブ初級Ⅱ

2024年度S1S2

レベル	: 初級3&4 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日 10:25 - 12:10 火曜日 08:30 - 10:15 金曜日 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 722/88L教室
学習目標	: 初級後半(L23-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を200字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当
テキスト	: 『大地2 メインテキスト』（スリーエーネットワーク） 『大地2 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク） 『にほんごチャレンジ かんじN4-5』（アスク）
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、期末試験20%、口頭発表15%（中間口頭発表5%、期末口頭発表10%）、語彙クイズ5%、文法クイズ10%、漢字課題5%、作文課題10% 聴解課題10% ・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位8認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-911-1、学部 FEN-JL4n03L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. 授業のスピードが速いため、十分な予習と復習が必要である。 ＊【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 佐藤 瑞恵 SATO Mizue, 米谷 章子 KOMETANI Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	オリエンテーション レベルチェック 復習 L23(1)
2	4/ 5	金	L23(1) 漢字L1(111-120)
3	4/ 9	火	L23(2,3) 語彙クイズL23
4	4/ 9	火	L23(2,3) 漢字L2(121-130)
5	4/ 12	金	休講
6	4/ 12	金	休講
7	4/ 16	火	L24 語彙クイズL24
8	4/ 16	火	L24 漢字L3(131-140) 作文課題①
9	4/ 19	金	L25 語彙クイズL25 可能形クイズ 作文課題①提出
10	4/ 19	金	L25 漢字L4(141-150) 聴解課題①
11	4/ 23	火	L26 語彙クイズL26 聴解課題①提出
12	4/ 23	火	L26 漢字L5(151-160)

13	4/ 26	金	L27 語彙クイズL27
14	4/ 26	金	L27 まとめ5 漢字復習L1-L5 漢字課題①(L1-L5)
15	4/ 30	火	L28 語彙クイズL28 漢字課題①(L1-L5)提出
16	4/ 30	火	L28 漢字L6(161-170)
17	5/ 3	金	祝日
18	5/ 3	金	祝日
19	5/ 7	火	休講 (月曜授業のため)
20	5/ 7	火	休講 (月曜授業のため)
21	5/ 10	金	L29 語彙クイズL29
22	5/ 10	金	L29 漢字L7(171-180) 作文課題② 聴解課題②
23	5/ 14	火	L30 語彙クイズL30 作文課題② & 聴解課題②提出
24	5/ 14	火	L30 漢字L8(181-190)
25	5/ 15	水	【金曜授業】 L31 語彙クイズL31
26	5/ 15	水	【金曜授業】 L31 漢字L9(191-200) 中間口頭発表導入
27	5/ 17	金	L32 語彙クイズL32 意向形クイズ
28	5/ 17	金	L32 漢字L10(201-210) 漢字課題②(L6-L10)
29	5/ 21	火	まとめ6 漢字課題②(L6-L10)提出
30	5/ 21	火	復習(L23-L32)
31	5/ 24	金	休講
32	5/ 24	金	休講
33	5/ 28	火	中間試験(L23-L32)
34	5/ 28	火	中間口頭発表
35	5/ 30	木	【金曜授業】 L33 語彙クイズL33
36	5/ 30	木	【金曜授業】 L33 漢字L11(211-220)
37	5/ 31	金	休講
38	5/ 31	金	休講
39	6/ 4	火	L34 語彙クイズL34 条件形クイズ 中間試験フィードバック
40	6/ 4	火	L34 漢字L12(221-230)
41	6/ 7	金	L35 語彙クイズL35
42	6/ 7	金	L35 漢字L13(231-240)
43	6/ 11	火	L36 語彙クイズL36
44	6/ 11	火	L36 漢字L14(241-250) 作文課題③
45	6/ 14	金	L37 語彙クイズL37 受身形クイズ 作文課題③提出
46	6/ 14	金	L37 漢字L15(251-260) 漢字課題③(L11-L15) 聴解課題③
47	6/ 18	火	まとめ7 漢字課題③(L11-L15)提出 聴解課題③提出
48	6/ 18	火	復習 漢字L16(261-270)
49	6/ 21	金	L38 語彙クイズL38
50	6/ 21	金	L38 漢字L17(271-280)
51	6/ 25	火	L39 語彙クイズL39 命令形・禁止形クイズ
52	6/ 25	火	L39 漢字L18(281-290) 聴解課題④
53	6/ 28	金	L40 語彙クイズL40 聴解課題④提出
54	6/ 28	金	L40 漢字L19(291-300) 学期末口頭発表導入 作文課題④
55	7/ 2	火	L41(1-4) 語彙クイズL41 使役形クイズ 作文課題④提出
56	7/ 2	火	L41(1-4) 漢字L20(301-310) 漢字課題④(L16-L20)
57	7/ 5	金	L41(5, 6) 学期末口頭発表準備 発表原稿の書き直し 漢字課題④(L16-L20)提出 第一稿提出

58	7/ 5	金	L41(5, 6)
59	7/ 9	火	L42 語彙クイズL42 尊敬語クイズ
60	7/ 9	火	L42
61	7/ 12	金	まとめ8 復習 謙讓語クイズ
62	7/ 12	金	学期末口頭発表準備 第二稿提出
63	7/ 16	火	休講
64	7/ 16	火	休講
65	7/ 19	金	期末試験
66	7/ 19	金	学期末口頭発表リハーサル PPT提出
67	7/ 23	火	学期末口頭発表
68	7/ 23	火	学期末試験フィードバック

インテンシブ初級Ⅱ

報告者：佐藤瑞恵・米谷章子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『大地2 メインテキスト』、『大地2 文型説明と翻訳』を使用し、2 コマで1 課を扱う形で進行した。漢字学習には『にほんごチャレンジ かんじ』を使用し、日本語能力検定試験 N4 レベルの漢字を学習した。

【授業の内容】

授業外に予習として毎課語彙クイズの受験を課した。授業では、文型導入、基本練習、補助教材を使用して応用練習、会話の練習などを行い、文型の定着を図った。また、各課の会話を用いた聴解および会話練習を通して、学習事項の応用を目指した。文型や「つかいましょう」から発展させ、話し合いやインタビュー活動、ディベートなど、発展的な活動も適宜取り入れて実施した。漢字指導は意味と読み方に重点を置いて行った。

課題として、「日本へ来てできるようになったこと、できなくなったこと」、「私の国にある有名なもの」など4 つのテーマについて作文練習を行った。

2. その他

文法クイズは、各項目を導入・練習後、その次の授業で計8 回あり、聴解課題、漢字課題も定期的に課し、授業で不足しがちな聴解練習と漢字の発展活動を補った。また、期末口頭発表への準備として、中間口頭発表を行い、その反省も踏まえた期末口頭発表では、「3 歳の子供に英語を習わせること」、「高校生にアルバイトをさせること」など、各自が選んだテーマについての意見を発表した。発表で使用する表現、構成などを学んだ後、各自学習した文型・語彙を使用しスクリプトを書き、スライドを作成した。教師は授業内で原稿やり取りのチェックを行った。実際の発表では、準備した内容に基づいて発表し、質疑応答を通して意見を述べ合い、話し合うことができた。

3. まとめ・今後の課題

基本的に1 回2 コマの授業で1 課進み、週2 回というスピードの速いコースであるため、多くの受講者が熱心に参加し、課題や発表などのクラス活動にも取り組んでいた。授業内でも積極的に質問をし、教科書に留まらない発展学習に繋がったことは大変有意義であり、今後もインテンシブコースに合うクラス活動の工夫を進めていきたい。一方、課題の提出が滞ったり、欠席が多くなったりして学習成果が見られず、部分的な伸びに留まったまま修了を迎えてしまった受講者も複数名いた。今後は、開始時にニーズを的確に把握しつつ、受講者の会話力や生活の優先順位に適したコースの登録を徹底したい。

初級3

2024年度S1S2

レベル	: 初級3 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 火曜日 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 324B教室
学習目標	: 初級後半(L23-32)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2相当
テキスト	: 『大地2 メインテキスト』（スリーエーネットワーク） 『大地2 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、期末試験20%、期末口頭発表15%、語彙クイズ5%、漢字課題10%、文法クイズ5%、聴解課題5%、作文課題15%・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 期末試験を受験・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院(3799-908-1)、学部(FEN-JL4n10L1)、 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 猪狩 美保 IGARI Miho, 久田 美菜 HISADA Mina, 東平 福美 HIGASHIHIRA Fukumi, 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	火	オリエンテーション, レベルチェッククイズ
2	4/ 11	木	復習(Dictionary-form, Te-form & Nai-Form), L23 Vocab.
3	4/ 16	火	L23.1, 漢字(#111-115), Vocab.Quiz イン트로
4	4/ 18	木	L23.2-3, Listening&Dialogue, Reading&Writing, 漢字(#116-120), 作文課題①(L23)
5	4/ 23	火	L24 Vocab.Quiz Due, L24.1-2, 漢字(#121-125), 作文課題①(L23)提出
6	4/ 25	木	L24.3-4, L&D, R&W, 漢字(#126-130)
7	4/ 30	火	L25 Vocab.Quiz Due, 文法クイズ(可能形), L25.1-2
8	5/ 2	木	L25.3-4, L&D, R&W, 漢字(#131-135), 聴解課題①
9	5/ 7	火	休講（月曜授業のため）
10	5/ 9	木	L26 Vocab.Quiz Due, L26.1-2, 漢字(#136-140), 聴解課題①提出
11	5/ 14	火	L26.3, L&D, R&W, 漢字(#141-145), 作文課題②(L25&26)
12	5/ 16	木	L27 Vocab.Quiz Due, L27.1, 漢字(#146-150), 作文課題②(L25&26)提出
13	5/ 21	火	L27.2-3, L&D, R&W, 漢字(#151-155), 作文課題③(L27)
14	5/ 23	木	まとめ5, 復習, 漢字(#156-160), 漢字課題①, 作文課題③(L27)提出
15	5/ 28	火	中間試験(L23-27)

16	5/ 30	木	休講（金曜授業のため）
17	6/ 4	火	L28 Vocab.Quiz Due, L28.1,4, 漢字(#161-165), 漢字課題①提出
18	6/ 6	木	L28.2,3, L&D, R&W, 漢字(#166-170), 中間試験フィードバック
19	6/ 11	火	L29 Vocab.Quiz Due, L29.1-2, 漢字(#171-175)
20	6/ 13	木	L29.3-4, L&D, R&W, 漢字(#176-180), 聴解課題②
21	6/ 18	火	L30 Vocab. Quiz Due, L30.1-2, 漢字(#181-185), 聴解課題②締切
22	6/ 20	木	L30.3, L&D, R&W, 作文課題④(L30)
23	6/ 25	火	L31 Vocab.Quiz Due, 文法クイズ(意向形), L31.1-3, 漢字(#186-190), 作文課題④(L30) 提出
24	6/ 27	木	L31.4-5, L&D, R&W, 漢字(#191-195), 期末口頭発表イントロ
25	7/ 2	火	L32 Vocab.Quiz Due, L32.1-2, 漢字(#196-200), 期末口頭発表タイトル提出
26	7/ 4	木	L32.3, L&D, R&W, 漢字(#201-205), 期末口頭発表 1st draft 提出
27	7/ 9	火	まとめ6, 復習, 漢字(#206-210), 漢字課題②, 期末口頭発表 draft修正(2nd draft)
28	7/ 11	木	期末口頭発表練習, PPT締切, 漢字課題②提出
29	7/ 16	火	休講
30	7/ 18	木	期末試験(L23-32)
31	7/ 23	火	期末口頭発表、期末試験フィードバック

初級 3

報告者：A クラス 猪狩美保・久田美菜

B クラス 東平福美・内田あゆみ

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、週 2 回（1 コマ 105 分）展開のコースで『大地 2 メインテキスト』、『大地 2 文型説明と翻訳』を使用し、テキスト前半部分にあたる 23 課から 32 課を扱った。漢字は、N4 レベルの単漢字 100 字と漢字語彙を学習した。テキストの新出語彙は予習型とし、学生は各課の語彙を学習した上で、オンラインで語彙クイズを受けた。授業の練習ではペア・グループワークを取り入れ、学生の積極的な参加を促した。また、学習事項の定着を図るため、課題として作文、聴解、漢字の各課題と文法クイズを学習進度に合わせ実施した。学期中に中間試験、期末試験を実施し、また学期末には期末口頭発表を行った。

【授業の内容】

授業では、テキストの文型・表現の学習と実際の運用スキルの習得を目指し、テキストの練習を中心にさまざまな運用練習を行った。初級前半から後半への移行段階であるこのコースでは、必要に応じて初級前半の既習文法の復習も取り入れながら進めた。作文課題と漢字課題では、タイピングに加え、手書きで課題を作成することにより、学習項目の定着を促した。学期末には、コースで学習したことを活用し、各学生が日本語で口頭発表を行った。「日本に留学した理由」、「日本で経験したこと」など、各自が一つのテーマを選び、発表原稿や資料の作成、発表の練習など、段階的に準備を進めた。各教員も学生一人一人の進捗状況を確認しながら個別にフィードバックを行うなど、きめ細かな指導を行った。

2. その他

A・B クラスの 2 クラス編成で授業を実施したが、両クラスのレベルや授業の進度・内容は同じである。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞修了者 7 名は、全員非漢字圏の学生だったが、漢字を含め日本語や日本文化に大きな関心を持ち、熱心に学習していた。学生同士の絆も強く、課題に取り組む際には助け合い、気づきを共有している姿が随所に見られた。今後は、さらに学習事項を定着・応用できるようなクラス活動を考え、実施していきたい。

＜B クラス＞学期当初から少人数クラスで、修了者は 5 名であった。出席率もよく、課題、授業中のタスク、練習等、積極的に取り組む学生がほとんどで、皆リラックスした状態で良い雰囲気学んでいた。今後は、A クラス同様、学習事項をより定着・応用させられるような授業展開を目指したい。

初級4

2024年度S1S2

レベル	: 初級4 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日 08:30 - 10:15 木曜日
場所	: 工学部8号館 324B教室
学習目標	: 初級後半(L33-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 初級3の修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A2.1相当
テキスト	: 『大地2 メインテキスト』(スリーエーネットワーク) 『大地2 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、期末試験20%、期末口頭発表10%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、文法クイズ12%、作文課題13%、聴解課題10% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-909-1、学部FEN-JL4n20L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 *【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 猪狩 美保 IGARI Miho, 久田 美菜 HISADA Mina, 東平 福美 HIGASHIHIRA Fukumi, ハワード 文江 HOWARD Fumie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	火	Orientation, Level check Quiz
2	4/ 11	木	Review, L33 Vocabulary introduction
3	4/ 16	火	L33.1(1-1~1-7), L33 Vocab.quiz(trial)
4	4/ 18	木	L33.1(1-8)&2, Listening & Dialogue, 漢字(211-215)
5	4/ 23	火	L34.1, 2&3(3-1), L34 Vocab.quiz, 文法クイズ1(条件形), 漢字(216-220)
6	4/ 25	木	L34.3(3-2)&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(211-220), 漢字(221-225)
7	4/ 30	火	L35.1&2, L35 Vocab.quiz, 漢字(226-230)
8	5/ 2	木	L35.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(221-230), 漢字(231-235), 作文課題①
9	5/ 7	火	休講 (月曜授業のため)
10	5/ 9	木	L36.1&2, L36 Vocab.quiz, 漢字(236-240), 作文課題①提出
11	5/ 14	火	L36.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(231-240), 漢字(241-245), 作文課題②
12	5/ 16	木	L37.1&2, L37 Vocab.quiz, 文法クイズ2(受身形), 漢字(246-250), 作文課題②提出

13	5/ 21	火	L37.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(241-250), 漢字(251-255), 聴解課題①(L37)
14	5/ 23	木	まとめ7, Review, 漢字(256-260)
15	5/ 28	火	中間試験(L33-37), 聴解課題①(L37)締切
16	5/ 30	木	休講 (金曜授業のため)
17	6/ 4	火	L38.1&2, L38 Vocab.quiz, 漢字クイズ(251-260)
18	6/ 6	木	L38.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字(261-265), 作文課題③
19	6/ 11	火	L39.1&2, L39 Vocab.quiz, 文法クイズ3(命令形・禁止形), 漢字(266-270), 作文課題③提出
20	6/ 13	木	L39.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(261-270), 漢字(271-275), 聴解課題②(L39)
21	6/ 18	火	L40.1&2, L40 Vocab.quiz, 漢字(276-280)
22	6/ 20	木	L40.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(271-280), 漢字(281-285), 聴解課題②(L39)締切
23	6/ 25	火	L41.1&2&3, L41 Vocab.quiz, 文法クイズ4(使役形), 漢字(286-290), Final Presentation introduction
24	6/ 27	木	L41.4&5&6, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(281-290), 漢字(291-295), 作文課題④, Final Presentation Title & Outline Deadline
25	7/ 2	火	L42.1&2, L42 Vocab.quiz, 文法クイズ5(尊敬動詞), 漢字(296-300), 作文課題④提出, Final Presentation Outline Return
26	7/ 4	木	L42.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(291-300), 漢字(301-305), 聴解課題③(L42), Final Presentation 1st Draft Deadline
27	7/ 9	火	まとめ8, 文法クイズ6(謙譲動詞), 復習1, 漢字(306-310), Final Presentation 1st Draft Return & Rewrite 2nd Draft
28	7/ 11	木	復習2, 漢字クイズ(301-310), 聴解課題③(L42)締切, Final Presentation 2nd Draft Deadline, Presentation Practice(Rehearsal), PPTcheck
29	7/ 16	火	休講
30	7/ 18	木	期末試験(L33-42)
31	7/ 23	火	期末発表

初級 4

報告者：A クラス 猪狩美保・久田美菜

B クラス 東平福美・ハワード文江

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは『大地2 メインテキスト』を主教材として使用し、33 課～42 課の初級後半部分を授業範囲とした。文法項目とさまざまな言語表現を学習し、テキストの練習を中心とした教室活動を通して、総合的な日本語能力の向上を目指した。また、N4 相当の単漢字 100 字と対象漢字を含む語彙学習を行った。予習型の語彙クイズの他、作文課題や聴解課題、漢字クイズなど、学習の内容と進度に合わせた課題を課し、学習事項の定着を促した。学習の到達度を評価する中間試験、期末試験に加え、学期末には期末口頭発表を実施した。

【授業の内容】

各課の初めに学生が新出語彙を学習し、授業前までにオンライン形式の語彙クイズに取り組んだ。授業では文型導入、テキストの練習を中心とした基本・応用練習を行い、ペアワーク・グループ活動を積極的に取り入れた。また、学習進度に応じた作文課題、聴解課題を課し、日本語の総合的な運用能力の向上を目指した。並行して漢字の導入と練習、確認クイズを実施した。学期末に実施した期末口頭発表では、学期を通しての学習内容を踏まえ、各自選んだトピックについて、賛成・反対の意見をまとめた発表原稿を作成し、日本語で発表した。授業内でも段階的に準備や練習を進め、各担当教員が個別にフィードバックや助言することで、発表時には学生たちがそれぞれ魅力的な発表をすることができた。

2. その他

初級 4 コースは A、B の 2 クラス編成で授業を行ったが、両クラスの学習内容、レベルは同一である。

3. まとめ・今後の課題

<A クラス>研究活動に忙しい様子の学生も多かったが、どの学生もクラス活動や課題に熱心に取り組んでいた。クラスメートと積極的にコミュニケーションしつつ、助け合いながら学習を進めている様子が見られ、最終的に 9 名の学生が修了した。今後も、多忙な学生の学習支援など、より良いコースやクラス活動のために改善を図っていきたい。

<B クラス>授業や課題に熱心に取り組む、細かい疑問点も放置せず積極的に質問する学生が多かった。研究活動に忙しく、遅刻をしても必ず出席する学生もいて、最終的に 7 名の学生が修了した。文法中心の授業に成りがちでリスニングの練習時間を取ることが難しかった為、今後はリスニングの練習の中に文法の練習を取り入れる工夫をしていきたい。

中級1 総合

2024年度S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日 08:30 - 10:15 金曜日
場所	: 工学部8号館 123 (火) 、工学部8号館 722 (金)
学習目標	: 日常生活における場面で対応可能な日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、身近な話題を取り上げ、初中級レベルの文型・語彙を用いながら、聞く、話す、読む、書くの4技能をバランスよく習得できる活動を行う。
対象	: 初級4、インテンシブ初級IIコースの修了者、またはJLPT N4相当、CEFR A2.2相当
テキスト	: 『中級へ行こう 日本語の文型と表現 55 第2版』 (スリーエーネットワーク)
評価	: 教室活動10%、本文内容理解問題6%、語彙クイズ7%、漢字とことばの練習7%、作文10%、中間試験20%、期末試験20%、期末発表20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上、2) 期末試験を受験。 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間や期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード: 大学院3799-921-1、学部 FEN-JL4o01L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 ※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して、オリエンテーションとレベルチェックテストを受けてください。
担当	: 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko, ハワード 文江 HOWARD Fumie, 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi, 劉 羅麟 Liu Luolin nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	・オリエンテーション (JLCSE+コースオリエンテーション) ・レベルチェッククイズ
2	4/ 9	火	第2課-1
3	4/ 12	金	休講 (入学式のため)
4	4/ 16	火	第2課-2
5	4/ 19	金	第2課-3
6	4/ 23	火	第3課-1 作文1(L3)アナウンス
7	4/ 26	金	第3課-2
8	4/ 30	火	第3課-3 第4課-1、作文1(L3)提出
9	5/ 3	金	祝日
10	5/ 7	火	休講 (月曜授業振替のため)
11	5/ 10	金	第4課-2
12	5/ 14	火	第4課-3

13	5/ 15	水	【金曜授業振替】 第5課-1
14	5/ 17	金	第5課-2
15	5/ 21	火	第5課-3、復習 (L2,3,4) 作文1 リライト提出
16	5/ 24	金	休講 (補講日のため)
17	5/ 28	火	中間試験 (L2-L5)
18	5/ 30	木	【金曜授業振替】 作文発表会 & Discussion
19	5/ 31	金	休講 (中休み)
20	6/ 4	火	第6課-1
21	6/ 7	金	第6課-2 期末口頭発表準備 (1)
22	6/ 11	火	第6課-3 作文2(L6) アナウンス
23	6/ 14	金	第7課-1 期末口頭発表準備 (2)
24	6/ 18	火	第7課-2 作文2(L6)提出
25	6/ 21	金	第7課-3 期末口頭発表準備 (3)
26	6/ 25	火	第8課-1
27	6/ 28	金	第8課-2
28	7/ 2	火	第8課-3 期末口頭発表準備 (4)
29	7/ 5	金	第9課-1
30	7/ 9	火	第9課-2 期末口頭発表準備 (5)
31	7/ 12	金	第9課-3
32	7/ 16	火	休講 (補講日のため)
33	7/ 19	金	期末口頭発表
34	7/ 23	火	期末試験 (L6-9)

中級 1 総合

報告者：A クラス 牛山和子・ハワード文江

B クラス 内田あゆみ・劉羅麟

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは『中級へ行こう 日本語の文型と表現 55』（スリーエーネットワーク、第 2 版）を使用し、全 10 課中 2 課から 9 課までを 1 課 3 コマ（1 コマ 105 分）で終える形で授業を進めた。A・B クラス共 Google Classroom を使用し、授業と並行して自習用シート、クイズ、課題作文、期末口頭発表関連の課題シート、アンケート回答用の共有シートなどを配信した。各課共通の配信物は、1)「漢字自習シート」、2)「語彙クイズ」、3)「(本文) 内容理解」クイズ、4)「漢字とことばの練習」クイズの 4 つである。1)は学習者が漢字学習を自分のペースで進めて行けるよう、自習課題とした。2)および 3)は予習型、4)は復習型の課題で、いずれも締切日までは何度でも受けられる達成型の課題とした。

【授業の内容】

各課の 1 回目の授業では、教科書の「扉のページ」などを使って、その課のトピックについて話し合う活動を設け、次いで新しい文型・表現の前半を扱った。2 回目の授業は、その課の後半の文型・表現の導入と練習を中心に進め、答え合わせなどではピアフィードバックなども取り入れ、対話型の活動を目指した。3 回目の授業では本文読解の他、教科書の文法や聴解チェックシートなどを用い、その課の「総まとめ」となる活動を行った。また、各授業では教科書で学習した表現を用いて短文を書くなど、書くことを通してのアウトプット型の活動も取り入れた。期末発表は、プロジェクト型の活動を目指し、アンケート作成・実施、結果のまとめ、スライドの作成、クラスでの発表および質疑応答という流れで行った。

2. その他

中級 1 総合コースは、中級における基礎固めのステージであり、漢字を学ぶ意味と学習の成果を実感してもらいたいと考え、第 3 回目の授業では、本文をルビなしで読むピアリーディング活動も行った。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞

研究や専門の課題などで忙しい学生もいたが、熱心な学生が多く、明るい雰囲気クラスであった。出席率の不足で未修了となった学生も 2 名いたが、11 名がコースを修了した。来学期は、学生から希望のあった語彙力をつける活動も積極的に取り入れていきたい。

＜B クラス＞

コミュニケーションをする意欲が高い学生が多く、毎週楽しく授業に参加する様子であった。特に作文発表会と期末発表は、各発表後の意見交換が活発であった。来学期は、漢字・漢字語彙の活動（特に非漢字圏の学生向けに）と文型の運用力を伸ばす活動を取り入れたい。

中級1 聴解

2024年度S1S2

- レベル : 中級1 レベル
- スキル : 聴解
- 開講期間 : 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
- 時間 : 08:30 - 10:15 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M
- 学習目標 : 初級文法を復習しながら、聴解・会話能力の向上を目指す。授業では、聴解問題、グループ活動、ディスカッションを行う。
- 対象 : 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、またはJLPT N4相当、CEFR A 2.2相当。
- テキスト : 『5分でできるにほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク)、『<テーマ別> 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』(研究社)
- 評価 : 教室活動10%、課題40%、クイズ10%、中間試験20%、期末試験20%
 ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。
 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : ① 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-922-1、学部FEN-JL4o10L1。
 ② 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。
 ③ コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 ④ 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
 ⑤ 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 ⑥ 授業内容と教室は変わる可能性がある。
 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	レベルチェックテスト、オリエンテーション 「音の聞きわけ」はじめるまえに
2	4/ 18	木	「音の聞きわけ」 1,2,3 「ブリッジ」 L2
3	4/ 25	木	「音の聞きわけ」 4,5,まとめ1 「ブリッジ」 L3
4	5/ 2	木	「音の聞きわけ」 クイズ① 「音」 6,7 「ブリッジ」 L4
5	5/ 9	木	「音の聞きわけ」 8,9,まとめ2 「ブリッジ」 L5
6	5/ 16	木	「音の聞きわけ」 クイズ② 「ブリッジ」 L6
7	5/ 23	木	中間試験
8	5/ 30	木	【休講】 金曜授業振替のため
9	6/ 6	木	「音の聞きわけ」 10,11 「ブリッジ」 L7
10	6/ 13	木	「音の聞きわけ」 12,13 「ブリッジ」 L8
11	6/ 20	木	「音の聞きわけ」 14,まとめ3 「ブリッジ」 L9
12	6/ 27	木	「音の聞きわけ」 クイズ③ 「音」 15,16 「ブリッジ」 L10
13	7/ 4	木	「音の聞きわけ」 まとめ4 「ブリッジ」 L11
14	7/ 11	木	「音の聞きわけ」 クイズ④ 「ブリッジ」 L12
15	7/ 18	木	期末試験

中級 1 聴解

報告者：内田あゆみ

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『＜テーマ別＞ 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』（研究社）を主教材として使用し、1 課 1 コマのペースで進めた。主教材のテーマは主に「ゴミ問題」「水資源」などの社会問題や「家族」「国際化」などの留学生にとって身近なもので、本コースでは本文の重要な部分を聞き取れるようになることに重きを置いた。また、『5 分でできるにほんご音の聞きわけトレーニング』（スリーエーネットワーク）を副教材として使用し、毎週 2~3 課進めることを自習とした。副教材では、日本語特有の細かい音の聞き分けに慣れる練習をした。課題は週 5 日 10 分ずつ、主教材の本文音声聞くこと、副教材の練習問題をする、NHK NEWS WEB EASY を聞くことのいずれかをし、リスニング記録をつけることであった。リスニング記録をつけながら、本文の大意を聞き取る問題、本文で使われている語彙の事前学習、初級文法の復習問題にも取り組んでもらった。

【授業の内容】

授業では副教材の問題から聞き取りにくい問題をいくつか取り上げ、確認をした。次に、事前学習で取り組んだ主教材の語彙と文法の問題のフィードバックと本文の内容確認を行い、より細部の理解を深めるために追加の内容質問や穴埋め問題、本文とは別の初めて聞く聴解問題などに取り組んだ。主教材の本文と聴解問題は難易度が高いため、聞く前には本文のテーマについての背景知識を活性化させ、聞き取りの目的を意識させた。問題の内容やスピードは学生のレベルに合わせて適宜調整した。また、主教材のテーマについて、自国の情報や各自の経験を述べる機会も積極的に設け、相互理解を深めた。

2. その他

副教材の内容から復習型でクイズを実施した。5 課毎に行い、学生の習得状況を確認した。

3. まとめ・今後の課題

コース修了者は 6 名中 5 名だった。少人数であったため、それぞれの理解を確かめ、フィードバックをすることができた。初級に比べると、スピードがかなり速くなった聴解問題に苦戦した学生が多かったが、継続的に問題に取り組み、細かい音の聞き分けのトレーニングも重ね、ストラテジーも学んだことで、初級から中級への移行ができたのではないかと思う。アンケートでは課題が役に立ったという声が多かったが、多すぎるという声もあったため、内容をもう一度見直し、改善していきたい。

中級1 会話

2024年度S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 会話
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 火曜日
場所	: 工学部5号館 55教室
学習目標	: 日常生活の場面において必要な表現や語彙を獲得し、会話能力を向上させる。授業内外で積極的に会話実践を行う。
対象	: 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、またはJLPT N4相当、CEFR A2.2相当
テキスト	: 『会話に挑戦 中級前期からの日本語ロールプレイ』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動20%、語彙課題10%、ロールプレイ課題20%、中間試験25%、期末課題25% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上、2) 期末課題を提出。 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間や期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。
その他	: 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可） UTASコード：大学院3799-923-1、学部FEN-JL4o20L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して、オリエンテーションとレベルチェックテストを受けてください。
担当	: 劉 羅麟 Liu Luolin, 宮瀬 真理 MIYASE Mari nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	火	オリエンテーション、レベルチェックテスト
2	4/ 16	火	L3：誘う（先生を飲み会に誘う）
3	4/ 23	火	L4：断る（先生の誘いを断る）、課題①
4	4/ 30	火	L6：話題の共有（パーティーで初対面の人と話す）
5	5/ 7	火	休講
6	5/ 14	火	L7：電話をかける（電話をかけて伝言を頼む）、課題②
7	5/ 21	火	L8：病院に行く（医者に症状を説明する）
8	5/ 28	火	中間試験
9	6/ 4	火	L9：忘れ物を探す（財布をなくして説明する）、課題③
10	6/ 11	火	L11：問い合わせ（電話でアルバイトに応募する）
11	6/ 18	火	L12：許可求め（日にち変更の許可を求める）、課題④
12	6/ 25	火	L13：依頼（日常生活でいろいろなことを頼む）
13	7/ 2	火	L15：申し出（手伝いを申し出る）、課題⑤
14	7/ 9	火	期末課題の準備
15	7/ 16	火	休講
16	7/ 23	火	期末課題（ロールプレイ会話動画の上映会）

中級 1 会話

A クラス： 劉 羅麟

B クラス： 宮瀬 真理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは日常生活の場面において必要な表現や語彙を獲得し、会話能力を向上させることを目的として、授業内外で積極的に会話実践を行っている。週 1 回 1 コマ、『会話に挑戦 中級前期からの日本語ロールプレイ』（スリーエーネットワーク）を用いて、場面に応じた日本語の文型や表現、コミュニケーションストラテジーを学習し、授業前の語彙課題、授業での会話練習、授業後のロールプレイ、中間試験、期末課題で定着を図った。

【授業の内容】

授業前には、履修者が各自学習トピックを確認し、場面に役立つ表現を 10-20 個集めた。授業では、集まった表現の発音や使い方を全体で確認したうえで、ウォームアップ、ロールプレイ挑戦、会話の予測、表現や語彙の追加、ロールプレイ再挑戦、振り返りという流れで実施した。この流れにしたのは、ただ単に教科書にある会話例を暗記するのではなく、それぞれの場面や目的に何が必要か履修者に考えさせることで、似た場面に遭遇した時に授業で学んだことを必要に応じて応用できるようにするためである。

2. その他

中間試験は学期前半の 5 トピックからランダムに 2 つを選び、ペアでロールプレイする形の口頭試験を行った。期末課題は会話科目という性質上、筆記試験ではなく、ロールプレイ会話の動画を作成する形にした。履修者は 3-4 人のグループで、一学期の 10 トピックから関心に応じて 2-4 選び、それを 1 つの長い会話にアレンジした。各グループが作成した動画を最終回の授業で上映し、履修者同士のピア評価と教員によるフィードバックを行った。

3. まとめ・今後の課題

A クラス：学期開始時に 14 名が登録し、最終的に 12 名が修了した。日本語でコミュニケーションする意欲が高く、学習に熱心であった。母語の異なるクラスメートとのピアラーニングや日本人学生の授業ボランティアとの意見交換を通して、日本語を含む言語間の違いに関する気づきを得たようであった。来学期はロールプレイ課題の形式の改善を図りたい。

B クラス：学期開始時に 14 名が登録し、最終的に 11 名が修了した。専門の研究などで忙しく、毎週クラスに参加できない学生もいたが、学生の日本語で会話ができるようになりたいとの意欲を強く感じた。表現のバリエーションを学ぶだけにとどまらず、実際に使えるようになるためのクラス活動を考えていきたい。

中級1 専門読解

2024年度S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 読解
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 水曜日
場所	: 工学部5号館 54教室
学習目標	: 科学技術分野の日本語の読解力向上と、専門的な語彙の習得を目指す。 授業では、東京大学で研究している科学技術についての文章を読み、重要な文型・表現を勉強しながら、読む力を中心に、聴く力、書く力を伸ばすことが目的である。理工系の専門的な勉強や研究に進む前に、基礎的な科学技術の日本語を学習することができる。
対象	: 初級4、インテンシブ初級2コースの修了者、または JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当
テキスト	: オリジナル教材
評価	: 教室活動 15%、中間試験 20%、期末試験 20%、語彙クイズ 15%、課題（内容確認クイズ）15%、課題（短文作成）15% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1)出席率70%以上 2)期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-924-1、学部FEN-JL4o30L1 2. 修了証は成績が C 以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30 分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3 回の遅刻または早退は 1 回の欠席とみなす。 5. 第 1 週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 猪狩 美保 IGARI Miho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	水	オリエンテーション、レベルチェック
2	4/ 17	水	人型ロボット
3	4/ 24	水	道路の渋滞予測 語彙・漢字クイズ
4	5/ 1	水	スマートグラスで道案内 語彙・漢字クイズ
5	5/ 8	水	味と食感を決める酵素 語彙・漢字クイズ
6	5/ 15	水	休講（金曜授業のため）
7	5/ 22	水	料理を作りながらスマートフォンの充電ができる？ 語彙・漢字クイズ
8	5/ 29	水	中間試験
9	6/ 5	水	都市インフラとしての浄水処理 語彙・漢字クイズ
10	6/ 12	水	航空機の事故を減らすために 語彙・漢字クイズ
11	6/ 19	水	自動車材料の軽量化とマルチマテリアル化 語彙・漢字クイズ
12	6/ 26	水	超伝導とリニアモーターカー 語彙・漢字クイズ
13	7/ 3	水	食品の産地を確かめる方法 語彙・漢字クイズ

14	7/ 10	水	3Dメガネ 語彙・漢字クイズ
15	7/ 17	水	休講
16	7/ 24	水	期末試験

中級 1 専門読解

報告者：猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは初級を終えた段階の学生が、科学技術の文章を理解する読解力を身につけ、基礎的な専門語彙や表現、文型の使い方を習得することを目的としている。授業の前までに、「イラスト動画」と「インタビュー動画」を視聴し、内容クイズを受けること、本文の語彙を確認することを事前課題とし、授業で習った文型を使って短作文を行うことを事後課題とした。授業では、提出された短作文のフィードバックを行い、語彙クイズ、本文のテーマに関するディスカッション、文型・表現練習、本文精読の順で行った。多忙な学生が効率的に、また自律的に日本語学習を進めることを目指し、反転授業の形態を取り入れ、授業を実施した。

【授業の内容】

テキストは工学部広報誌（『Ttime!』）の記事に基づき、人型ロボットや道路の渋滞予測など、工学系のテーマの文章を日本語教員がリライトしたオリジナル教材である。「イラスト動画」は、テキスト本文を分かりやすくイラストとして示し、音声付きで、読解内容の理解を助けるものとなっている。一方、「インタビュー動画」は、東京大学の専門家が研究内容やテーマをわかりやすく解説したもので、テーマの理解を深めるために視聴するものである。学生はこの2つの動画を授業の前に視聴し、オンライン形式の内容確認クイズに回答した上で授業に参加する。読解のトピックは工学系の専門的な内容で、学生は自身の専門的な知識を生かして、読解やディスカッションを行うことができる。教員は事前課題や事後課題の回答を確認しフィードバックを行う過程で、各学生の学習の取り組み方を把握し、サポートできるよう配慮しながら進めた。

2. その他

本文と動画は、東京大学における工学系全般の研究内容が網羅された当教室オリジナルの読解教材である。学生が事前課題に容易に取り組めるよう Google Classroom を使用し、課題を集約して配布した。

3. まとめ・今後の課題

受講した学生は読解のトピックに大きな関心を持って授業に参加し、課題についても丁寧に取り組み、教員のフィードバックに対して深く理解しようとする様子が見られた。工学系の様々なトピックに関して、専門知識や最新の情報を教え合うなど、学生同士が助け合いながら学習を進めていた。今後も、授業や事前・事後課題の内容について検討を重ねていくとともに、学生同士の学び合いを促すような学習環境づくりを目指したい。

中級1 文章

2024年度S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 123
学習目標	: 正しい日本語作文のルールを学ぶ活動を通し、中級前半レベルの語彙・表現・文法・文型を習得する。また、適切な書き言葉と文体を使用し、身近なトピックについて読み手に伝わる約450字の文章が書ける能力を養成する。
対象	: 初級4、インテンシブ初級IIコースの修了者、またはJLPTN4相当、CEFR A2.2相当
テキスト	: 「おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文」 (凡人社)
評価	: 作文活動15%、課題作文45%、中間試験20%、期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院(3799-925-1)、学部(FEN-JL4o40L1)。 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 米谷 章子 KOMETANI Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	レベルチェックテスト、オリエンテーション、教科書・授業について
2	4/ 18	木	メールの書き方、第1課①
3	4/ 25	木	第1課②、作文①L1好きなこと
4	5/ 2	木	第2課①、作文②L1私を表す漢字
5	5/ 9	木	第2課②、第3課①、作文③L2私のおすすめ
6	5/ 16	木	第3課②、作文④L3留学の準備
7	5/ 23	木	中間試験(第1～3課)
8	5/ 30	木	休講 (金曜の授業日)
9	6/ 6	木	中間試験フィードバック、第4課①
10	6/ 13	木	第4課②、作文⑤L4私の普通とあなたの普通 1
11	6/ 20	木	第5課①、作文⑥L5朝型か夜型か
12	6/ 27	木	第6課①、作文⑦L6折れ線グラフの説明
13	7/ 4	木	第6課②、作文⑧円グラフ
14	7/ 11	木	第7課、作文⑨L6グラフを読む・書く
15	7/ 18	木	期末試験(第4～6課)

中級 1 文章

報告者：米谷章子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは教科書『おしゃべりしながら 書くことを楽しむ中級作文』（凡人社）を使用し授業を行った。学期の最初に日本語でのメールの書き方について扱い、学期中の欠席や遅刻などに関するメールでの連絡は日本語で送るように促した。学期の前半は 1 課から 3 課まで、後半は 4 課から 7 課までを扱った。正しい日本語作文のルールを学ぶ活動を通し、中級前半レベルの語彙・表現・文法・文型を習得することを到達目標とした。また、適切な書き言葉と文体を使用し、身近なトピックについて読み手に伝わる文章（約 450 字）が書ける能力の養成と向上を目指した。

【授業の内容】

授業では、基本的に次のように進めた。まず、各課のテーマ（私を表す漢字、私のおすすめ、朝型か夜型か、等）について、ペアやグループで楽しく話しながら様々なアイデアを出す。次に、アウトラインやモデル作文を確認し、書き言葉の表現や文型、論理的に説明する構成などを学習する。また、アイデアや意見を分かりやすく書くための作文ルールを学び、話し言葉を書き言葉に直す練習をしたり、課題作文のためのアウトラインを作成したりする。次回の授業開始までにトピックに沿った内容の作文（学期前半は約 350 字、後半は 450 字以内）を課題とし、授業内でピアリーディング活動の時間を設けた。教員は Google Classroom を使用して添削し、フィードバックを追加して個別に返却した。

2. その他

ピアリーディング活動においては、毎回、実施の目的や注意すべき点などを事前に提示し、モデル作文の確認時と同じく、必ず音読しながら進め、ペアやグループで質問やコメントをし、他の人の作文からも学べるように、協働を促した。また、静かに書くだけという短調な文章クラスにならないように授業内活動を工夫した。

3. まとめ・今後の課題

近年、様々なツールを使用し、本人の日本語能力が反映されていない作文も見られるが、このコースでは課題に取り組む時には、文章作成ツールは使用せず、辞書のみを使うように注意喚起し、自分の持つ知識を使って書くように指導した。また、自身が書いたものは正確に読め、説明できるように準備することを指示した。

毎週の課題は、アンケートで受講者全員が適切な量であったと回答している。なお、作文は 1 時間以内で完成させるように指示した。授業内でクラスメートとアイデアを出し合ったり、アウトラインを作成したりし、授業外での負担を軽減する工夫をした。

中級2 総合

2024年度S1S2

- レベル : 中級2 レベル
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
- 時間 : 10:25 - 12:10 火曜日
08:30 - 10:15 金曜日
- 場所 : 工学部8号館 123 (火)、88M (金)
- 学習目標 : 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、一般的な事柄を取り上げ、中級前半レベルの文型・語彙を用いながら、読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく習得できる活動を行う。
- 対象 : 中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当
- テキスト : 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版』
(スリーエーネットワーク)
※テキストは緑色の表紙です。
- 評価 : 語彙クイズ10% 作文・発表30% 中間試験20% 期末試験20% 聴解課題5%
漢字課題5% 教室活動10%
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 期末試験を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50%
F:49-0%
・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位4 認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可 UTAS コード: 大学院 3799-937-1、学部FEN-JL4p02L1
2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容は変わる可能性がある。
- 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko, 宮瀬 真理 MIYASE Mari, 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi, 猪狩 美保 IGARI Miho
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	オリエンテーション レベルチェッククイズ
2	4/ 9	火	第1課-1
3	4/ 12	金	休講 (入学式のため)
4	4/ 16	火	第1課-2
5	4/ 19	金	第1課-3 クイズ(DUE): 語彙 L1 クイズ(DUE): 漢字 L1
6	4/ 23	火	第2課-1 クイズ(DUE): 語彙 L2 クイズ(DUE): 聴解 L1
7	4/ 26	金	第2課-2 クイズ(DUE): 漢字 L2

8	4/ 30	火	第3課-1 クイズ(DUE): 語彙 L3 クイズ(DUE): 聴解 L2 課題-1(作文 1st Draft DUE)
9	5/ 3	金	祝日
10	5/ 7	火	休講 (月曜クラス補講日のため)
11	5/ 10	金	第3課-2
12	5/ 14	火	第3課-3 クイズ(DUE): 漢字 L3
13	5/ 15	水	【金曜授業振替】 第4課-1 クイズ(DUE): 語彙 L4 クイズ(DUE): 聴解 L3 ・課題-1(作文 Final Draft DUE)
14	5/ 17	金	第4課-2 クイズ(DUE): 漢字 L4
15	5/ 21	火	復習 (L1, L2, L3, L4) クイズ(DUE): 聴解 L4
16	5/ 24	金	休講 (補講日のため)
17	5/ 28	火	中間試験
18	5/ 30	木	【金曜授業振替】 教科書「プラスアルファ」の学習
19	5/ 31	金	休講 (中休み)
20	6/ 4	火	中間試験FB 第5課-1 クイズ(DUE): 語彙 L5
21	6/ 7	金	第5課-2 クイズ(DUE): 漢字 L5
22	6/ 11	火	第6課-1 クイズ(DUE): 語彙 L6 クイズ(DUE): 聴解 L5 ・課題-2 (作文 2 1st Draft DUE)
23	6/ 14	金	第6課-2
24	6/ 18	火	第6課-3 クイズ(DUE): 漢字 L6 L5,L6 復習
25	6/ 21	金	作文2「私の町」発表 クイズ(DUE): 聴解 L6
26	6/ 25	火	第8課-1 クイズ(DUE): 語彙 L8、 ・課題-2 (作文 2 Final Draft & PPT DUE)
27	6/ 28	金	第8課-2 クイズ(DUE): 漢字 L8
28	7/ 2	火	第7課-1 クイズ(DUE): 語彙 L7 クイズ(DUE): 聴解 L8
29	7/ 5	金	第7課-2 ・課題-3 (作文 3 DUE)
30	7/ 9	火	ディスカッション
31	7/ 12	金	第7課-3 クイズ(DUE): 漢字 L7
32	7/ 16	火	休講 (補講日のため)
33	7/ 19	金	総復習 (L5, L6, L7, L8) クイズ(DUE): 聴解 L7
34	7/ 23	火	期末試験 (L5, L6, L7, L8)

中級 2 総合

報告者：A クラス 牛山和子・宮瀬真理

B クラス 内田あゆみ・猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期（第2版）』（スリーエーネットワーク）を使用し、1 課を 2 回から 3 回（105 分×2）で扱う形で授業を進めた。A・B クラス共 Google Classroom を使用し、課題として、1) 語彙クイズ（予習型）、2) 漢字クイズ（復習型）、3) リスニングクイズ（復習型）を配信した。いずれも課題達成型のクイズとし、締め切り日までは何度でも繰り返し学習できる形で実施した。

【授業の内容】

会話によるアウトプット量を増やすため、各課の第 1 回目の授業では、その課のトピックについて、教科書の「扉のページ」などを用いてクラス全体やグループで自由に話し合ったり、意見交換を行ったりした。また本文の大意把握（内容理解）を初回の授業で行い、その課の新出文型・表現の前半または 1/3 を学び、短文作成などを通したアウトプット活動も行った。2 回目以降の授業では、後半の学習項目に関連する練習問題や短文作成などの産出活動を引き続き行ったほか、時間が許す限り教科書にある「読もう」「聞こう」「書こう」「チェックシート」なども扱った。また、作文、発表を通しての表現力向上にも重点を置き、1) 「私の研究」、2) 「私の町」、3) 「意見文」の 3 つを課題とした。これらの課題を通して、学生は 1. 自分の研究について専門的な語彙を用いて日本語で説明ができる、2. 中級 2 レベルの語彙・表現を用いたプレゼンテーション用のスクリプトが作成できる、3. ディベート活動から得た考察をもとに意見文が書ける、という 3 つの Can do の達成を目指した。

2. その他

ディベートは社会性のある複数のトピックの中から活動当日に学生たちが選び、2 つのグループに別れて議論した。この活動は、チームで協力して論を組み立てていくため、全員が積極的に意見を出し合い、チームで協力し合う姿がみられた。

3. まとめ・今後の課題

<A クラス>：学期途中から研究や学会発表、交換プログラムの終了などで、継続的に授業に参加できなくなった学生が複数名いたが、出席率の不足でコース修了ができない状況にあっても「自分の勉強のために」と言いつつ、最後まで続けてくれた学生たちもいた。日本語学習が学生たちの研究や日常生活を支える一助となるよう、創意工夫を重ねたい。

<B クラス>：A クラス同様、未修了となった学生が数名いたが、修了者 8 名は真面目で、非常に落ち着いたクラスであった。また、少人数だったため、アウトプットの機会を多く設けることができた。本コースでは学習する文型・表現が多いため、今後は文型・表現の運用力を伸ばす活動を更に取り入れたい。

中級2 聴解

2024年度S1S2

レベル	: 中級Ⅱ
スキル	: 聴解
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 水曜日
場所	: 工学部8号館 722
学習目標	: 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中級の聴解力を身につけることを目指す。授業では、様々なトピックについての講演、発表を聞く練習を行い、聞いたことをまとめて話す、要約する活動を行う。
対象	: 中級Ⅰ聴解コースの修了者、またはJLPTN3相当、CEFR B1相当
テキスト	: 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中級】』（スリーエーネットワーク)
評価	: 教室活動20%, クイズ10%, 課題30%, 中間試験20%, 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-932-1, 学部 FEN-JL4p10L1, 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	水	オリエンテーション, レベルチェッククイズ
2	4/ 17	水	L1富士山
3	4/ 24	水	L3隠れキリシタン、L1クイズ
4	5/ 1	水	L4水族館、L3クイズ
5	5/ 8	水	L6東京の温泉、L4クイズ、課題①L5イントロ
6	5/ 15	水	休講（金曜授業日）
7	5/ 22	水	L7失敗学、L6クイズ、課題①DUE
8	5/ 29	水	中間試験
9	6/ 5	水	L8 札幌のお祭り、要約課題L.8、
10	6/ 12	水	L9 津軽三味線、L8クイズ、要約課題L.9
11	6/ 19	水	L11 アクセント、L9クイズ、課題②L.15イントロ
12	6/ 26	水	L12からくり人形、L11クイズ、要約課題L.12
13	7/ 3	水	L13四つ葉のクローバー、L12クイズ
14	7/ 10	水	L14長寿の理由、L13クイズ 課題②DUE
15	7/ 17	水	休講（補講日）
16	7/ 24	水	期末試験

中級２ 聴解

報告者：片岡さゆり

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（中級）』（スリーエーネットワーク）を使用し、15課のうち11課を授業で扱った。このテキストは、講義、発表を聴く力を養う教材であり、要点把握の正誤問題、内容質問、整理ノート作成、要約、スクリプトで構成されている。授業では、聴く前にトピックについて知っていることを話し合い、単位によっては関連資料を読む、視聴する等の活動を行った後、テキストに沿って進めた。「内容質問」では、聞き取った情報を小グループでシェアし、よりよい答え方を考える活動を取り入れた。また、毎回テキスト単元の語彙・表現リストから出題するディクテーションクイズを行った。

さらに、生活に役立つニュースの聞き取り（全6回）を取り入れた。地震、大雨などの災害に関わるニュースから基本的な情報を聞き取る練習を行い、また季節の話題から社会文化を知る機会とした。

【授業の内容】

聴解のポイントとして、講義、発表の構成を確認し、接続表現、文末表現に注意することを挙げ、内容を予測し、修正しながら聴くことを意識化した。さらに聞き取ったことをまとめる、伝えるために次の3点を目標とし、授業を行った。

① 内容を聞き取るだけでなく、質問にふさわしい形式で答えられること

前述のとおり、ピア活動を行って的確な答え方を考え、クラスでシェアすることにより記述での答え方、口頭での答え方を学んだ。

② 項目を立て、箇条書きで内容をまとめることができること

小テーマを日本語で設定することは、研究発表のスライド作成などにも応用できる。クラスでは、まとめ方の提案が積極的になされ、漢語の使い方について考える機会となった。

③ 決められた字数で要約文を書くことができること

コースの前半は穴埋め問題に答えることによって要約文を作成し、後半では150-200字で要約文を書く課題を実施し、添削指導を行った。

2. その他

時間の許す限り、トピックに関連した動画視聴を行い、意見交換を行った。

3. まとめ・今後の課題

今後は、聴くためのポイントを実践につなげられるよう、さらに尽力したい。

中級2 会話

2024年度S1S2

レベル	: 中級2 レベル
スキル	: 会話
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日
場所	: 工学部8号館 702
学習目標	: 大学や日常生活における様々な会話において対応可能な中級の運用能力（聞く・話す）を身につけることを目指す。授業では主にロールプレイ練習を中心に、自然な日本語を使ったコミュニケーション能力を養う活動を行う。
対象	: 中級1会話コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当
テキスト	: 『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』（凡人社）
評価	: 授業内評価15%, 中間試験30%, 期末試験30%, 課題15%, スピーチ5%, 参加度5%. ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可） UTAS コード：大学院(3799-933-1)、学部(FEN-JL4p20L1). 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。 3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko, 東平 福美 HIGASHIHIRA Fukumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	月	オリエンテーション、レベルチェックテスト、L1
2	4/ 15	月	L1、L2
3	4/ 22	月	L2、課題1配布(しめぎり:5/7火)
4	4/ 29	月	祝日
5	5/ 6	月	祝日
6	5/ 7	火	L3、課題1提出日
7	5/ 13	月	L3、L4
8	5/ 20	月	L4
9	5/ 27	月	中間口頭試験(ロールプレイ L1-4)
10	6/ 3	月	L5、課題2配布(しめぎり:6/10)
11	6/ 10	月	L5、課題2提出日
12	6/ 17	月	L6、課題3配布(しめぎり:7/1)
13	6/ 24	月	L6
14	7/ 1	月	L7、課題3提出日
15	7/ 8	月	L7
16	7/ 15	月	祝日
17	7/ 22	月	期末口頭試験 (ロールプレイ L5-7)

中級 2 会話

報告者：牛山和子・東平福美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『【新版】ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』（凡人社）を用い、教員は各回、学習者が実際に遭遇すると考えられる場面のロールプレイを2〜3つ程度選び、授業を行った。具体的な活動としては、まず、必要とされる表現・文型・語彙などの定着を目指す活動（聴解やモデル会話のキーワード・キーフレーズのディクテーション）を行ってから学生がロールプレイをペアで実践し、その後、発表する形で進めた。

【授業の内容】

授業では、「苦情」、「言い訳」、「交渉」、「相談」、「助言」など、受講者が身近に感じられるロールプレイを取り上げた。日本語独特のあいづちやオウム返しなどの使い方を指導するとともに、誤用の多い文末のイントネーションや終助詞なども繰り返し練習し、より自然な日本語の習得を目指した。また、状況に応じて丁寧な言い方とカジュアルな言い方を使い分けられるよう、指導した。

2. その他

中間・期末試験ともロールプレイ会話試験を実施した。1週間前にランダムにペアを決め、当日は教員が選んだロールプレイを2つ（ブレイクダウンなどが生じた場合は3つ）演じてもらった。試験の際は、音声面だけでなく、会話の全体の流れやコミュニケーションスキル、ロールプレイの内容の豊かさなども評価材料とした。定期試験以外には、学期中に3つの課題（会話スクリプトの作成や会話の録音およびその書き起こし）を出したほか、パワーポイントを使った「生い立ち紹介」のスピーチを実施した。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞：本報告書の最後にもあるように、ロールプレイを組み立てるスピードに個人差があったが、クラスメイトと協力して会話を作っていく作業にはどの学生も熱心に取り組み、互いに助け合って課題を達成していた。ボランティアとして参加してくれた日本人学生の存在も学生たちにとって日本語を話す上で非常に大きな励みとなったと感じている。

＜B クラス＞：少人数クラスで、ボランティアの日本人学生が1名入っていた。後半のタームは学生の帰国や研究の忙しさが重なり、数名しか残らなかった。2024年夏学期から学生の要望に合わせて各レッスンで必要とされる表現・文型・語彙などの学習を先に行ったが、学生の会話の自由度が制限されてしまったため、学期途中からタスク先行型、かつ、フリートークなども交えて、できるだけ学生がたくさん話すことに努めた。

ABクラス共、少人数であったため、学習者中心の授業が展開できた。今後の課題としては、クラス内のレベル差が大きい場合の対応だと考える。説明に時間をかけると、上位の学生への対応が疎かになってしまうので、個々の学生に合ったきめ細かな対応を心がけたい。

中級2 読解

2024年度S1S2

レベル	: 中級2
スキル	: 読解
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 木曜日
場所	: 工学部8号館 123教室
学習目標	: 多面的な読みの力を身につけるため、様々なジャンルの文章を読む。学習した文法の復習と、語彙の強化をはかり、読解能力の向上を目指す。
対象	: 中級1読解コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当
テキスト	: 『留学生のための読解トレーニング（読む力がアップする15のポイント）』（凡人社）
評価	: 教室活動15%, 語彙クイズ10%, 課題10%, 中間試験25%, 期末試験25%, 多読・口頭発表15%。 ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位(2)認定（ただし、単位が不要な学生も履修可） UTAS コード：大学院3799-934-1, 学部 FEN-JL4p30L1, 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 米谷 章子 KOMETANI Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	レベルチェックテスト、オリエンテーション、単語、多読
2	4/ 18	木	L1語のまとまりをとらえましょう p.2、多読
3	4/ 25	木	L1語のまとまりをとらえましょう p.2, 漢字クイズ①、L2p.8, 多読
4	5/ 2	木	L2「する・される」の関係をつかみましよう p.8, L3「文の構造をとらえましよう」p.21、漢字クイズ②、課題①L2、多読
5	5/ 9	木	L3「文の構造をとらえましよう」p.21, L4「前件と後件の関係をつかみましよう」p.24、漢字クイズ③、課題②（L3）、多読
6	5/ 16	木	L4「前件と後件の関係をつかみましよう」p.24, p.29-31、漢字クイズ④、多読
7	5/ 23	木	中間試験
8	5/ 30	木	休講（金曜の授業日）
9	6/ 6	木	L6「省略されているものが何か考えましよう」p.44、多読
10	6/ 13	木	L6「省略されているものが何か考えましよう」p.44, p.49、多読、課題③(L6)、漢字クイズ⑤
11	6/ 20	木	L6「省略されているものが何か考えましよう」p.49、多読、漢字クイズ⑥
12	6/ 27	木	L7「関連のある言葉を探しましよう」p.52、多読、課題④L7
13	7/ 4	木	L8「文末に注目して筆者の意見を見抜きましよう」p.67、多読ビブリオバトル発表の導入、漢字クイズ⑦
14	7/ 11	木	期末試験のお知らせ、多読のビブリオバトル発表、
15	7/ 18	木	期末試験

中級 2 読解

報告者：米谷章子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは『留学生のための読解トレーニング（読む力がアップする 15 のポイント）』（凡人社）を教科書として使用し、読解ストラテジーを学習しながら様々なジャンルの文章を読み、より高度な読解力を身につけることを目標に授業を行った。主に、1) クイズ、2) トピックの導入、3) 語彙の確認、文法表現の学習、4) 各課の読解ストラテジーの確認、練習問題、5) 読み物を音読、6) 全体で精読・内容確認、7) トピックについてのディスカッション、の順序で進めた。更に、毎回最後の 10～15 分間は『レベル別日本語多読ライブラリーにほんごよむよむ文庫』（アスク出版）とオンライン読み物（無料）などから自由に選んで読み、多読授業を行った。

【授業の内容】

各課の読解ストラテジーを習得し、読解に応用することを目標とし、練習問題などを通して日本語で「読むこと」への認識を深めた。読み物のテーマは、「一人で外食すること」、「大食い番組の是非」など、現代の日本社会における問題についての読み物が多く、受講者は大変興味を持ち、ディスカッションでは活発な意見交換が行われた。表現やトピックに関して理解を深める宿題も課した。

多読は、「簡単なものから」、「辞書を引かない」、「わからなくなったら飛ばす」、「進まなくなったら他の本を読む」という 4 大ルールを説明し、これらのルールを守るように指導し、授業外でも隙間時間に短い読み物を読むように促した。

2. その他

授業最終日には、今学期中に読んだ本の読書記録から 1 冊選び、クラスで紹介する発表会を設けた。活発に質問やコメントが出され、投票でチャンプ本も選出し、有意義な発表会となった。今後の日常生活においても、少しずつ日本語で読むことを継続するように指導した。

3. まとめ・今後の課題

日本語能力が高かったにもかかわらず、授業の初めに実施するクイズを遅刻で度々受験できなかった受講者がいたので、遅刻に対する注意喚起を繰り返し行った。

教科書の練習問題や読み物は、語彙も文法も難しいと感じる受講者がいた一方、多読時間では個人の興味やレベルに合った読書時間を設けることにより、満足度が高まったと思われる。

全体的に多くの受講者が教室内の活動と課題を通して理解を深め、目標レベルに到達したことは大変有意義であった。

中級2 文章

2024年度S1S2

レベル	: 中級2 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 水曜日
場所	: 工学部8号館 教室 88M
学習目標	: 表記のしかた、書きことばと話しことばの違いなどの作文の基礎知識をはじめ、文章を書くための文法、表現を学ぶ。段落内および段落間の構成を考えて、毎回400字程度の作文を書く。学期中に1200字程度の文章を書くことをコースの目標とする。
対象	: 中級1文章コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当
テキスト	: 『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動10% 中間試験20% 期末試験20% 課題50% ・以下の条件を満たしたもののについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-935-1、学部 FEN-JL4p40L1 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 鈴木 恵理 SUZUKI Eri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	水	オリエンテーション、レベルチェック、L1表記の仕方
2	4/ 17	水	L2文体
3	4/ 24	水	L2&L3モードチェンジ 話し言葉から書き言葉へ
4	5/ 1	水	L3&L4正しい構造の文
5	5/ 8	水	L4
6	5/ 15	水	【休講】金曜授業振替のため
7	5/ 22	水	L4
8	5/ 29	水	中間試験
9	6/ 5	水	L5文のつながり
10	6/ 12	水	L5&L6小論文によく使われる表現
11	6/ 19	水	L6
12	6/ 26	水	L6&L7段落
13	7/ 3	水	L7
14	7/ 10	水	L7
15	7/ 17	水	【休講】補講期間のため
16	7/ 24	水	期末試験

中級 2 文章

報告者：鈴木恵理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは週 1 回（1 コマ 105 分）の授業で、テキスト『小論文への 12 のステップ』（スリーエーネットワーク）の 1～7 課を 1 課当たり 2 コマ程度のペースで扱い、小論文を書くための文法や表現、技術を学んだ。「書く」という技能の特性を鑑み、毎回作文課題を課し、翌週には提出させて添削・返却することで、コース期間中、学生たちは学んだ知識を用いてアウトプットする経験を積んでいった。

【授業の内容】

授業では、「表記の仕方」、「文体」、「書き言葉と話し言葉の違い」など、作文の基礎知識をはじめ、「助詞」、「指示詞」、「接続詞」、「主語と述語の一致」、「名詞化」、「文のつながり」、「段落の構成」などを扱った。このレベルの学習者にとって、どれも初見ではないはずだが、明確な区別をつけて運用しきれていない項目が多く、その都度時間をとって整理しながら進めた。

2. その他

本コースで使用するテキストは練習問題が比較的多いのが一つの特徴であるが、それでも定着のためには十分とは言えない学生もあり、それぞれの弱点を克服すべく補足教材も多く用意した。小論文の書き方の学びを通して、初級後半レベル・中級前半レベルの復習が必要で、学生は当初、意外そうであった。しかし文法クラスとは違う切り口で断続的に復習と運用が続き、結果的に化石化した誤用が改まるなど、コース終了時には上達を実感していた。

3. まとめ・今後の課題

学生たちは、毎回の課題を欠かさず提出するなど、熱心に学習に取り組んでいた。今学期はクラスの規模が小さく、ちょっとした疑問も口にできるアットホームな雰囲気だった。報告者が初めて担当するコースだったので、少人数クラスで各人の個別の課題をその都度フォローできるのは良かった。ただ、今後人数が増えクラス規模が大きくなっても、同様に対応できる、より効果的で効率的なカリキュラム作りが求められる。

中級2 専門語彙・漢字

2024年度S1S2

レベル	: 中級2
スキル	: その他
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 88L
学習目標	: 日本の生活に必要な語彙、研究生活全般で使用するアカデミックな語彙に加え、工学系の学生が研究するうえで必要な専門分野の語彙を勉強する。旧日本語能力試験2-3級の漢字を中心に選んだ語彙の意味を理解するとともに語彙を用いて文を作成できるようにする。
対象	: 中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動20%、課題15%、発表10%、クイズ15%、中間試験20%、学期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 学期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-936-1、学部 FEN-JL4p50L1 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 7.【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 古市 由美子 FURUICHI Yumiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション レビュー&チャレンジクイズ
2	4/ 18	木	第1課: 漢字1-5 短文作成
3	4/ 25	木	第2課: 漢字6-10 短文作成 1課漢字クイズ
4	5/ 2	木	第3課: 漢字11-15 短文作成 2課漢字クイズ
5	5/ 9	木	第4課: 漢字16-20 短文作成 3課漢字クイズ
6	5/ 16	木	第5課: 漢字21-25 短文作成 4課クイズ
7	5/ 23	木	中間試験 (L.1-L.5) 第6課(1): 漢字26,27 課題(発表準備)1
8	5/ 30	木	休講
9	6/ 6	木	第6課(2): 漢字28,29,30 短文作成 課題 (発表準備) 2
10	6/ 13	木	第7課: 漢字31-35 短文作成 6課漢字クイズ
11	6/ 20	木	発表
12	6/ 27	木	第8課: 漢字36-40 短文作成 7課漢字クイズ
13	7/ 4	木	第9課: 漢字41-45 短文作成 8課漢字クイズ
14	7/ 11	木	第10課: 漢字46-50 短文作成 9課漢字クイズ
15	7/ 18	木	学期末試験 (L.6-L.10)

中級 2 専門語彙・漢字

報告者：古市由美子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは「理工学系話し言葉コーパス」のデータを応用したコースの一つである。日本語能力試験の旧 3・4 級レベルの単漢字を基に、研究室内で使われるアカデミックな語彙や工学系分野に特有の専門語彙を中心に、日常生活で使われる語彙も学習する。

教材は前任者が作成した自主教材であり、「理工学系話し言葉コーパス」をもとに、7 つの専攻（「化学システム工学」「建築学」「社会基盤学」「情報理工・電子情報学」「電気系工学」「都市環境工学」「都市計画」）に共通する頻出語彙を中心に、旧 3 級レベルの漢字を約 60 字選定したものである。

授業では、漢字・語彙の導入、その意味や使い方の学習、短作文の作成と添削、翌週のクイズ実施を繰り返し行い、語彙の定着と運用能力の向上を図った。

【授業の内容】

1 コマの授業では、5 つの単漢字とそれらを含む関連語彙を導入し、共起語やゼミで使用する表現も併せて提示した。提示の際には、単漢字の偏や傍の意味を解説し、音読み・訓読みを意識させ、最後に例文を使って定着を促した。その後、読み方や書き方に関する問題を手書きで練習し、授業後に毎回単作文を課題として提出させ、教員が添削を行った。定着を高めるため、2 課ごとにジグソー漢字クイズ、熟語作成クイズ、早読みクイズなどをグループ単位で競わせる形式で実施した。

2. その他

学期の半ばに 1 コマを使い発表を行った。学習者は「私の専門」「私の趣味」「○○で知った漢字」の中から好きなテーマを 1 つ選び、日本語の授業外で知った語彙、興味を持った部首、関連表現について発表し、他の学習者と共有した。今学期は、専門に関する発表のほか、「釣り」「動物」など趣味についての発表があり、活発な質疑応答が行われた。

3. まとめ・今後の課題

中国、韓国の漢字圏の学生 4 名、アメリカ、ロシア、ドイツ、タイ、セルビアなど非漢字圏の学生 8 名というクラス構成で、短作文や発表の課題に熱心に取り組んでいた。毎週の漢字クイズや試験では、ほとんどの学生が高得点を取り、漢字圏と非漢字圏の学生との差はあまり見られなかった。これは、漢字に興味を持つ非漢字圏の学生が多かったことが要因かもしれない。

期末アンケートでは、中級 2 の本コースを修了した際に、上級漢字コースへのニーズが数名から寄せられたが、対応は今後の課題である。

中級3 総合

2024年度S1S2

レベル	: 中級3 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日 08:30 - 10:15 水曜日
場所	: 工学部8号館 88L (月)、132 (水)
学習目標	: 大学や日常生活における様々な場面で適切に対応できる日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、抽象的なテーマを取り上げ、中級後半レベルの文型・語彙を用いながら、情報を正しく理解し、適切に表現する力を習得するための活動を行う。
対象	: 中級2総合コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
テキスト	: 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』 (スリーエーネットワーク) ※テキストは水色の表紙です。
評価	: 教室活動 5%、中間試験 20%、期末試験 20%、課末課題・独習課題 20%、語彙課題 10%、作文課題 10%、ショートスピーチ 2%、期末発表 13% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-938-1、学部 FEN-JL4g02L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 * 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 佐藤 瑞恵 SATO Mizue, 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko, 大西 由美 ONISHI Yumi, 鈴木 恵理 SUZUKI Eri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	月	オリエンテーション レベルチェックテスト
2	4/ 10	水	L1
3	4/ 15	月	L1、語彙課題 L1 DUE
4	4/ 17	水	L1、L2、語彙課題 L2 DUE、スピーチのイントロ
5	4/ 22	月	L2
6	4/ 24	水	L2、課末課題 L1 DUE
7	4/ 29	月	祝日
8	5/ 1	水	復習 (L1-2)、課末課題 L2 DUE
9	5/ 6	月	祝日
10	5/ 7	火	【月曜授業】 L3、語彙課題 L3 DUE
11	5/ 8	水	L3、語彙課題 L4 DUE
12	5/ 13	月	L3、L4、作文課題 (1)イントロ、語彙課題 L4 DUE

13	5/ 15	水	【休講】金曜授業振替のため
14	5/ 20	月	L4、課末課題 L3 DUE、作文課題 (1) DUE
15	5/ 22	水	L4
16	5/ 27	月	復習 (L3-4)
17	5/ 29	水	中間試験 (L1-4) 、課末課題 L4 DUE
18	6/ 3	月	L5、語彙課題 L5 DUE
19	6/ 5	水	L5
20	6/ 10	月	L5、L7、中間試験フィードバック、期末口頭発表1イントロ、語彙課題 L6&L7 DUE
21	6/ 12	水	L7、中間試験フィードバック
22	6/ 17	月	L7、課末課題 L5 DUE、独習課題 L6 DUE
23	6/ 19	水	L7、期末口頭発表2(1st Draft DUE)
24	6/ 24	月	復習 (L5、L7) 、独習課題 L6 フィードバック、期末口頭発表3(1st Draft Feedback)
25	6/ 26	水	L8、語彙課題 L8 DUE、課末課題 L7 DUE
26	7/ 1	月	L8
27	7/ 3	水	L10、語彙課題 L9&L10 DUE、独習課題 L9 DUE、期末口頭発表4(Final Draft DUE)
28	7/ 8	月	L10、課末課題 L8 DUE
29	7/ 10	水	復習 (L8、L10) 、独習課題 L9 フィードバック、期末口頭発表5 (発表練習、リハーサル)
30	7/ 15	月	祝日、課末課題 L10 DUE、期末口頭発表6 (Slide DUE)
31	7/ 17	水	【休講】補講期間のため
32	7/ 22	月	期末試験 (L5-10)
33	7/ 24	水	期末口頭発表

中級3 総合

報告者 Aクラス：佐藤瑞恵・牛山和子

Bクラス：大西由美・鈴木恵理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』（スリーエーネットワーク）を使用し、全 10 課中 8 課を 1 課平均 2.5 コマで扱い、残り 2 課は、独習課題を使って学生が自主的に学び、授業で教師がフィードバックを行うという形で授業を進めた。このほか、作文（2 回）とショートスピーチ（各学生 1 回）も課題とした。課題の配信や学生との連絡は、A・B クラス共 Google Classroom を用いて行い、作文の説明など、学生が必要とする情報は、できるだけ詳しく記載した。

【授業の内容】

授業では、各課に割り当てられたコマ数（1 コマ 105 分、平均 2.5 コマ）に応じて若干の違いはあるが、各課とも 1 回目は、その課のトピックについてクラスで話し合い、背景知識の活性化、キーとなる語彙の確認および学習項目前半の理解と産出練習を行った。2 回目以降の授業では、まだ扱っていない学習項目の理解と産出練習、本文読解、聴解練習を行った。また、時間が許す限り、教科書にある「読もう」「聞こう」「話そう」なども扱い、新しい語彙や表現に触れる機会とした。各授業では、学生が実際にその文型を運用できるよう、研究室や日常生活の場面、学生が興味を持つテーマなどと関連付けた練習も行った。

2. その他

2024S1S2 では、新たな試みとして、前学期の独習課題 1 回を 2 回にすることで、これまで時間の制約で行えなかった期末発表をシラバスに組み込んだ。これまでもショートスピーチは実施していたが、作文課題 2 と連動させ、スライドも使用した発表の場を提供することを目指した。期末発表の母体となる作文 2 は、「日頃感じている問題点や不便な点を提示し、解決策を提案する」というもので、学生が自由にテーマを選んで発表したが、いずれも社会性の高いテーマが選ばれ、タイムマネジメント、発表の仕方、質疑応答でのやりとりなどにおいて、各学生の努力と成長の跡が見られる活動となったように思う。

3. まとめ・今後の課題

2024S1S2 は 2 セクション展開であったが、A・B クラス合わせて 18 名でスタートした。A クラス、B クラス共 9 名という少人数クラスであったが、18 名中 17 名が期末試験を受験し、出席率の不足で修了とならなかった 4 名を除き、13 名がコースを修了した。

＜A クラス＞：一人一人の学習意欲が高く、教師にとっても気づきの多いクラスであった。来学期に向け、非漢字圏の学生の一助となるような語彙リストなどを作成していきたい。

＜B クラス＞：少人数ながら活気のあるクラスで、ペアワークなどでは積極的に話し合う姿勢が見受けられた。事情により欠席が多かった学生もキャッチアップできていた。

中級3 聴解

2024年度S1S2

- レベル : 中級III
- スキル : 聴解
- 開講期間 : 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
- 時間 : 10:25 - 12:10 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 132
- 学習目標 : 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中上級の日本語運用力を身につけることを目指す。授業では主に大学での講義や会議、研究発表を聞く力を養う練習を行い、聞くだけでなく、聞いたことをまとめたり要約したりする活動を行う。
- 対象 : 中級II聴解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
- テキスト : 留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解（中上級）スリーエーネットワーク
- 評価 : ・教室活動15%, クイズ30%, 課題15%, 中間試験20%, 期末試験20%
- ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。
 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード：大学院(3799-942-1)、学部(FEN-JL4q10L1)。
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
 7. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 中村 亜美 NAKAMURA Ami
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション、L1掃除、レベルチェック
2	4/ 18	木	L2本屋
3	4/ 25	木	L3新幹線のおでこ、L2クイズ
4	5/ 2	木	L4体験プレゼント、L3クイズ
5	5/ 9	木	L6犬の肥満、L4クイズ、課題①締切
6	5/ 16	木	L7卵かけご飯、L6クイズ
7	5/ 23	木	中間試験
8	5/ 30	木	休講【金曜授業】
9	6/ 6	木	L8女性専用車両
10	6/ 13	木	L10落語、L8クイズ、課題②締切
11	6/ 20	木	L11そばをすする音、L10クイズ
12	6/ 27	木	L12将棋、L11クイズ
13	7/ 4	木	L13南極、L12クイズ、課題③締切
14	7/ 11	木	L14明治神宮の森、L13クイズ
15	7/ 18	木	期末試験

中級3 聴解

報告者：中村亜美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解 中上級』（スリーエーネットワーク）を使用し授業を行った。1回の授業で1課ずつ学習し、教科書の流れに沿って1) テーマに関するミニディスカッション、2) 音声を聞く、3) 正誤問題、4) 内容確認問題、5) 要約、6) 表現練習の順で授業をすすめた。要約は時間の都合で授業内に扱えないこともあり、その場合は希望者のみ提出するという形にした。

【授業の内容】

授業では、教科書の5、9、15課以外の課を学習した。内容は「本屋」「新幹線のおでこ」「犬の肥満」「卵かけご飯」などである。「女性専用車両」「そばをすする音」などを扱った際には、学習者間で活発な意見交換が見られた。正誤問題はGoogle Classroomを利用し、その場で教師も学生の答えがわかるようにし、聞き取りができなかった箇所を確認したり、正答率の低い問題を全体でフィードバックしたりした。また、教科書以外に「ゼミで使われる表現」（「理工学系話し言葉コーパス」より抜粋）のディクテーションを行い、アカデミックな場面で用いられる表現について学ぶ時間も設けた。

2. その他

クイズは、課ごとにディクテーションクイズと語彙クイズの2種類を行った。ディクテーションクイズは、課を学習した次の回の授業で、本文の内容に近い長さのある文の聞き取りをし、語彙クイズは各自Google Classroomで行う形式で語彙の定着を図った。漢字圏の学習者が多かったので、カタカナの語彙も語彙クイズに含めるようにした。授業で扱えなかった上記の3つの課を課題として課すことによって、教科書のすべての課を網羅することができた。学生からの提案で、日本で訪れたおすすめの場所について毎回一人ずつ発表を行い、質疑応答も意欲的にしていた。

3. まとめ・今後の課題

学習者は授業内・外の課題に熱心に取り組み、お互いに聞き取れた内容を確認したり、意見を述べたりすることで理解を深めていた。開講当初は、長さのある文章の聞き取りに苦戦している学習者も多かったが、クイズの回数を重ねるにつれ聞き取り能力が伸びていった。ただし、期末試験でもカタカナの語彙の聞き取り、基本的な動詞の活用や語彙の表記が弱い学生もいた。今学期、初めて担当した科目で、学習者にとって何が難しいか手探りの部分もあったため、今後は今学期の経験をいかして授業をしていきたい。

中級3 会話

2024年度S1S2

- レベル : 中級Ⅲ
- スキル : 会話
- 開講期間 : 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
- 時間 : 10:25 - 12:10 月曜日
- 場所 : 工学部8号館 88L教室
- 学習目標 : 日常生活のやや複雑な場面において自分の意思を伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになる。また、そのために必要な待遇表現を学ぶ。抽象的なテーマについての発表、ディスカッションを通して、アカデミックな場面で必要な口頭表現能力を身につける。
- 対象 : 中級2会話コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
- テキスト : 授業内でプリント配付
- 評価 : 教室活動5%, 中間試験20%, 期末試験25%, ショートスピーチ10%, ディスカッション20%, 課題1(ロールプレイ) 10%, 課題2 (ディスカッション) 10%。
 ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-943-1, 2. 学部 FEN-JL4q20L1,
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- ※※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 大西 由美 ONISHI Yumi, 佐藤 瑞恵 SATO Mizue
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	月	レベルチェッククイズ、オリエンテーション、自己紹介
2	4/ 15	月	ショートスピーチのイントロ、雑談
3	4/ 22	月	ロールプレイ1、敬語復習
4	4/ 29	月	祝日
5	5/ 6	月	祝日
6	5/ 7	火	【月曜授業】ロールプレイ2
7	5/ 13	月	ロールプレイ3
8	5/ 20	月	ロールプレイ4 中間試験イントロ
9	5/ 27	月	中間試験
10	6/ 3	月	ディスカッション導入
11	6/ 10	月	ディスカッション 1
12	6/ 17	月	ディスカッション2
13	6/ 24	月	ディスカッション3、期末試験導入
14	7/ 1	月	ディスカッション 4

15	7/ 8	月	期末試験準備
16	7/ 15	月	祝日
17	7/ 22	月	期末試験

中級 3 会話

報告者：大西由美・佐藤瑞恵

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

教科書を用いずに対面で授業を行った。Google Classroom を使用し、課題を出した。

【授業の内容】

学期を通じて：冒頭にて、グループでの 15 分程度のアイスブレイク活動を行った。就職活動やインターンシップなどで実際に行われているものを取り入れた。

学期前半：大学で実際に経験する可能性が高い場面において、謝罪や交渉などを行う練習をした。敬語で目上の人と話す、くだけた話し方で友人と話す、という両方の練習を取り入れた。課題でロールプレイの会話を各自が作成した。中間試験では、このロールプレイ会話をもとに、教師と 1 対 1 で会話を行った。ロールプレイにない発話を教師から行うと予告しており、それに対する回答や会話の進行などを評価した。

学期後半：ディスカッションを行った。トピックをグループで提案し、全体でのトピックを決定した。スライドによるプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションは、ディスカッションのトピック、または採用されなかったトピックから、自分が意見を言いたいものを選択した。期末試験では、上記のプレゼンテーションを行い、質疑応答も評価に含めた。

2. その他

ショートスピーチを行った。わたしの大切な「人」「もの」「思い出」から選び、3 分のスピーチを行った。スライドは作成せず、写真の提示のみに留め、口頭でのわかりやすい話し方、伝え方を意識して話すことを目的とした。

3. まとめ・今後の課題

中級 1 中級 2 会話の学習を活かし、上級 1 会話へのかけはしとなるよう、中級レベルの総まとめとなる授業構成となっている。しかし、中級 1 中級 2 会話との重複も一部あり、コース全体での学習内容の整理ができれば、より効果的に学習が行えると思われる。

今学期からディベートをディスカッションに変更した。ディベートでは、時間の制約上、準備週と実施週を分けていたため、いずれかを欠席した場合に問題が生じていた。ディスカッションでは、準備と実施を同日に行えるため、この問題は解消できた。ボランティア学生の協力もあり、ディスカッションでしっかり意見を交わせたことは大きな成果である。一方、ディベート特有の、相手の意見を聞き短時間で考えをまとめて話す、チームで協力して話す、などの言語能力については、ディスカッションでは重点的に向上させることは難しかった。今後も実施方法を工夫して、多様な話し方を学ぶ機会を提供できるようにしたい。

中級3 専門読解

2024年度S1S2

レベル	: 中級3 レベル
スキル	: 読解
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 木曜日
場所	: 工学部8号館 132
学習目標	: 自然科学分野の語彙、表現を学ぶことにより、科学技術日本語の読解力を養成する。『T time!』(東京大学工学部広報誌)の記事を読み、東大における最新の研究内容を知り、理工系の専門用語の語彙力を向上させる。
対象	: 中級2読解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動10%、語彙クイズ15%、内容チェッククイズ15%、課題15%、発表5%、中間試験20%、期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-944-1, 学部 FEN-JL4q30L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 市原 明日香 ICHIHARA Asuka nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ、読解①次世代社会の基幹デバイス〜リチウムイオン電池〜 (化学システム)
2	4/ 18	木	読解①次世代社会の基幹デバイス〜リチウムイオン電池〜 (化学システム)
3	4/ 25	木	読解②計算機で地震に挑む (社会基盤)、語彙クイズ1、内容チェッククイズ1
4	5/ 2	木	読解③万有情報網 (電子情報工学)、語彙クイズ2、内容チェッククイズ2
5	5/ 9	木	読解④多様性が鍵〜高齢者にも優しい仮設住宅への取り組み〜 (建築)、語彙クイズ3、内容チェッククイズ3
6	5/ 16	木	復習、語彙クイズ4
7	5/ 23	木	中間試験
8	5/ 30	木	休講 (金曜授業のため)
9	6/ 6	木	読解⑤ロボットに意思は持てるか (情報学境)、内容チェッククイズ4
10	6/ 13	木	読解⑥未来の航空機設計最前線! (航空宇宙)、語彙クイズ5、内容チェッククイズ5
11	6/ 20	木	読解⑦次世代インターネット実現へ (電子情報工学)、語彙クイズ6、内容チェッククイズ6
12	6/ 27	木	復習、語彙クイズ7
13	7/ 4	木	発表の準備
14	7/ 11	木	発表
15	7/ 18	木	期末試験

中級3 専門読解

報告者：市原明日香

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは東京大学工学部の広報誌『Ttime!』のインタビュー記事をもとに作成された読解教材を使用し、科学技術日本語の読解力を養成することを目的としている。授業では、語彙クイズ、読解内容に即したディスカッション、本文の精読、内容の確認、表現文法や語彙の練習、本文に関連したウェブサイトの参照などを行った。また、コースの最後には学生自身が『Ttime!』の中から記事を選び、内容に関する発表を行った。

【授業の内容】

東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事を元に作成された読解教材は、東京大学大学院工学系研究科日本語教室の講師、あるいは過去に本授業を受講した学生が作成したものである。工学系の様々な分野の記事を読むことで工学系分野に関する語彙力と読解力を高め、同時にその分野の知識を深めた。また、読解教材本文に加えて、東大ウェブサイトに掲載されている講義動画を視聴する等、各トピックに関連する最新の情報を幅広くクラスで共有し、様々な観点から深く考え、話し合う時間を取り入れた。

2. その他

課題として、クラスの参加前に事前学習として本文を読み、内容確認クイズを受けることとした。語彙クイズは予習型で実施し、専門用語の定着を図った。複数の授業を履修しているためか途中で事前学習が難しくなり参加をとりやめた学生もいた。

3. まとめ・今後の課題

受講生は読解や会話力の技能にばらつきが見られたが、少人数のクラスであることを活かし、互いに学びあうピア・ラーニングを促しながら授業を進めた。毎回、文法文型や単語についての質問も多く、熱心に読解活動に取り組んでいた。ディスカッションも活発に行われ、教材で取り上げられたトピックから関連する研究やニュースへと発展させて話し合うことができた。今後もピア・ラーニングを取り入れつつ、専門分野の文章を読むために効果的な読解学習となるよう授業内容を工夫していきたい。

中級3 文章

2024年度S1S2

レベル	: 中級3 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 88M教室
学習目標	: 日本語でレポート、研究計画書などを書くために必要な表現技術や文章力を習得する。必要に応じたメール文の書き方を学ぶ。
対象	: 中級2文章コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
テキスト	: 『改訂版 大学・大学院留学生の日本語②作文編』 (アルク)
評価	: 教室活動20% 課題作文35% 中間試験20% 期末試験25% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-945-1、学部 FEN-JL4q40L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 *【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 宮瀬 真理 MIYASE Mari nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	レベルチェック、オリエンテーション
2	4/ 12	金	休講 【入学式のため】
3	4/ 19	金	第5課 テーマを述べる 課題1
4	4/ 26	金	第6課 理由・経過を述べる 課題2
5	5/ 3	金	祝日
6	5/ 10	金	第7課 定義をする 課題3
7	5/ 15	水	【金曜授業】 第8課 判明していることを述べる 課題4
8	5/ 17	金	第9課 問題点を述べる
9	5/ 24	金	休講 【補講日】
10	5/ 30	木	【金曜授業】 中間試験
11	5/ 31	金	休講 【中休み】
12	6/ 7	金	第10課 引用する 課題5
13	6/ 14	金	第11課 解決策を述べる フォーマルなEメール 課題6
14	6/ 21	金	第12課 手順を述べる 課題7
15	6/ 28	金	第13課 指示詞を使う 課題8
16	7/ 5	金	第14課 研究計画書を書く① 課題9

17	7/ 12	金	第14課 研究計画書を書く② 課題10
18	7/ 19	金	期末試験

中級3 文章

報告者：宮瀬真理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語 ②作文編』（アルク）を主教材として使用し授業を行った。当教室では中級2 文章クラスで書き言葉の文体等、作文の基本を学んでいるため、当クラスでは当該テキストの第Ⅰ部は扱わず、第Ⅱ部の5課から14課を扱った。また提出作文から見えてくる履修学生にとって必要と思われる項目を適宜取り上げ、レポートや研究計画書を書くために必要な文章能力を総合的に仕上げることを目標に授業を行った。目上の人に対するメール文の書き方を合わせて扱い、お願いのメール、お詫びのメールなど、改まったメールの書き方の習得も目指した。

【授業の内容】

テキストに沿って、まず文法や表現を学び、練習問題や短文作成問題などを行った。短文作成の後、自分の研究内容について、クラスで学んだ文法や表現を用い、文章作成を行った。授業内の活動はスプレッドシートを用いた個別作業と、グループワークを適宜合わせて行った。グループワークでは、お互いが書いたものを発表し合ったり、直し合ったり、内容について意見交換をし合ったりした。

400～600 字程度の作文を毎回課題とし、個別に添削・フィードバックした。また次の授業で誤用について考えるなど全体フィードバックを行った。

課題のやりとりには個別やりとりがしやすい Google Classroom を使用した。

2. その他

主教材の内容にプラスして、要約文の書き方、呼応表現、及び間違えやすい自動詞他動詞の使い方についてもクラスで扱った。文単位の文法にとどまらず、段落そして複段落という文章全体に関わる文法も扱っていく必要がある。

3. まとめ・今後の課題

作文の指導は個別の指導を必要とすることが多いが、どこまで教師が指導すべきか、また学生同士のピア活動をどう取り入れていくか、議論の余地がある。教師も指導において、生成 AI をどのように使っていくか、今後生成 AI と教師の分担を考えていく必要があるかもしれない。

多文化理解プロジェクト

2024年度S1S2

- レベル : 中級3-上級1・2
- スキル : その他
- 開講期間 : 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
- 時間 : 13:00 - 14:45 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 88L
- 学習目標 : 本コースは、留学生同士または留学生と日本人が、互いの文化や社会について協働学習を通して学び合うことを目標としている。授業では、「多文化」「異文化」「相互理解」を主なキーワードに、日常生活を取り巻くさまざまなトピックについて話し合い、その成果を発表やレポートの形でまとめていく。また、地域社会への貢献のひとつとして、日本の小学校への訪問も予定している。
- 対象 : ・中級2/中級3/上級1総合コースの修了者、またはJLPT N2/N1相当、CEFR B2/B2+/C1相当
・日本人学生
- テキスト : 自主教材
- 評価 : 参加度・教室活動 20% 中間試験 25%、課題(プロジェクトワーク) 30%、期末試験 25%
- その他 : 1. 以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 期末試験を受験
2. コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
3. 中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。
1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
UTAS コード: 大学院 3799-034-1, 学部 FEN-CO4452L1.
2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- *【重要】 第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」を受けてください。
オリエンテーションに出られない人は、オフィスにメールをください。
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp
- 担当 : 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション 多文化理解とは何か (1)
2	4/ 18	木	多文化理解とは何か (2) 日本・母国の文化を知る (1)
3	4/ 25	木	日本・母国の文化を知る (2) ・学びの場 (学校制度、その他の学びの場と学習方法)
4	5/ 2	木	日本・母国の文化を知る (3) ・衣食住 (生活を支える文化)
5	5/ 9	木	日本・母国の文化を知る (4) ・仕事と余暇 (文化・芸能・スポーツなど) 小学校訪問のための準備 (発表・交流活動の準備) (1)
6	5/ 16	木	小学校訪問のための準備 (発表・交流活動の準備) (2)
7	5/ 23	木	中間試験
8	5/ 30	木	休講 【金曜授業振替】

9	6/ 6	木	日本の小学生との交流・自国の文化についての紹介、交流活動 * 訪問日は変わる可能性がある
10	6/ 13	木	多文化共生について考える (1) ・小学校訪問から得たもの (ディスカッション、振り返り)
11	6/ 20	木	多文化共生について考える (2)
12	6/ 27	木	多文化理解・多文化共生のためにできること クラス発表の準備
13	7/ 4	木	クラス発表 Grp.A
14	7/ 11	木	クラス発表 Grp.B
15	7/ 18	木	期末試験

中級 3-上級 1・2 多文化理解プロジェクト

報告者：牛山和子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

「多文化理解プロジェクト」は、工学系日本語教室の授業の中で唯一日本人学生も履修登録ができるコースである。留学生と日本人学生が互いの文化を学び合うことで文化の多様性への理解を深め、自国の文化についてもさまざまな視点から新しい発見や学びを得ることを目標としている。例年 S1S2 学期は小学校、A1A2 学期は中学校を訪問し、地域社会との交流活動も行っている。授業は、毎回その週のテーマをもとにしたワークシート、グループワークおよびディスカッションを中心に進めた。また、Google Classroom に「意見交換ノート」として活用できる Google スプレッドシートを入れた。このシートを教室のモニターに映して共有することで、クラス全体での意見交換も円滑に行えるようにした。

【授業の内容】

S1S2 学期の授業には、23 名が参加した。内訳は、留学生 15 名（中国 6 名、韓国 3 名、スウェーデン 2 名、中国系 1 名、台湾 1 名、マレーシア 1 名、ロシア 1 名）および工学部を中心とした日本人学生 8 名であった。授業では、多文化理解の枠組みとなる概念などの紹介の他、「教育」（各国の教育制度の比較や教育上の新しい取り組みやコンセプトについての理解）、「食文化」（風土、伝統、文化交流などが生む食文化の多様性）、「小学生/中学生が興味を持つ文化」などをテーマにディスカッションを重ねた。S1S2 は、6 月 6 日に大田区立矢口西小学校を訪問し、5 限 13:40-14:25 および 6 限 14:30-15:15 に 3 年生（4 クラス、計 110 名）との交流活動を行った。当日は 4 つのクラスに分かれて活動し、PowerPoint などを用いて留学生は自国の、日本人学生は出身地の文化紹介などを行った。また、質疑応答の時間や多文化理解につながるゲーム、クイズなどを通して交流を深めた。

2. その他

地域の小・中学校との多文化理解のための交流は、コロナ禍での中断を除き、S1S2 学期は大田区立矢口西小学校の先生方、A1A2 学期においては、お茶の水女子大学附属中学校の先生方のご協力を得て継続的に行われている。例年、こうした訪問は、学生たちにとって得難い体験となっている。訪問の準備段階でのクラスメートとの意見交換、実際の訪問と交流から得た学びについて学期末レポートなどで言及する学生が数多く見られ、交流の意義を改めて感じている。両校の先生方に深く感謝の意を表したい。

3. まとめ・今後の課題

留学生と日本人学生がひとつの教室で同じ課題に取り組み、共に活動する中で得られる学びは非常に大きいと思われる。今後も発展的な意見交換を促す活動テーマを探していく必要があると感じている。国際化が急速に進む日本における「多文化理解」の意味と意義を実感できる場として、本コースを活かしたい。

【中級3】 日本語キャリアブリッジ

2024年度S1S2

レベル	: 中級3
スキル	: その他
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日
場所	: 工学部8号館 88L
学習目標	: 日本の組織で就職やインターンシップをするために基礎的な知識、スキル、ビジネスマナーなどを実践的に養う。また、このクラスでは、就職活動のための文章、会話の日本語力を養う。
対象	: 日本語 中級2総合を修了した人、又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当。学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP(学部生)
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動15%、課題45%、クイズ10%、中間試験10% 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位_2_認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード: 大学院 3799-959-1 学部FEN-JL4r53L1, 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 古市 由美子 FURUICHI Yumiko, 佐野 理恵 SANO Rie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	火	オリエンテーション・自己紹介
2	4/ 16	火	エントリシートの基礎
3	4/ 23	火	エントリシートの対策1 (*自己PR)
4	4/ 30	火	エントリシートの対策2 (*学生時代頑張ったこと)
5	5/ 7	火	休講
6	5/ 14	火	業界研究の方法
7	5/ 21	火	日本の就職事情
8	5/ 28	火	中間試験
9	6/ 4	火	エントリシートの対策3 (*志望動機)
10	6/ 11	火	内定者・OB/OGの話を聞く
11	6/ 18	火	面接の基礎
12	6/ 25	火	グループディスカッション
13	7/ 2	火	集団面接
14	7/ 9	火	ビジネス場面における敬語
15	7/ 16	火	休講
16	7/ 23	火	期末試験

中級3 日本語キャリアブリッジ

報告者：古市由美子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、日本語能力試験 N2 相当の中級レベルの学生を対象とし、就職活動やインターンシップに必要な知識、スキル、およびビジネスマナーの習得を目的としている。これまでは上級レベル（N1 相当）の学生を対象としたキャリアコースのみが開講されていたが、中級レベルの学生からのニーズの高まりを受け、新たに本コースを開設するに至った。

本コースでは、教材および資料は全てオリジナルを作成した。また、留学生就職促進プログラム（CDIP）のオンデマンド教材を予習・復習ツールとしてだけでなく、課題とした。さらに、就職活動における個別の課題や特定の企業を想定した相談については、留学生キャリア相談室の利用を推奨した。

【授業内容】

授業内容は、日本の就職活動の概要、エントリーシート（ES）の作成、業界・企業研究、面接練習、そして社会人として必要となる敬語、ビジネスマナー、メール作成といったテーマを取り扱った。受講者の日本語レベルが N2 であることを考慮し、ES 作成においては、句読点の使用、文体の統一、書き言葉と話し言葉の区別、接続詞の適切な使用といった基礎的事項も含めた。その上で、学生自身の強みや専門性と将来の職業を結び付けたキャリアプランを検討し、「自己 PR」「学生時代に力を入れたこと」をそれぞれ 400 字の課題とした。業界・企業研究においては、学生による発表を中間試験と位置づけ、その発表内容に基づいた 400 字の「志望動機」を課題とした。また、オンデマンド教材に含まれるビジネス日本語関連のコンテンツを課題とし、学生が自律的に学習を進められるよう配慮した。

面接対策としては、「個人面接」「集団面接」「グループディスカッション」の 3 形式に対応するため、ビデオ教材の視聴、ロールプレイング、ペアによる相互フィードバックなどの実践的な練習を行った。学生は応募者としての練習に加えて、面接官の視点から評価を行う経験も積むことで、多角的な理解を促した。

2. その他

IT、コンサルティング、金融、コンテンツといった多様な業界から 4 名の内定者を招き、就職活動の進め方、内定に至るまでの苦労、企業選択の背景、そして就活生への具体的なアドバイスを中心に語っていただいた。受講生からは多くの質問が積極的に寄せられ、好評だった。

3. まとめ・今後の課題

受講生には、日本語を書くことや話すことに自信がない学生が複数いた。受講生の日本語レベルや意識に差があり、学びたいことや習得したいスキルが個々で異なった。そのため、授業で使用する PowerPoint 資料の漢字にルビを付与するなどの配慮を行った。今後の課題として、引き続き受講生のニーズを把握し、授業内容および方法の改善に努めていきたい。

上級1 総合

2024年度S1S2

レベル	: 上級1
スキル	: 総合
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 88M (火) 、123 (金)
学習目標	: 本コースでは、学生生活や日常生活を取り巻くさまざまな話題を取り上げ、日本社会や文化への理解を深めながら、上級レベルの4技能をバランスよく身につけることを目標とする。クラスでは、ピアラーニング、アクティブラーニングを取り入れた学習を中心に据え、クラスメートと協働しながら、1) 語彙・表現力、2) 読解力、3) 聴解力 および 4) アカデミックプレゼンテーションやアカデミックライティングの力も伸ばしていく。
対象	: 中級3総合コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当
テキスト	: 『留学生のための時代を読み解く上級日本語』 第3版 スリーエーネットワーク
評価	: 教室活動・その他 15% 課題 20% プレゼンテーション 10% リアクションシート 10% 中間試験 20% 期末試験 25% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 期末試験を受験・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学 期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院(3799-939-1)、学部 (FEN-JL4r04L1) 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めないが、本コースの履修を決めている場合は、初日に出席することが強く期待される。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 ※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 宮瀬 真理 MIYASE Mari , 市原 明日香 ICHIHARA Asuka nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	レベルチェックテスト、オリエンテーション
2	4/ 9	火	トピック「生活」 L1-1
3	4/ 12	金	休講 (入学式のため)
4	4/ 16	火	トピック「生活」 L1-2
5	4/ 19	金	トピック「生活」 L1-3 提出: リアクションシート
6	4/ 23	火	トピック「生活」 L5-1
7	4/ 26	金	トピック「生活」 L5-2
8	4/ 30	火	トピック「生活」 L5-3 提出: リアクションシート
9	5/ 3	金	祝日

10	5/ 7	火	休講（月曜クラス授業）
11	5/ 10	金	トピック「少子高齢化」 L6-1
12	5/ 14	火	【金曜授業振替】 トピック「少子高齢化」 L6-2
13	5/ 15	水	【金曜授業振替】 トピック「少子高齢化」 L6-3
14	5/ 17	金	復習 L1/L5/L6 トピック「少子高齢化」 L9-1
15	5/ 21	火	【金曜授業振替】 トピック「少子高齢化」 L9-2
16	5/ 24	金	休講（補講日のため）
17	5/ 28	火	中間試験（L1/L5/L6）
18	5/ 30	木	【金曜授業振替】 トピック「少子高齢化」 L9-3 提出：リアクションシート
19	5/ 31	金	休講（中休み）
20	6/ 4	火	トピック「教育」 L11-1
21	6/ 7	金	トピック「教育」 L11-2&L11-3 提出：リアクションシート
22	6/ 11	火	トピック「企業と労働」 L17-1
23	6/ 14	金	トピック「企業と労働」 L17-2
24	6/ 18	火	トピック「企業と労働」 L17-3 提出：リアクションシート
25	6/ 21	金	アカデミックプレゼンテーション + ディスカッション (1)
26	6/ 25	火	トピック「環境と人間」 L25-1
27	6/ 28	金	トピック「環境と人間」 L25-2
28	7/ 2	火	トピック「環境と人間」 L25-3 提出：リアクションシート
29	7/ 5	金	トピック「科学技術と人間」 L20-1
30	7/ 9	火	アカデミックプレゼンテーション + ディスカッション (2)
31	7/ 12	金	トピック「科学技術と人間」 L20-2
32	7/ 16	火	休講（補講日のため）
33	7/ 19	金	トピック「科学技術と人間」 L20-3 復習：L9/L11/L17/L25/L20
34	7/ 23	火	期末試験

上級 1 総合

報告者：市原明日香・宮瀬真理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『留学生のための時代を読み解く上級日本語』（スリーエーネットワーク）から 8 つの課を選んで、少子高齢社会や働き方といった社会問題やロボットの医療活用などのテーマを取り上げた。テキスト読解を通して日本社会や文化への理解を深めながら、上級レベルの 4 技能をバランスよく身につけることを目標とした。ピアラーニング、アクティブラーニングを取り入れた学習を中心に据え、クラスメートと協働しながら、1) 語彙・表現力、2) 読解力、3) 聴解力 および 4) アカデミックプレゼンテーションやアカデミックライティングの力を伸ばす授業設計にした。

【授業の内容】

各課を 2 回または 3 回（105 分×2 /×3）で終えるペースで進めた。各課の 1 回目の授業では、その課に関連する動画をクラスで視聴したり資料を読んだりし、話し合いをした。感想を話すことでキーワードになる語彙の練習となりテキスト読解の準備とした。次に教員作成の「表現練習シート」を配布し、短文作成などで上級レベルの文法文型の理解を深めてから本文前半の読解をした。2・3 回目の授業では、本文後半の読解と「話す練習」を行い、内容理解と質疑応答練習をした。その上で、タスクワークやディスカッションなどの協働学習を行った。最後に学習のまとめとしてリアクションペーパーによる作文練習を行った。

2. その他

事前学習として、漢字と言葉を調べて例文を作るタスクシートを Google Classroom 上で配布し、添削指導をした。また語彙練習問題を Google Forms で配信し、知識の定着をはかった。課題のプレゼンテーションにおいても事前に題目、スライド、発表原稿を指導した。毎回 12 人程度の出席者がいたため、発表は前半と後半に分け 2 名の教員それぞれの担当曜日に行い、十分に指導を行った。

3. まとめ・今後の課題

プレゼンテーションでは授業で取り上げた社会的なテーマに関連付けた発表が多く、各自でよく調査し、日本語だけで質疑応答ができており、上級らしい成長がみられた。

日本人学生ボランティアについて、春学期は火曜クラスに入ってもらい、好評だった。今後も曜日に関わらず日本人学生を招き、交流を活性化していきたい。

上級1 聴解

2024年度S1S2

レベル	: 上級 1
スキル	: 聴解
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 木曜日
場所	: 工学部8号館 324C
学習目標	: 日本の社会や文化に関するニュースやスピーチを視聴し、背景知識や語彙を学習して聞き取れるようにする。上級レベルで求められる聴解ストラテジーを身につける。
対象	: 中級3聴解コースの修了者、JLPT N1相当、またはCEFR B2+相当
テキスト	: 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（上級）』スリーエーネットワーク
評価	: 教室活動10%、参加度5%、課題20%、クイズ20%、中間試験20%、期末試験25% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-927-1、学部FEN-JL4r11L1, 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。

【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当 : 藤井 明子 FUJII Akiko
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション, レベルチェック,L1
2	4/ 18	木	L2
3	4/ 25	木	L3, クイズL2
4	5/ 2	木	L4, クイズL3, 課題1 締切
5	5/ 9	木	L6,クイズL4
6	5/ 16	木	L7,クイズ L6
7	5/ 23	木	中間試験
8	5/ 30	木	休講
9	6/ 6	木	L8, 中間試験FB
10	6/ 13	木	L10, クイズL8, 課題2 締切
11	6/ 20	木	L11, クイズ L10
12	6/ 27	木	L12, クイズL11
13	7/ 4	木	L13、クイズL12、課題3 締切
14	7/ 11	木	L14,クイズL13、
15	7/ 18	木	期末試験

上級 1 聴解

報告者：藤井明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（上級）』（スリーエーネットワーク）を使用し授業を行った。授業中のクイズ、3回の課題、中間試験、期末試験を実施した。

【授業の内容】

授業で扱った課は、第1～14課（第5、9、15課を除く）であった。授業では、まずトピックについて知っていることを話し合った後、音声を聞き、教科書の質問に答えてもらった。その後、ペアで答え合わせを行い、答えの内容だけでなく語彙・文法などについてもよりよい答えを考えてもらった。この際、教員からもフィードバックを行った。更に、要約練習も行った。

クイズは、前回の授業で聞き取りが難しかった部分を中心に、内容的に似た文を聞いて、答えを書いてもらうディクテーションを行った。暗記してきた文をそのまま答えることにならないようするためである。学習した語彙が使えるようになるよう出題を工夫した。

2. その他

授業外の課題として、教科書の第5、9、15課を使用した。課題シートの質問は教科書の質問を少し変え、答えは学習者自身で考えなければならないようにしてある。

時間の余裕がある時には、各課のトピックを発展させ、学生同士で意見交換をした。

3. まとめ・今後の課題

参加者は大変熱心で、回を重ねるごとに、質問に対する答え方、要約の仕方が改善され、学習の成果が見られた。また、ディクテーションも準備をしっかりとってくる学習者が多く、高得点を取っていた者もいた。

履修登録者は4名で、内2名が修了した。また、1名は、出席率不足で修了には至らなかったものの、最後まで授業に参加し、期末試験も受験した。

教科書のトピックがやや文系よりであるため、苦手意識を感じて、履修をやめたい学生がいたことは残念だった。が、ほかに適切な教科書もないため、今のところ教科書変更の計画はない。

学期当初のレベルチェックを経て、クラス変更で移動してくる学生がいるが、修了に至る学生は非常に少ない。授業中には、答えを書いたり学生同士で意見交換したりする機会が多いため、自分の書く・話すレベルにもあっているかどうか、参加希望者に見極めさせることも重要であろう。

上級1 会話

2024年度S1S2

- レベル : 上級 レベル
- スキル : 会話
- 開講期間 : 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
- 時間 : 10:25 - 12:10 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 722
- 学習目標 : 様々な社会問題についてのディスカッション、インタビュー調査、発表プレゼン、日本人学生との会話等様々な活動を通して、さらなる口頭表現の技術を習得することを目指す。
- 対象 : 中級3会話コースの修了者、JLPT N1相当、またはCEFR B2+相当
- テキスト : 日本語超絶話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現（スリーエーネットワーク）
- 評価 : 教室活動10%、中間試験25%、期末口頭発表25%、語彙クイズ20%、課題10%、ショートスピーチ10%
- ・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
- ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
- ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : ①単位(2)認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-928-1, 学部 FEN-JL4r21L1.
- ②修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
- ③コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
- ④30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
- ⑤第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
- ⑥授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : ハワード 文江 HOWARD Fumie
- nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ
2	4/ 18	木	L1、L1語彙クイズ締切
3	4/ 25	木	L2、L2語彙クイズ締切
4	5/ 2	木	L2、L3、L3語彙クイズ締切
5	5/ 9	木	L3、L4、L4語彙クイズ締切
6	5/ 16	木	L4
7	5/ 23	木	中間試験
8	5/ 30	木	休講 金曜授業振替のため
9	6/ 6	木	L5、L5語彙クイズ締切
10	6/ 13	木	L5、L6、L6語彙クイズ締切
11	6/ 20	木	L6、L7、L7語彙クイズ締切
12	6/ 27	木	L7、L8、L8語彙クイズ締切
13	7/ 4	木	L8、L9、L9語彙クイズ締切
14	7/ 11	木	L9
15	7/ 18	木	期末口頭試験

上級 1 会話

報告者：ハワード文江

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』（スリーエーネットワーク）を使用し、全 12 課のうち 1～9 課までを扱い、1 課を 1～2 コマのペースで進めた。上級話者として必須の定型表現やインフォーマルな表現を用いたスピーチのみならず、相手の立場を尊重しながら互いの立場の違いを理解し会話を進める日本的な文化背景等を含め、超級話者を目指すことを目標とした。又 Google Classroom を使用し、語彙クイズ、ショートスピーチ関連のシート、ピア評価用の共有シートなどを配信した。語彙クイズは予習型とし、ショートスピーチは共有シートから受講生のスケジュールを考慮し、各自の都合に合わせてサインアップできるようにした。またピア評価も共有シートを利用し、参加者全員からのコメントを 1 ページ上で確認できるようにした。

【授業の内容】

授業では、教科書に沿って、独話、会話ロールプレイ、ディスカッション、ディベートなど様々なスタイルでの発話練習を行った。毎回、授業では課のテーマに関する導入ディスカッションの後、談話構成やや複雑な定型表現の確認と練習を行い、ペアで表現の練習をし、最後に数組に発表してもらった。授業後には、ペアワークをした相手に対するコメントを共有スプレッドシートに記入し、ピア評価を行った。コメントは肯定的な感想や具体的なアドバイスで、学生同士で学び合う姿が見られた。また、各授業の初めに 1～2 名の学生に最近の国内外のニュースについてショートスピーチをしてもらった。様々なニュースが取り上げられ、スピーチをした学生はもちろん、スピーチを聞いた学生にも学びがあった。ショートスピーチの後には発音、イントネーション、間のとり方などについて個別にフィードバックを行い、より正確で自然なスピーチになるよう指導した。

2. その他

中間試験と期末試験ではテキストの既習範囲を踏まえ、ロールプレイ形式の会話試験を実施した。

3. まとめ・今後の課題

受講者からは教科書を使用し上級話者として必須の定型表現を学ぶことに対する好意的な意見が多かった一方で、ディスカッションの意見交換の時間が十分に取れないことに対する不満も聞かれた。発音の指導も個々にレベル差があり、十分行うことが難しかった。今後は学生ボランティアのサポートも得て、個々のニーズに応えられるようにしていきたい。

上級1 読解

2024年度S1S2

レベル	: 上級
スキル	: 読解
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日
場所	: 工学部8号館 123教室
学習目標	: 論文を読むための基礎となる文章の構成に関する文法知識を学習しながら、大意を把握したり、必要な情報を読み取れるようになることを目指す。
対象	: 中級3読解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当
テキスト	: 『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編 アルク 発売日: 2015/5/28 (改訂版) ISBN-9784757426337
評価	: 中間試験 25% 期末試験 25% クイズ20% 読解課題10% 作文課題10% 教室活動10% ・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 学期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-929-1、学部FEN-JL4r31L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 市原 明日香 ICHIHARA Asuka nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	月	オリエンテーション, レベルチェッククイズ
2	4/ 15	月	L1,
3	4/ 22	月	L2, クイズ1
4	4/ 29	月	祝日
5	5/ 6	月	祝日
6	5/ 7	火	L3、クイズ2
7	5/ 13	月	L4, クイズ3
8	5/ 20	月	L5, クイズ4
9	5/ 27	月	中間試験
10	6/ 3	月	L6 クイズ5
11	6/ 10	月	L7, クイズ6
12	6/ 17	月	L8, クイズ7
13	6/ 24	月	L9, クイズ8
14	7/ 1	月	L10, クイズ9
15	7/ 8	月	L11,
16	7/ 15	月	祝日
17	7/ 22	月	期末試験

上級 1 読解

報告者：市原明日香

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

上級 1 読解では、教科書として『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語③論文読解編』（アルク）を使用し、授業を行った。教科書の全 14 課のうち 10 課分を扱い、1 回の授業で 1 課ずつのペースで読解練習を行った。事前課題は本文の読解を行った上で、各自で未習の語彙があれば調べ、内容理解の正誤問題をやることとした。授業中には、ペアやグループで構造把握および内容理解の論述問題を議論しながら学習した。

【授業の内容】

テキストの各課の内容は「異文化適応」や「衝動買い」「食感」「水質」「方向音痴」など身近な事象の科学的な解説文と、「教育」「ジェンダー意識」「労働」「医療倫理」などの社会問題に関する論説文であった。いずれも学生たちの興味関心を引く内容で、論文やレポートの読み方を学ぶのにふさわしい内容だった。

上級レベルの論文でよく使われる文法文型や語彙の練習、段落ごとの精読、論説文全体の構造の理解、読解後の感想述べとステップ・バイ・ステップで学習した。読解の前後には読解文のテーマについて話しあい、学習した語彙や文型を教室内で積極的に使用する機会を作った。

2. その他

修了者はいずれも大変集中して授業に取り組んでいた。今学期は全員が中国語母語話者であったので漢字語彙は比較的理解が容易だったが、使用の範囲や語感について中国語と比較しながら中国語母語話者が共通して間違いやすい点を解説するなど、教員の専門知識を活かして教えることができた。

3. まとめ・今後の課題

テキストの問題はほぼ誤答なくできており、試験の結果も優秀だった。読解のレベルは揃っていたが、発言の量にばらつきが見られた。読んだ内容をアウトプットすることによって理解を深めていくことを目標に、互いに話しあいが活発にできるよう読解前後にしっかり時間を確保していきたい。

上級1 文章

2024年度S1S2

レベル	: 上級レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 金曜日
場所	: 工学部5号館1F 54
学習目標	: 日本語のレポートや論文の表現や構成を学び、論文執筆のための基礎力を養成する。
対象	: 中級3文章コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当
テキスト	: アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④ 論文作成編』（アルク）
評価	: 教室活動20% 参加度5% 中間試験20% 期末試験25% 課題30% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-930-1、学部FEN-JL4r41L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	オリエンテーション/レベルチェック
2	4/ 12	金	休講 (入学式)
3	4/ 19	金	第1課「作文の基本1」 第2課「作文の基本2」 第3課「課題の提示」
4	4/ 26	金	第4課「目的の提示」 課題1 締切
5	5/ 3	金	祝日
6	5/ 10	金	第5課「定義と分類」
7	5/ 15	水	第6課「図表の提示」, 課題2 締切
8	5/ 17	金	第8課「対比と比較」,
9	5/ 24	金	休講 (補講日)
10	5/ 30	木	第9課「原因の考察」
11	5/ 31	金	休講 (中休み)
12	6/ 7	金	中間試験
13	6/ 14	金	第10課「列挙」
14	6/ 21	金	第11課「引用」
15	6/ 28	金	第12課「同意と反論」 課題3 締切
16	7/ 5	金	第13課「帰結」
17	7/ 12	金	第14課「結論の提示」
18	7/ 19	金	期末試験

上級 1 文章

報告者：片岡さゆり

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、レポート、論文の構成を学び、各項目にふさわしい表現を習得することを目標とし、『留学生の日本語 ④論文作成編』（アルク）をテキストとして授業を行った。

【授業の内容】

まず、中級で学習した話し言葉と書き言葉の使い分けを復習し、レポート、論文に用いられる文体を確認した。また、和語・漢語の使い分けを整理し、練習問題を通じて語彙・表現の拡充を図った。次にテキストに沿って、論文の構成を学び、各項目において何をどのように書いたらよいかを意識化し、練習問題で語彙・表現の基礎力をつけた上で課題執筆を行った。テキスト資料においては、適宜 新しいデータ、多様なデータに改変して使用した。

課題は 1. 授業内課題：テキスト課題 1 に準じる（200-500 字程度） 2. コース課題：各学生の研究レポート、論文への応用（400-1000 字程度） とし、教師が添削、アドバイスをを行った。学生一人一人と話しながら、記述意図を理解した上で修正、助言を行う時間を重視した。

コース後半では、専門分野のレポート、小論文を 2、3 本選び、構成、文体、表現などを参照し、課題執筆の参考にしよう促した。

2. その他

今学期はコース修了 6 名全員が理工系の学生であった。そのため検証型論文の例文を使用して語彙・表現を習得できるように授業を進め、日本語コースとして指導できる範囲に留意し、添削、助言を行った。

また翻訳ソフト、生成 AI などの使用に関して、注意すべき点を周知し、正しい使用のためには、まず自らの日本語の総合的な能力を上げていくことが必要であることを確認した。

3. まとめ・今後の課題

課題の執筆は努力と時間を要するものであるが、学生は意欲的に取り組んでいた。個人での活動が主になるが、ピア活動、口頭発表との連携などをさらに取り入れていきたいと考える。

【上級1,2】日本語キャリアデザイン

2024年度S1S2

レベル	: 上級
スキル	: その他
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 火曜日
場所	: 工学部8号館88L
学習目標	: 日本の組織で就職やインターンシップをするために必要な知識、スキル、ビジネスマナーなどを実践的に養う。
対象	: 日本語 中級3を修了した人、又はJLPT N1相当、学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP(学部生)
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動15%、課題45%、発表20%、期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位 2. 認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード: 大学院 3799-959-1学部 FEN-JL4r50L1, 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 佐野 理恵 SANO Rie, 古市 由美子 FURUICHI Yumiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	火	オリエンテーション・自己紹介
2	4/ 16	火	日本の就職事情
3	4/ 23	火	エントリーシートの対策1 (*自己PR)
4	4/ 30	火	エントリーシートの対策2 (*学生時代頑張ったこと)
5	5/ 7	火	休講
6	5/ 14	火	エントリーシートの対策3
7	5/ 21	火	業界研究発表1 中間試験
8	5/ 28	火	業界研究発表2 中間試験
9	6/ 4	火	エントリーシートの対策4 (*志望動機)
10	6/ 11	火	内定者・OB/OGの話を聞く
11	6/ 18	火	面接1
12	6/ 25	火	面接2
13	7/ 2	火	面接3
14	7/ 9	火	入社に向けた準備・ビジネス場面における敬語
15	7/ 16	火	休講
16	7/ 23	火	ビジネスメール・報告書書き方、*期末試験

上級 1, 2 日本語キャリアデザイン

報告者：佐野理恵

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

R5 年度までの日本組織事情コースを「日本語キャリアデザイン」へ名称変更し、就職やインターンのために必要な知識やスキル、ビジネスマナーを養うことを目的に開講した。日本語キャリアブリッジコースの新設に伴い、本コースでは日本語に関する指導や助言は課題の添削時など個別での対応を中心に実施し、キャリアに主軸を置いた講義、指導を行った。

教材や資料は全てオリジナルを使用した。留学生就職促進プログラム（CDIP）のオンデマンド教材は授業内のワークシートとして活用した他、予習、復習ツールとして紹介した。授業の進行よりも早いペースで就職活動が進んでいる学生に対しては、個別のキャリア相談で応じ、特定企業を想定した対策や不安に対するフォローを行った。

【授業の内容】

授業内容は、就職活動の流れの講義から始まり、エントリーシート（ES）の書き方、業界／企業研究、面接練習、最後に敬語やビジネスマナー、メールの書き方などをテーマとした授業を実施した。ES では、自己分析を通じて、職業と自身の強みや専門性を結び付けたキャリアプランについて検討した。「自己 PR」「学生時代に力を入れたこと」をそれぞれ 400 字の課題とした。業界／企業研究では、学生の発表を中間試験とし、業界／企業研究に基づいた 400 字の「志望動機」を課題とした。面接対策では「個人面接」「集団面接」「グループディスカッション」の 3 種類の対策を目的に、ビデオ視聴やロールプレイング、ペアによるフィードバックなどを取り入れた実践練習を行った。応募者としての練習だけでなく、面接官として評価する視点も養った。ペアやグループワークでは、志望業界や活動状況等を基にグループ分けを実施、互いに刺激を受けながら意識やスキルの向上にと努めた。

2. その他

過去受講生より IT、コンサル、金融、コンテンツ業界より 4 名の内定者に依頼し、就職活動の進め方や企業決定の理由、就活生へのアドバイスなどを中心に話題提供してもらう講話会を実施した。受講生には事前に講話者のプロフィールを配布し、参加意識を高めてもらった。当日は活発な質疑応答が交わされ、受講生は業界や企業、就活に関する有益な情報収集ができた。また、内定者も自らの就職活動を振り返る良い機会となったと好評だった。

3. まとめ・今後の課題

受講生の日本語レベルに差はあまり見られなかったが、修了生の 64% が他研究科所属、また修士学生以外（学部または博士課程）が 36% であり、所属や身分にばらつきが見られたことから、就職活動への意識や学びたいテーマが個々により異なることもあった。今後もクラス規模や受講生のニーズを見ながら内容や運営の工夫改善に努めたい。

上級2 総合

2024年度S1S2

レベル	: 上級 2
スキル	: 総合
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 水曜日
場所	: 工学部5号館 54講義室
学習目標	: 大学や日常生活のあらゆる場面で適切に対応できる上級レベルの文型・語彙を用いながら上級の4技能を身につけることを目指す。自分の意見や主張を適切に発信する力を習得する活動（ディスカッションや発表など）を行う。授業では、日本の文化、日本人の考え方や価値観を知り、異文化理解を深める。
対象	: 上級1 総合コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動10%、ことば・漢字クイズ15%、宿題15%、中間試験20%、期末プロジェクト10%、期末試験20%、作文10% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院(3799-946-1)、学部 (FEN-JL4r03L1) 2. 修了証は成績がC以上学生で、希望するものに発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めないが、本コースの履修を決めている場合は、初日に出席することが強く期待される。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 市原 明日香 ICHIHARA Asuka nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	水	オリエンテーション、レベルチェックテスト
2	4/ 17	水	読解1-1
3	4/ 24	水	読解1-2
4	5/ 1	水	ディスカッション、作文1、言葉クイズ1 (Reading1)
5	5/ 8	水	リスニング1、読解2、言葉クイズ2(R2)、作文1提出
6	5/ 15	水	休講 【金曜授業振替】
7	5/ 22	水	読解3、作文2提出
8	5/ 29	水	中間試験
9	6/ 5	水	読解4、期末発表の説明、中間試験Feedback
10	6/ 12	水	読解5、言葉クイズ3(R4)、期末発表の準備1(テーマ締切)
11	6/ 19	水	新聞記事を読む、言葉クイズ4(R5)、期末発表の準備2(アウトライン締切)
12	6/ 26	水	ディスカッション、期末発表の準備3(PPT下書き締切)
13	7/ 3	水	リスニング2、期末発表の準備4(PPT清書締切)
14	7/ 10	水	期末発表（期末プロジェクト）

15	7/ 17	水	休講（補講日のため）
16	7/ 24	水	期末試験

上級 2 総合

報告者：市原明日香

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

上級 2 総合では、自主教材である読解教材 5 本、聴解教材 1 本を使用し、インプットとアウトプットの総合的な演習を行った。後半には読解問題で扱ったテーマを発展させたディスカッションと、各自でインタビューを実施し、結果をまとめて発表する課題を課した。ディスカッションに際して文献調査や要点整理などの事前準備を行うことでアカデミック・ジャパニーズの能力を促進した。

【授業の内容】

教材の内容はすべて生教材であり、理工系の学生も関心を持てるよう、科学に関わるテーマが中心であり、科学者としての考え方など哲学的なテーマを含む多様な内容であった。授業では、読解および聴解教材の内容理解問題を行うとともに、関連する語彙や文法表現についても解説した。例文の理解や短作文の練習などを通して文型の定着を図った。聴解は、東京大学がオンラインで公表している講義ビデオを一部視聴し、講義の内容を理解する練習を行った。

2. その他

受講生のうち 3 名は専門の研究生活では完全に英語を使っているためか、日本語の会話は上級 1 レベルよりも流ちょうとは言えなかった。短文や単語の不完全な受け答えがほとんどであったため、想定していた上級 2 よりも低いレベルから始め、発展問題よりも文法文型の理解に重きをおいた。読解文の要約や問題に対する質疑応答練習によって徐々に長文で話せるようになった。

3. まとめ・今後の課題

受講生の 5 名中 4 名が修了した。未修了の学生と博士課程の学生 2 名によれば、最終発表の課題と期末試験の負担が重かったそうである。上級レベルの学生のニーズをより細やかにくみ取り、ニーズに合わせたスケジュールや課題内容に調整していきたい。

上級2 聴解

2024年度S1S2

レベル	: 上級2 レベル
スキル	: 聴解
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 月曜日
場所	: 工学部8号館 132教室
学習目標	: 様々な分野のトピックに関する大学の講義やニュースなどの動画・音声を基に、さらなる聴解力の向上を目指す。また、各テーマに関連する語彙・表現の習得や背景知識に対する理解を深める活動を行う。
対象	: 上級1 聴解コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当
テキスト	: 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 動画で学ぶ大学の講義』スリーエーネットワーク
評価	: 教室活動10%、参加度10%、クイズ20%、課題20%、中間試験20%、期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-947-1、学部FEN-JL4r32L1, 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 猪狩 美保 IGARI Miho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	月	オリエンテーション, レベルチェック, L1
2	4/ 15	月	L2, 課題 L2
3	4/ 22	月	L3, 課題 L3
4	4/ 29	月	祝日
5	5/ 6	月	祝日
6	5/ 7	火	【月曜授業】 L4, 課題 L4, クイズ L2&L3
7	5/ 13	月	L5, 課題 L5
8	5/ 20	月	講義やニュースの動画, クイズ L4&L5
9	5/ 27	月	中間試験
10	6/ 3	月	L6, 課題 L6
11	6/ 10	月	L7, 課題 L7
12	6/ 17	月	L8, 課題 L8, クイズ L6&L7
13	6/ 24	月	L9, 課題 L9
14	7/ 1	月	L10, 課題 L10, クイズ L8&L9
15	7/ 8	月	発表とディスカッション, クイズ L10
16	7/ 15	月	祝日
17	7/ 22	月	期末試験

上級 2 聴解

報告者：猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、2024S1S2 学期から新たに開講された上級 2 レベルの聴解コースである。聴解スキルの向上を目指し、大学の講義を十分に理解できる聴解力や、トピックの関連語彙や表現を幅広く網羅し、習得していくことを目的としている。今学期は『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ動画で学ぶ大学の講義』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとし、各課のトピックについて聴解タスクやディスカッションを行うとともに、様々な分野の講義動画やスピーチなど多様な素材を基に聴解練習および意見交換を行った。また、課ごとに内容確認クイズやワークシートの提出、語彙・表現クイズを実施し、理解の定着を図った。聴解タスクをベースに、当該トピックの社会的・文化的背景にも目を向け、様々な角度から捉え、話し合うことで多面的な見方を養う機会となることを目指した。

【授業の内容】

毎回の授業の前に、学習する課の聴解内容（講義）を事前に聴き、オンライン形式の内容確認クイズに回答した。授業ではテキスト内容に基づき、ポイントを絞って聴解タスクを行い、講義内容に出てきた資料を読み解いたうえで、クラスでディスカッションを行った。内容に関するワークシートも活用し、自身の考えをまとめ、授業後に提出した。動画内の語彙・表現はその使われ方にも着目し、的確に使いこなせることを目指して、2 課ごとに語彙・表現課題を実施した。発展学習として、テキスト以外の関連動画や、ニュースやスピーチなど異なるタイプの聴解活動についても、テキストの聴解活動と並行して行った。学期中に 2 回、学生自身が選んだトピック・素材を基に、発表、聴解活動と意見交換を行い、いずれの回も活発な議論がなされた。

2. その他

動画や資料などの教材や課題は Google Classroom を有効活用し、学生が繰り返し聴解タスクに取り組むことができるよう設定した。

3. まとめ・今後の課題

新しく開講されたコースでもあり、すでに上級レベルの聴解力を持つ学生に対し、聴解スキルをより向上させるための効果的・効率的なクラス活動・授業内容を試行錯誤しつつ進めた。受講学生は 4 名と少なかったが、熱心に課題に取り組み、ディスカッションは活発に行われた。今後も上級レベルの学生が意欲的に、より高い日本語力の習得を目指して学習を進めていけるよう、今学期の試行を基に、コース内容を充実させていきたい。

上級2 会話

2024年度S1S2

レベル	: 上級 2
スキル	: 会話
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部5号館1F 54
学習目標	: 様々な社会問題についてのディスカッション、発表などの活動を通して、さらなる口頭表現の技術を習得し、批判的な思考力を養うことを目指す。
対象	: 上級 1 会話コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当
テキスト	: テキストは使用しない
評価	: 教室活動10%参加度 10% ショートスピーチ10% 中間口頭発表 20% 期末口頭発表 20% 課題 30% ・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率 70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位(2)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-948-1, 学部 FEN-JL4r22L1. 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	オリエンテーション、復習クイズ
2	4/ 12	金	休講 (入学式)
3	4/ 19	金	自己紹介、社会文化テーマについて意見を述べる - 1
4	4/ 26	金	ディスカッション(1)
5	5/ 3	金	祝日
6	5/ 10	金	ディスカッション(2), 課題①イントロ、中間試験説明
7	5/ 15	水	課題①発表-1
8	5/ 17	金	課題①発表-2, ディスカッション (3)
9	5/ 24	金	休講 (補講日)
10	5/ 30	木	社会文化テーマについて意見を述べる - 2、課題②イントロ
11	5/ 31	金	休講 (中休み)
12	6/ 7	金	中間試験(口頭発表)
13	6/ 14	金	ディスカッション(4)
14	6/ 21	金	課題②発表 - 1
15	6/ 28	金	課題②発表 - 2, 期末試験の説明
16	7/ 5	金	ディスカッション(5)
17	7/ 12	金	期末試験準備
18	7/ 19	金	期末試験 (ディスカッション)

上級2 会話

報告者：片岡さゆり

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

発表、ディスカッション活動の基礎力をすでに持つ学生を対象とし、習熟度を更に高めることを目標とした。テキストは用いず、スピーチ、グループディスカッション、パネルディスカッションの実践的学習を行った。学生は、基本的な枠組みの中で自主的にテーマを選定し準備した。ディスカッションでは、進行、意見調整などのプロセスを重視し、教師はコミュニケーションの観点から適宜アドバイスを行った。各活動を通して自らの課題を認識し改善に努めるとともに、他者の意見を理解し、よい聞き手となることを目指した。

【授業の内容】

活動の枠組みは次の通りである。研究—学生生活—社会・文化を関連づけられるよう大きな枠組みを設定し、学生が自主的にテーマを絞って発表、ディスカッションを行った。質疑応答では、時間に限りがあるため、スプレッドシートを活用し、議論の継続を図った。

なお、1)-③を中間試験、3)-②を期末試験とした。

1) スピーチ

- ① 最近のニュースについて考えたこと 又は 留學生活の経験から考えたこと
- ② Three Minute Thesis (研究分野について一般の人に紹介する)
- ③ 社会貢献、環境問題へのアプローチと研究
- ④ 映画、ドラマ、アニメ、美術・音楽作品批評 (社会文化テーマから見た作品批評)

2) グループディスカッション

- ① 環境問題について
- ② 就職活動について

3) パネルディスカッション

- ① 就職活動の現状と課題
- ② 生成 AI の活用と課題

2. その他

ボランティア学生 (1 名) の参加によってクラス活動が活性化された。来学期は複数名の参加を期待したい。

3. まとめ・今後の課題

当初、学生の習熟度に差が見られたが、それぞれの課題を自覚して改善に努力し、積極的に活動していた。今学期はスピーチに比してグループディスカッションの時間が十分にとれなかった点が残念である。

上級2 読解

2024年度S1S2

レベル	: 上級2
スキル	: 読解
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 木曜日
場所	: 88L 工学部8号館
学習目標	: さまざまなジャンル、文体、テーマを扱った文章を読み、「読解力とは何か」という問いかけに学習者自らが発展的な答えを出せるような活動を目指す。
対象	: 上級1読解コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当
テキスト	: 自主教材
評価	: ・準備課題10%、読解課題20%、発展課題15%、中間試験20%、期末試験25%、教室活動10%。 ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上、2) 期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間や期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合は評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-949-1、学部 FEN-JL4r32L1。 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 ※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して、オリエンテーションとレベルチェックを受けてください。
担当	: 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ
2	4/ 18	木	読解 1
3	4/ 25	木	読解 2
4	5/ 2	木	読解 3
5	5/ 9	木	読解 4
6	5/ 16	木	発展活動1と復習
7	5/ 23	木	中間試験
8	5/ 30	木	休講 【金曜授業】
9	6/ 6	木	中間試験FB 読解 5
10	6/ 13	木	読解 6
11	6/ 20	木	発展活動 2
12	6/ 27	木	読解 7
13	7/ 4	木	読解 8
14	7/ 11	木	発展活動 3と復習
15	7/ 18	木	期末試験

上級2 読解

報告者：牛山和子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コース（2024 年度新規開講）では、学習者主体の対話を交えた読解活動を目指して授業を行った。読解用の資料は、いずれも日本語母語話者を対象として書かれた新聞記事やインターネット記事、またはそれと同等レベルのテキストから選び、課題は Google Classroom から配信した。

【授業の内容】

授業では、時事・社会問題、ポップカルチャー、Z 世代とその前後の世代、脳科学などを題材とした読解資料のほか、読解内容に関連したインタビュー記事なども取り上げた。ひとつのテーマを多角的に読む活動の中で要約力をつけ、読解力向上に必要な語彙力や表現力を高めることを目指した。授業は概ね以下の流れで行った。

- ① アイスブレイキング（最近話題になっているニュース、興味を持っている記事などについてのディスカッション）
- ② -a 新しいテキストに入る場合：読解のためのトピックの提示、背景知識の活性化と重要語彙の確認と共有
- ② -b 前の週の復習から入る場合：提出された課題についてのピアフィードバック活動、教師からのフィードバック、読解ポイントの確認など
- ③ 読解のためのボキャブラリービルディング、慣用句、日本語話者がよく使う表現などの確認や自分用の語彙表の作成（Google Classroom 内の共有シートを使用）
- ④ 速読（②-a の場合）または精読（②-b の場合）、意見交換、重要箇所の音読（クラスメートや教師と分担）
- ⑤ 質疑応答や読解のトピックに関連する短いインタビュー動画の視聴（キーワード、キーコンセプトの確認）など

2. その他

読解作業においては各学生が集中してテキストと向かい合う時間が必要である。しかし、学習が孤立しないことも重要であり、授業内では、キーワードの選び方、テキストの要約の仕方などについて意見交換をする時間を多く設けた。

3. まとめ・今後の課題

新規開講となった SIS2 学期は、専門の授業との関連で登録のみとなった学生のほか、修士課程編入試験や博士論文の提出準備などで多忙となり、残念ながら修了に至らなかった学生もいた。また非漢字圏の学生には漢字や語彙の難しさなども障壁となったようである。このような状況を踏まえ、今回目指した対話形式の読解活動や学習者同士の「協働学習」形式の活動をより積極的に行っていくことも有用ではないかと考えている。

上級2 文章

2024年度S1S2

レベル	: 上級 レベル 2
スキル	: 文章
開講期間	: 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 324C教室
学習目標	: 自分が関心ある分野の論文を3本以上読み、まとめた内容の論理的文章をアカデミックな文章記述の基本的な形式に則って書けるようになる。
対象	: 上級 1 (文章) コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当
テキスト	: 『大学生と留学生のための論文ワークブック』 (くろしお出版)
評価	: 教室活動10%、参加度10%、中間試験20%、期末試験 (最終成果物) 30%、課題30% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-950-1、学部FEN-JL4r42L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 藤井 明子 FUJII Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション、レベルチェック
2	4/ 18	木	論文の構成、コンセプト・マップの作成
3	4/ 25	木	論文のテーマ報告、課題1
4	5/ 2	木	序論の書き方の確認
5	5/ 9	木	参考文献について報告する、問題提起文を書く
6	5/ 16	木	アウトラインを考える、序論を書く
7	5/ 23	木	中間試験 (中間報告会)、序論の検討・修正、課題2
8	5/ 30	木	休講
9	6/ 6	木	本論を書く
10	6/ 13	木	本論の検討・修正、課題3
11	6/ 20	木	結びの検討・修正
12	6/ 27	木	結びの検討・修正、課題4
13	7/ 4	木	全体を書き直す
14	7/ 11	木	論文を完成させる、課題5
15	7/ 18	木	期末試験 (論文の提出、最終報告会)

上級 2 文章

報告者：藤井明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）を使用し授業を行った。学期を通じ、タイピングで日本語のレポート作成を行った。毎回の授業中と授業外で書き進めたレポートの下書きおよび清書、中間試験（中間報告会）、期末試験（最終報告会）を評価の対象とした。

【授業の内容】

授業では、自分が選んだテーマで日本語のレポートを作成することを最終目標とし、その目標に向かって、毎回の授業でレポートを書き進めていった。添削と書き直しを繰り返すことになるため、長いレポートを書くのではなく、アカデミックな日本語のレポートを文法・語彙を正確に使って書けることを目標とした。また、レポートにふさわしい書き言葉を使うことも目標とした。

教科書は、履修者に必要だと思われる部分を選択して授業で取り上げ、練習問題も行った。

中間・最終報告会では、自分が書いたレポートについてアイデアや参考文献などについてスライドを使用して口頭発表をしてもらい、質疑応答も行った。

2. その他

授業中、クラスメイトのレポートを読ませてもらい、お互いにフィードバックする機会を可能な限り多く設けた。よいアドバイスができる学生もいて、クラスメイトからのフィードバックによって、レポートをよりよいものに仕上げることができた学生が複数いた。

3. まとめ・今後の課題

履修登録した学生は7名、内6名が修了した。レポート作成を通じて、それまで使えなかった書き言葉や日本語の学術論文に使う表現などを学び、修了した学生はいずれも大変よいレポートを書きあげることができた。

履修した学生の専門分野は理系・文系多岐にわたっており、研究方法もさまざまであった。このため、学生同士での情報交換も盛んだった。

残念だったのは、教科書の内容が文系に偏っており、履修生の関心ある分野とはやや隔たりがあった点である。そのため、次回以降は教科書を変更する予定である。また、適切なテーマを選んでアウトライン案を書くことができず、履修をやめた学生がいたので、学期当初から個別に丁寧なアドバイスを行うことが重要だと再認識した。

冬季日本語特別集中科目1

2024年度A1A2

- レベル : 初級1 レベル
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2025/ 02/ 03 - 2025/ 02/ 21
- 時間 : 08:30 - 10:15 月曜日
08:30 - 10:15 水曜日
08:30 - 10:15 金曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M教室
※2月21日のみ、工学部8号館 722教室
- 学習目標 : 初級前半 (L1-12) の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。
ひらがな・カタカナを実践レベルで使えるようになる。
基本的なコミュニケーションができる。
- 対象 : ひらがなとカタカナの読み書きができる人
- テキスト : 『大地1 メインテキスト』 (スリーエーネットワーク) 電子書籍あり※
『大地1 文型説明と翻訳』 (スリーエーネットワーク) 電子書籍あり※
※勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。
- 評価 : 教室活動10%、語彙クイズ10%、聴解クイズ5%、作文課題10%、かなクイズ10%、文法クイズ15%、期末試験40%
- その他 : 以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上、2) 期末試験を受験。
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。
A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間や期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合は評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
1. 単位1認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード: 大学院3799-971、学部FEN-JL4 t 01L1
2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。
3. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
4. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
5. 【重要】このコースは、進度がとても速いため、履修には下記の条件をクリアすることが求められる。
・初回授業までに、ひらがなとカタカナを習得すること。
・毎回、予習と復習、宿題をすること。
・全日程、出席できること。
- 担当 : 劉 羅麟 Liu Luolin
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	2/ 3	月	Orientation, Kana Confirmation Quiz, L1, VQ1
2	2/ 5	水	L2, L3
3	2/ 10	月	L4, L5
4	2/ 12	水	L6, L7, Grammar Quiz-1(Verb Conjugation)
5	2/ 14	金	L8, L9
6	2/ 17	月	L10, L11
7	2/ 19	水	L12, Review, Grammar Quiz-2(Adj Conjugation)
8	2/ 21	金	Final Exam(L1-12)

冬季日本語特別集中科目 1

劉 羅麟

1. 授業内容

授業は3週間（月・水・金）計8コマで、集中講義として行った。ひらがなとカタカナの読み書きができる前提で、『大地1』（スリーエーネットワーク）のL1～L12を扱い、短期間で初級前半の文法項目の習得を目指した。集中講義という性質上、オリエンテーションと期末試験の回を除き、1コマにつき『大地1』の2課分の主要な学習内容を扱った。

授業の流れについて、授業の前には、オンラインの語彙クイズを満点が取れるまで受けるよう学生に指示し、語彙の定着を図った。授業では、各課の文型（特に誤用が生じやすいもの）を中心に解説した後に、簡単な短文作成や会話練習を通して学生の理解を確認した。授業の後には、教科書の内容に基づいて作成した聴解クイズや作文課題を課し、学習内容の内在化を促した。期末試験の前には、教科書のまとめの単元や自作の復習プリントなどを使って復習を実施した。

2. 評価方法

評価は、教室活動、語彙クイズ、聴解クイズ、作文課題、仮名クイズ、文法クイズ、期末試験で行った。

仮名クイズについては、ひらがなとカタカナの読み書きができるという前提を確認する目的もあり、初回の授業のオリエンテーション後に実施した。形式は、字形が似ている仮名を書くものと、長音・撥音・促音を含めたディクテーションの二つにした。

文法クイズについては、動詞の活用と形容詞の活用の二つにした。それぞれ『大地1』のL7とL11の学習内容を反映している。また、単に活用ルールを書かせるのではなく、その活用形が使われる文脈を意識した応用問題も設けた。

3. 授業の振り返り

登録者5名のうち、4名は最後まで参加した（平均出席率：87%）。短期間で多くの語彙や文法項目を学習しなければならないという制限がある中、よく努力したと考える。4名のうち2名は、日本での滞在が終わり、母国に帰国することとなったが、日本語の学習が面白くて有意義だったという。残りの2名は、来学期、上のレベルに進級し、日本語の学習を続ける予定である。

通常の授業期間が終了した後に行われた本冬季日本語特別集中科目は、学習内容に対して授業時間が短いという制限こそあるが、滞在中に少しでも日本語を体系的に学習しておきたい、または短期間でキャッチアップしてからより上のレベルで日本語を学習し続けたいという学習者のニーズに合っていると思われる。

ビジターセッション・日本事情 (13:00-14:30)

2024年度S1S2

レベル : 全レベル
 スキル : 該当無し
 開講期間 : 2024/ 04/ 05 - 2024/ 07/ 24
 時間 : 13:00 - 14:45 水曜日
 場所 : 工学部8号館 88M/88L
 学習目標 : ・シニアボランティアとの自由会話：日本人シニアボランティアとさまざまなトピックを少人数のグループで楽しく会話しします。
 ・日本文化体験：イベントを通して日本の文化に触れましょう。参加は事前申し込みの上抽選になります。（詳細はメールでお知らせあり）今学期は落語・浴衣・書道・茶道の合計4回のイベントを予定しています。
 対象 : 全レベルの学習者
 テキスト : なし
 評価 : 単位なし
 その他 : 自由会話は登録不要です。文化体験イベントは申込必要（抽選）
 担当 : 市原 明日香 ICHIHARA Asuka, 早坂 美和子 HAYASAKA Miwako
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	水	休講
2	4/ 17	水	休講
3	4/ 24	水	自由会話 工学部8号館 88L
4	5/ 1	水	休講
5	5/ 8	水	落語体験 工学部8号館 88L
6	5/ 15	水	休講
7	5/ 22	水	自由会話 工学部8号館 88L
8	5/ 29	水	休講
9	6/ 5	水	浴衣ワークショップ 工学部8号館 132
10	6/ 12	水	自由会話 工学部8号館 88M
11	6/ 19	水	自由会話 工学部8号館 88M
12	6/ 26	水	書道ワークショップ 工学部8号館 88L
13	7/ 3	水	茶道体験 工学部8号館 88L
14	7/ 10	水	休講
15	7/ 17	水	休講
16	7/ 24	水	休講

ビジターセッション&日本文化事情

報告者：市原明日香・早坂美和子

1. 活動の方法と内容

【活動の方法】

近年の日本文化に対する留学生の関心の高まりを受け、自由会話と共に実施していた文化体験イベントの開催回数を増やした。また体験型だけではなくワークショップ形式にして、より活発な活動が出来るよう工夫をした。

自由会話では、9名のボランティア（秋山賢一氏、北林三枝子氏、小林桜子氏、篠崎いずみ氏、田中勉氏、橋本富美栄氏、松枝文恵氏、野城ゆうこ氏、山崎佳子氏）の方々にご協力をいただき、留学生と少人数に分かれての活発な自由会話が行われた。

【活動の内容】

日本文化イベントでは、落語体験、浴衣ワークショップ、書道ワークショップ（S1S2, A1A2の2回開催）、茶道体験（S1S2, A1A2の2回開催）、アニメアテレコ体験、折り紙ワークショップ、着物体験を実施した。

自由会話では留学生のレベルに応じてグループ分けをし、ボランティアの方々からの話題提供や留学生から出されたテーマをもとに日本語での会話を楽しんだ。

2. その他

浴衣ワークショップ・着物体験・折り紙ワークショップは、自由会話に参加頂いているボランティアの方々がご協力してくださり、落語体験・アニメアテレコ体験では、プロフェッショナルな方々が素晴らしいパフォーマンスを披露してくださった。

一方、書道ワークショップ・茶道体験では、現役東大生に協力をお願いした。

3. まとめ・今後の課題

文化体験イベントは、伝統的な日本文化のみならず、アニメなどのサブカルチャーも取り入れ、今後もより一層活発化をしていきたい。また現役の日本人東大生にも協力をお願いして、学生同士の交流も同時に推進していきたい。しかしながら、協力してくれる東大生が卒業した後の後継者探しが難しく、今後の課題である。

自由会話については参加学生の減少傾向が続き、今後について検討したい。

チュートリアルセッション

報告者：牛山和子

1. 目的

チュートリアルは、S2 学期および A2 学期において実施される教員による学習サポートである。工学系研究科日本語教室（新名称：工学系研究科日本語教育コース）の受講者は、授業においても教員に質問をしたり、クラスメートとのピアラーニングを通してさまざまな能力や知識を獲得したりすることができる。しかし、受講者一人一人が必要とするサポートや質問は多岐にわたっており、時間的な制約の他、研究計画書についての相談など、授業では対応できない場合もある。こうした個々の受講者のニーズに合わせた日本語学習支援を行うのが、チュートリアルの目的である。

2. 概要とサポート内容

チュートリアルの概要およびサポート内容の例は以下のとおりである。

[目的] 留学生などの個別日本語学習支援

[対象] 工学系研究科日本語教室の授業を現在受講中または過去に受講していた学生

[日時] 2024 年度 S2：6/5-7/17 / A2：12/4-1/22

毎週水曜日 14:00-14:45 & 14:55-15:40（各 45 分）×2 名×7 週

[サポート例]

- ・日本語学習全般に関する支援
- ・日本語学習法に関するアドバイス
- ・既習事項の確認
- ・日本語能力試験対策指導
- ・レポート・研究計画書の添削
- ・奨学金申請書類の添削

チュートリアルでは、一人一人の質問や学習上の困難に対して教員が個別指導を行い、対話を通じてそれぞれの相談者に適した学習法や教育リソースなどを紹介する。また、チュートリアルをきっかけとして、相談日以降も継続的な学習が可能になるような助言を行い、学習者自身が自律的に学習を続けられるヒントとなるような助言も行っている。

3. 活動報告と今後の課題

2024 年度 S2（6/5-7/17）は 14 名、A2（12/4-1/22）は体調や急な事情により予約がキャンセルとなった 3 名を除く 11 名に対し、それぞれの相談内容に応じたサポートを行った。

チュートリアルには初級、中級、上級、すべてのレベルから申し込みがあった。具体的には、1) 日本語学習法に関する相談、2) 既習項目の復習、3) 面接の練習、4) JLPT 受験準備のための相談、5) 語彙の習得法、6) 会話上達のための練習などであったが、総じて、会話の練習がしたいという希望が多かった。チュートリアルの最大のメリットは、学習者一人一人のサポートを丁寧に行える点にある。こうした利点を生かし、今後も個々の受講生のニーズに応える場としてチュートリアルの充実を図っていくことが求められると言えよう。

2.5 受講者と修了者

ここでは、2024 年度の受講者と修了者について述べる。まず、年度別受講者の延べ数および実数の推移（図 2）を分析すると、統計を取り始めた 2011 年度以降、当該日本語教育コース内における教育改革や国内外の社会的要因の影響を受けて、大きく 4 つの時期に分けられる。①2011 年度から 2016 年度にかけての段階的な受講者増加期、②2017 年度から 2019 年度にかけての定員制導入による受講者数の安定期、③2020 年度および 2021 年度における新型コロナウイルス感染症の影響による受講者数の減少期、④2022 年度以降は受講者数が再び安定し、実数の増加期である。2024 年度は、実数が 2011 年と比較し 2.8 倍となり過去最多数だった。受講者が自身の学習ニーズに応じてコースを選択する傾向が強まっていることが窺える。

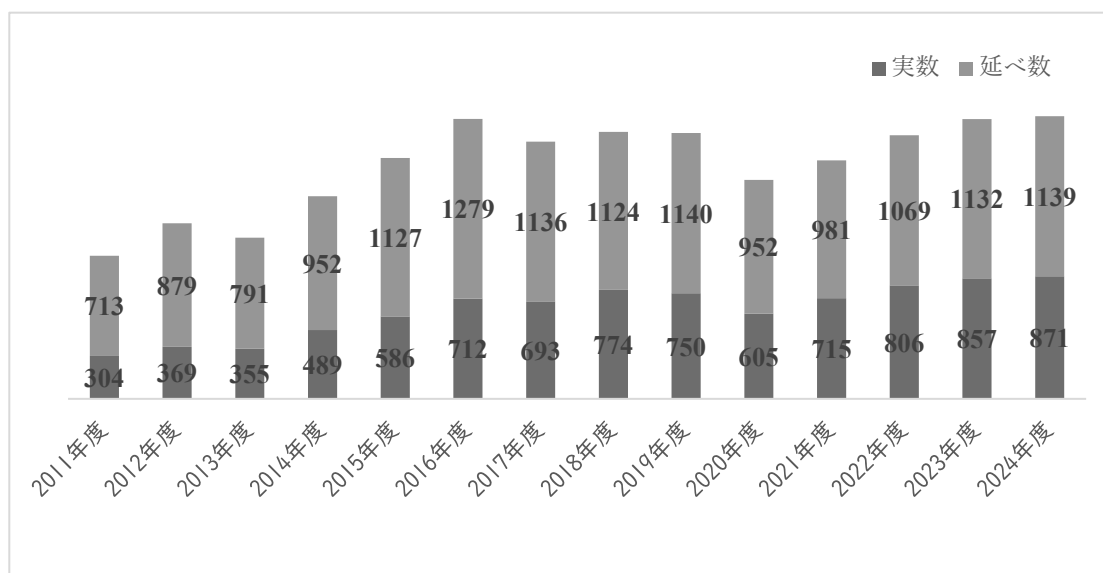


図 2 年度別受講者数推移

2.5.1 S1S2 受講者

次に、工学系研究科日本語教育コースおよび専攻日本語教室の 2024S1S2 の受講者について報告する。

1) 工学系研究科日本語教育コース受講者

表2は研究科別・レベル別の受講者（7レベル、35コース）の延べ数と実数を示したものである。全研究科の延べ数と実数を前年度と比較すると、延べ数で41名、実数で15名減少した。特に、工学系研究科について見ると、前年度比延べ数（-26名）と実数（-21名）減少した。

表2 SIS2 研究科別・レベル別受講者数 () 内は単位申請者数

研究科 \ レベル	初級I	初級II	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ 合計	実数 合計
① 工学系研究科	67	38	47	37	36	27	16	268(73)	212(60)
② 情報理工学系	22	6	7	7	21	16	2	81(31)	64(27)
③ 新領域研究科	1	0	1	7	7	4	0	20(6)	13(6)
④ 全学交換留学生	10	8	9	0	3	7	3	40(35)	29(25)
⑤ 他研究科	18	8	18	27	25	17	8	121(56)	91(45)
合計①～⑤	118	60	82	78	92	71	29	530(201)	409(163)

*工学系研究科における初級は、複数レベルで構成されている。

・初級I：入門、初級1、初級2、インテンシブ初級I ・初級II：初級3、初級4、インテンシブ初級II

*④ 全学交換留学生は、USTEP (University-wide Student Exchange Program) と呼ばれる。

次に、身分別延べ数(図3)について述べる。身分別の受講生は、例年通り修士および博士が多く、この2つで全受講生の約6割を占める。前年度に比べ、博士は2名増であったが、修士は49名減少した。代わって受講生が増えたのは、大学院特別聴講学生(+14名)、外国人特別研究員(+12名)、インターンシップ教員等(+19名)であった。

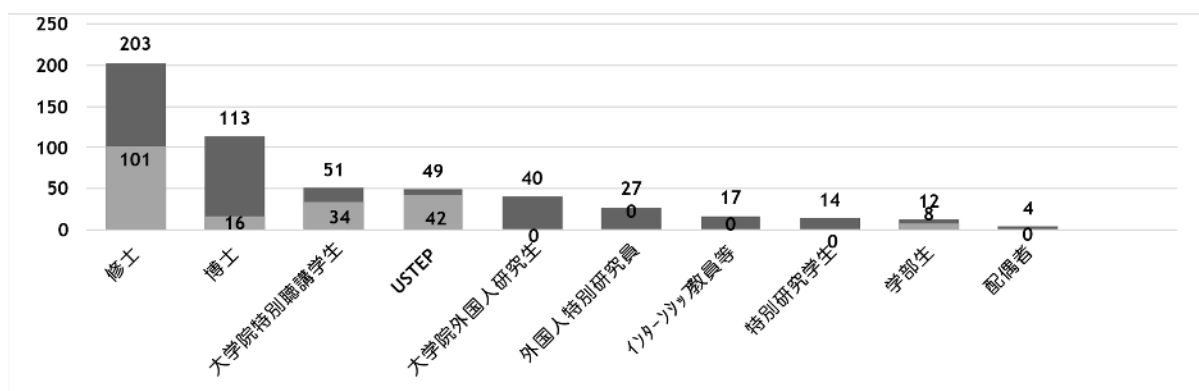
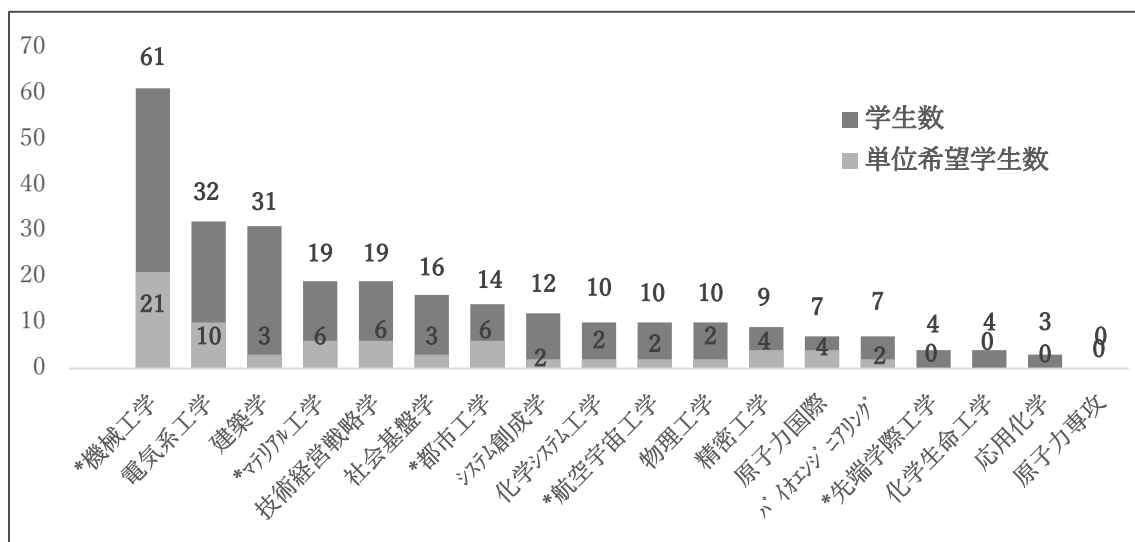


図3 SIS2 身分別受講者延べ数 *USTEP：全学交換留学生（延べ合計 530 名）

次に、専攻別の延べ数(図4)を見る。専攻別の統計では、グラフにある上位3つの専攻科が年度によって幾分順位を変えて上位に位置するという傾向が続いている。昨年度は建築学、機械工学、電気工学の順であったが、2024SIS2は、建築学が20名減少、代わりに機械工学が17名、電気系工学が4名増加した。なお、日本語科目が卒業要件単位として認められる5専攻の受講者数を前年度比で見ると、機械工学(+17名)、マテリアル工学(+5名)、先端学際工学(+2名)で受講者の増加傾向が見られた。



*：日本語科目が卒業修了要件として認められている専攻

図4 S1S2 専攻別受講者数

次に、受講者数を国籍別、レベル別に概観する。表3の数値を昨年度と比べると以下のようなことがわかる。受講者の国籍数は51カ国だった。上位6カ国の内訳を見ると、上位6カ国の延べ数は、中国（1位 前年度比 -48名）、フランス（2位 +13名）、ドイツ（5位 +11名）、韓国（4位 +8名）、アメリカ（5位 +1名）インド（6位 +4名）だった。中国の受講者は減少しているものの、全体の41%を占めている。なお、上位6カ国の受講者は延べ数349名で全体の66%、実数273名で全体の67%を占めている。

表3 S1S2 国籍別・レベル別受講者

	レベル 国籍	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	中級Ⅲ	上級Ⅰ	上級Ⅱ	合計 延べ数	実数
		延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数		
1	中国	22	12	34	31	52	54	16	221	167
2	フランス	19	9	5	2	5	0	0	40	36
3	ドイツ	15	7	0	1	0	3	1	27	26
4	韓国	2	2	3	5	9	5	1	27	22
5	アメリカ	0	0	5	11	2	1	1	20	11
6	インド	7	2	4	0	1	0	0	14	11
7位～51位		53	28	31	28	23	8	10	181	136
合計		118	60	82	78	92	71	29	530	409

* 初級Ⅰ：入門、初級1、初級2、インテンシブ初級Ⅰ * 初級Ⅱ：初級3、初級4、インテンシブ初級Ⅱ

2) 専攻日本語教室受講者

表4は工学系内の専攻日本語教室のS1S2の受講者である。前年度と実数合計で比較すると、社会基盤学日本語教室は7名減、システム創成系日本語教室は15名減、IME日本語教室は1名増となった。

表4 S1S2 専攻日本語教室受講者数(実数)

専攻 \ レベル	初級I	初級II	中級I	上級	計
社会基盤学	11	10			21
システム創成系			シス創 1, 他 1		シス創 1, 他 1
IME*			IME 4	IME 3, 工学系 1	IME 7, 工学系 1

*IME日本語教室は単位制なし

2.5.2 S1S2 修了者

1) 工学系研究科日本語教育コース修了者

工学系研究科日本語教育コースの修了者は、表5にあるように、延べ337名（前年度比-29名）、実数273名（+5名）、単位取得者は、延べ191名（+10名）、実数155名（+11名）であった。実数での受講者の修了率は81%となり、前年度73%から8%の増加となった。

表5 S1S2 研究科別・レベル別修了者 （ ）内は単位取得者

研究科 \ レベル	初級 I	初級 II	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ 合計	実数 合計
① 工学系研究科	35	24	33	13	25	14	11	155(68)	128(58)
② 情報理工学系	13	2	5	5	19	4	2	50(29)	42(25)
③ 新領域研究科	1	0	1	2	6	4	0	14(13)	11(7)
④ 全学交換留学生	9	8	9	0	3	7	3	39(34)	28(24)
⑤ 他研究科	10	7	13	16	16	10	7	79(53)	64(41)
合計①～⑤	68	41	61	36	69	39	23	337(197)	273(155)

2) 専攻日本語教室修了者

次に専攻日本語教室の修了者数を見る。社会基盤学専攻日本語教室は、専攻の学生のみを受け入れており、初級Iと初級IIが修了すると、修了要件の単位として2単位が付与される。今年度は修了者20名中19名が単位を取得した。

表 6 S1S2 専攻日本語教室修了者数（実数）（ ）内は単位取得者

専攻 \ レベル	初級I	初級II	中級I	上級	計
社会基盤学	3(3)	17(16)			20(19)
システム創成系			ｼｽ創 1(0)		ｼｽ創 1(0)
IME*			IME 1	IME 3、工学系 1	IME 4、工学系 1

* IME日本語教室は単位制なし

2.5.3 A1A2 受講者

1) 工学系研究科日本語教育コース受講者

A1A2 の受講者は、7 レベル、35 コース、延べ数 609 名（前年比 +48 名）、実数 462 名（+29 名）であった。受講者の所属別を見ると、昨年度と比較して受講者（実数）が増えたのは、工学系研究科（+14 名）、新領域研究科（+8 名）、他研究科（+19 名）で、この 3 つを合わせると延べ数 490 名で全体の 80%、実数 362 名で全受講者の 78%を占める。

表 7 A1A2 研究科別・レベル別受講者数（ ）単位申請者

研究科 \ レベル	初級 I	初級 II	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ数 合計	実数 合計
① 工学系研究科	64	48	63	61	44	18	8	306(112)	232(92)
② 情報理工学系	21	13	8	9	11	6	1	69(32)	63(29)
③ 新領域研究科	2	0	11	3	5	9	6	36(19)	24(13)
④ 全学交換留学生	14	4	1	9	12	4	4	48(32)	35(27)
⑤ 他研究科	22	17	28	17	31	25	8	150(64)	108(51)
合計①～⑤	123	82	111	99	103	63	28	609(259)	462(212)

*工学系研究科における初級は、複数レベルで構成されている。

・初級I：入門、初級1、初級2、インテンシブ初級I ・初級II：初級3、初級4、インテンシブ初級II

*④ 全学交換留学生は、USTEP（University-wide Student Exchange Program）生とも呼ばれ、2023A1A2よりグローバル教育センター日本語教育部門（日本語教育センター）所属となった。

身分別（図 5）では、例年同様、修士（306 名 前年度比 +71 名）が最も多く、次いで博士（100 名 前年度比 -22 名）であった。博士課程の受講生は減少傾向が見られ、2024S1S2 と比べても 13 名少ない数字となっている。

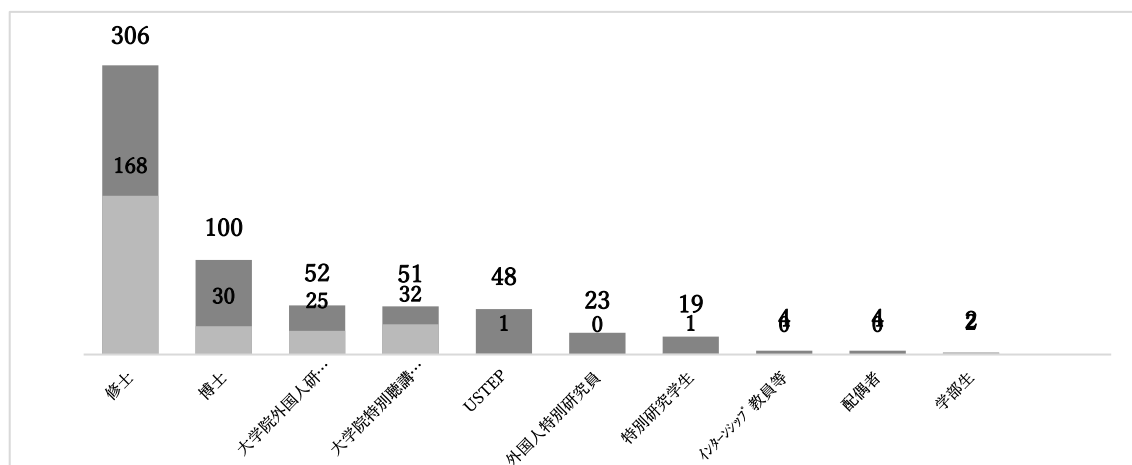
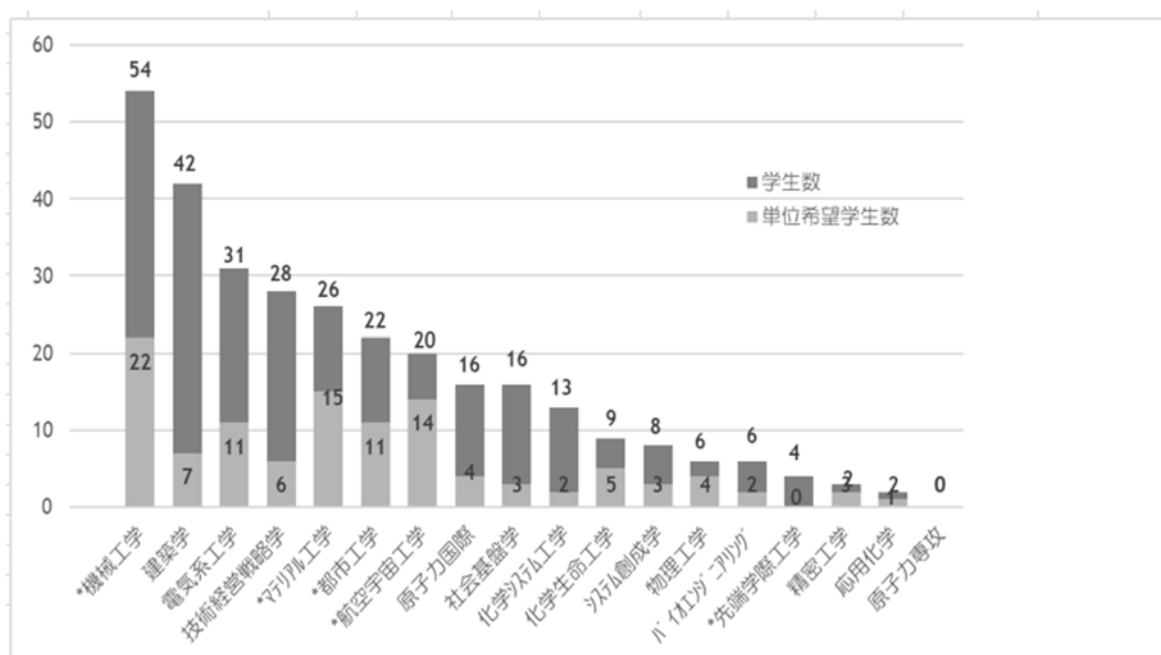


図5 A1A2 身分別受講者延べ数（USTEP：全学交換留学生）

専攻別では、図 6 が示すように、18 専攻中 17 の専攻から受講があった。2023A1A2 と比べると上位 5 専攻は同様だったが、前年度の最も受講者が多かった建築学（52 名→42 名）が機械工学（46 名→54 名）と入れ替わった、前年度に減少傾向（49 名→25 名）が見られた電気工学は、前年度比 6 名増の 31 名になった。



*：日本語科目が卒業修了要件として認められている専攻

図 6 A1A2 専攻別受講者数

次に受講者数を国籍とレベル別に表 8 を概観する。受講者の国籍の総数は、57 カ国で、上位 6 カ国の内、上位 3 カ国は前年度と同様の順位であった。中国は近年減少傾向だが、

今学期も延べ数で 17 名、実数で 19 名減となった。一方、インドネシアは延べ数が 13 名、実数が 10 名増加した。上位 6 位までの国からの受講生の割合は、延べ数 406 名で全体の 67%、実数 313 名で全体の 68%を占める。

表 8 A1A2 国籍別・レベル別受講者

	レベル 国籍	初級 I	初級 II	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	合計	実数
		延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	
1	中国	26	32	45	52	66	36	15	272	213
2	フランス	17	5	5	8	4	6	0	45	31
3	ドイツ	14	11	5	0	2	0	2	34	32
4	インドネシア	7	1	7	1	1	1	1	19	16
5	アメリカ合	3	0	6	8	0	1	0	18	11
6	台湾	0	2	3	4	3	3	3	18	10
7 位～57 位		56	31	40	26	27	16	7	203	149
合計		123	82	111	99	103	63	28	609	462

2) 専攻日本語教室受講者

表 9 の各日本語教室の数値を前年度と比較すると、IME が実数で 2 名増加した。社会基盤学日本語教室は、今年度は 12 名減少した。システム創成系日本語教室は、中級 III コースが不開講となり、今年度は 7 名の減少となった。

表 9 A1A2 専攻日本語教室受講者数（実数） () 内は単位希望者

専攻	初級I	初級II	中級	上級	合計
社会基盤学	13(12)	7(6)			20(18)
システム 創成系	シス創 2(0) 工学系 1(0) 他 1(0)				2(0) 1(0) 1(0)
IME *			IME 0 工学系 1	IME 2 工学系 1	2 2

* IME 日本語教室は単位制なし

2.5.4 A1A2 修了者

1) 工学系研究科日本語教育コース修了者

表10にあるように、2024A1A2の工学系日本語教育コース全体の修了者は、延べ406名、実数313名、単位取得者は延べ231名、実数187名であった。修了者実数の割合は68 % で前年度比2%減となったが、単位取得率は延べ数（53%→57%）、実数（59%→60%）で、共に前年度より高い数値となった。これを学生の専攻別の実数で見ると、工学系（45%→55%）、情報理工学系（67%→63%）、新領域研究科（62%→63%）、他研究科（55%→58%）、全学交換留学生（88%→83%）となり、他研究科で3%、工学系研究科で10%単位取得率の上昇が見られ

た。

表10 A1A2 研究科別・レベル別修了者 () は単位取得学生数

研究科 \ レベル	初級 I	初級 II	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ 合計	実数合計
①工学系研究科	36	38	39	36	26	13	6	194(99)	151(83)
②情報理工学系	12	6	8	5	6	4	0	41(26)	38(24)
③新領域研究科	0	0	7	3	3	5	4	22(16)	16(10)
④全学交換留学生	14	2	0	6	9	3	3	37(27)	29(24)
⑤他研究科	17	14	22	11	21	21	6	112(63)	79(46)
合計①～⑤	79	60	76	61	65	46	19	406(231)	313(187)

2) 専攻日本語教室

専攻日本語教室の修了者数（実数）は、前年度比でいずれも減少が見られ、社会基盤学日本語教室、システム創成系日本語教室、IME 日本語教室であった。

表 11 A1A2 専攻日本語教室修了者(実数) () 内は単位取得者

専攻	初級I	初級II	中級	上級	合計
社会基盤学	6(6)	13(11)			19 (17)
システム 創成系			ｼｽ創 1(0) 工学系 1(0) 他 1(0)		ｼｽ創 1(0) 工学系 1(0) 他 1(0)
IME※2			IME 0 工学系 1	IME 1 工学系 1 他	IME 1 工学系 2

※IMEは単位制なし

2.6 日本語教育コースのコース評価

日本語教育コース（JLCSE）では、2013 年度冬学期よりコース評価を学期末に実施している。2024 年度 A1A2 学期は、下記のとおり実施した。

2.6.1. 2024 年度 A1A2 学期コース評価概要

実施期間 : 2024 年 1 月 10 日～2024 年 1 月 31 日

対象者 : JLCSE 在籍の修士、博士、研究生、研究員、交換留学生、配偶者等

回答者 : 計 284 名（初級 108 名・中級 129 名・上級 47 名¹⁾）

¹⁾ 「多文化理解プロジェクト」は中級 3～上級 1 を対象としているが、2023A1A2 学期において上級 1 レ

実施言語 : 英語・日本語

質問項目 :

1. 回答者身分
2. コースの目標は明確だった
3. 授業のスピードは適切だった
4. 授業内容は分かりやすかった
5. 授業の課題の量はどうか
6. 授業の課題が日本語学習に役立つと感じるか
7. 担当教員は熱意を持って授業を行っていたか
8. 当該コースの授業を受けて学習意欲が高まったか
9. 当該コースの内容は自分にとって将来、役立つと思うか
10. 当該コースの予習・復習に毎週どのぐらい時間を使ったか
11. 次の学期は一つ上のレベルを履修する予定があるか
12. 当該コースに出て、できるようになったこと (自由記述)
13. 当該コースについてのコメント (受講生数、テスト、クイズ、課題など印象に残ったこと) (自由記述)
14. 現在のカリキュラムにはないが、どんな新しいコースがあるといいか
15. 春休みに予定している、日本語について質問したり、日本人学生と練習したりできる「ラーニングアドバイスセッション」に参加したいか
16. 春休みに予定している、JLPT の模擬試験に参加したいか、どのレベルを受けたいか

回答方法 : 上述の質問 1、5、10、11、15、16 は、それぞれ選択肢を設けた。

12、13、14 は自由記述形式で回答を求めた。

それ以外は「1. まったく思わない、2. あまり思わない、3. そう思う、4. 強くそう思う」の 4 件法で回答を求めた。

2.6.2. 結果の概要

以下では、(1) 授業と教師に対する評価、(2) 受講生の学び、(3) 受講生のニーズ、の三つについて、全体の傾向と初級・中級・上級別の傾向に着目して結果を報告する。

(1) 授業と教師に対する評価

まず、四件法で回答を求めた質問 2,3,4,7 の結果について述べる。前述したとおり、1 は「まったく思わない」、4 は「強くそう思う」であるため、表 1 から全レベルにおいて受講生が高い評価をしていることがわかる。特に質問 7 の平均値が高く、JLCSE の教員が熱意を持って授業に臨んでいると受講生に高く評価されている。担当教員の熱意の熱意以外に、

ベルの受講生が多かったため、コース評価では上級としてカウントした。

初級ではコース目標の明確さ、中級ではコース目標の明確さと授業内容の分かりやすさ、上級ではコース目標の明確さと授業のスピードの評価も高い。

表 1 授業や教師に対する評価のレベル別の平均値

質問 レベル	質問 2 コースの目標は 明確だった	質問 3 授業のスピード は適切だった	質問 4 授業内容は分か りやすかった	質問 7 担当教員は熱意 を持って授業を 行っていた	四項目 の平均
初級	3.64	3.39	3.44	3.73	3.55
中級	3.63	3.57	3.67	3.86	3.68
上級	3.83	3.70	3.51	3.77	3.70
平均	3.67	3.52	3.55	3.80	3.63

次に、課題に関する質問 5, 6 について述べる。図 1, 2 のように、「多すぎる」という意見が比較的多いのは初級 (15.74%) だが、それが日本語学習に役立っているようである。初級では、受講生が日本語学習の基礎をきちんと築けるよう、語彙クイズ・漢字クイズ・聴解クイズ・作文課題を設けている。総じてみて、どのレベルにおいても、多忙な工学系の学生に過度な負担を与えない程度で、学習をサポートできる適切な量になっている。

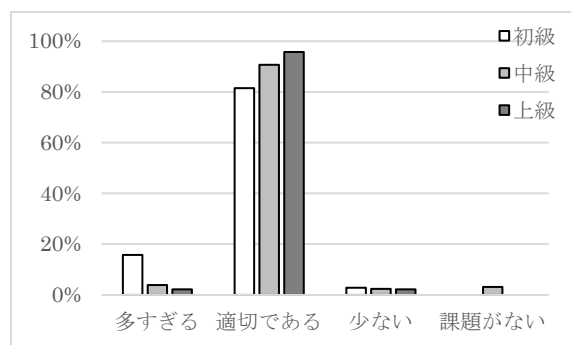


図 1 課題の量はどうだったか

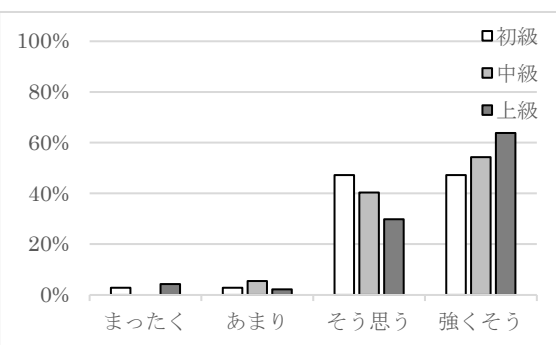


図 2 課題が日本語学習に役立つと感じるか

最後に、質問 10 「当該コースの予習・復習に毎週どのぐらい時間を使ったか」の結果について述べる。図 3 のように、どのレベルにおいても「1~2 時間」という回答が最多である。レベルごとに見ると、初級では「2~3 時間」(21.30%) という回答の割合が中級・上級より高く、「3~5 時間」(12.96%) という回答の割合が中級より高い。これは、前述したように、予習として語彙クイズ、復習として漢字クイズや聴解クイズを設けていることが関係している。特に、初級の中でも初心者向けの初級 1・インテンシブ I・入門の三コースでは、ひらがなとカタカナの読み書きを学習する必要がある。そのため、初級の受講生は中級・上級よりも長い時間を予習・復習にかけていると考えられる。一方、上級では「1 時間未満」

(27.66%) という回答が初級・中級より高い反面、「3-5 時間」(12.77%) ないし「5 時間以上」(2.13%) という回答もあり、両極化しているといえる。総じてみて、中級では初級・上級と比べ、予習・復習にかけている時間が比較的短いことがわかる。

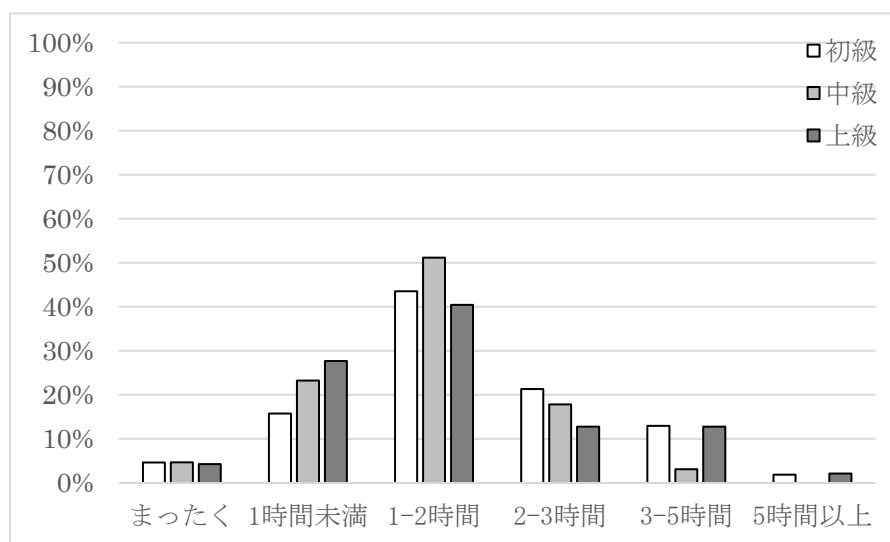


図3 予習・復習に毎週どのぐらい時間を使ったか

(2) 受講生の学び

まず、四件法で回答を求めた質問 8,9 の結果について述べる。表 2 のように、どのレベルにおいても平均値が高く、受講生は日本語に対する学習意欲が高まったと感じており、将来に役立つと思っているようである。各レベルを比較すると、初級から上級にかけて平均値が高くなっていくことがわかる。一般的に、学習意欲が高い日本語学習者のほうが持続的に授業を履修しやすいと思われるため、平均値が高くなること自体は生存者バイアスがかかっている可能性が否めない。それを考慮しても上級の高い平均値から、JLCSE での受講が終わった後、受講生たちが高い学習意欲を持続させながら、自身の自己実現に向かって各々努力していくことが期待される。

表2 授業や教師に対する評価のレベル別の平均値

質問 レベル	質問 8 当該コースの授業を受けて 学習意欲が高まった	質問 9 当該コースの内容は自分にとって将来、役立つと思う	二項目 の平均
初級	3.41	3.51	3.46
中級	3.47	3.55	3.51
上級	3.53	3.64	3.59
平均	3.46	3.55	3.50

続いて、質問 11「次の学期は一つ上のレベルを履修する予定があるか」の結果を見ると、初級では 64.91%、中級では 48.06%、上級前半²では 46.15%の受講生が来学期も JLCSE で日本語を学びたいことがわかる。履修する予定がない、またはまだわからないと答えた学生のうち、41.96%が半年のみ滞在する非正規生であることを考慮すると、JLCSE の受講生は継続して日本語を学ぶ意欲が高いと言える。

最後に、質問 12「当該コースに出て、できるようになったこと（自由記述）」の結果について述べる。以下ではレベルごとに、自由記述の回答を一部提示する（原文ママ）。

【初級】

- When I started, my Japanese language knowledge was zero. However, now I can read any Hiragana and Katakana word, few Kanji. I can understand many Japanese words as well.
- I can finally converse with some of my labmates using the little Japanese I have learnt so far.
- I can now form more complex sentences in Japanese. For example, the "nagara", "nakereba", "tameni", "dakara", "node" are some of the most commonly used words.
- I am able to understand more everyday expressions involving the grammar we learned and it is easier to understand service staff speaking keigo.
- I learned how to conjugate verbs with more variety, and to use the plain form! Before that, everything I said was in masu-form, save for some random phrases I picked up. I understand how to compare things, and I've learned how to formulate more complex thoughts.

上記のように、初級の受講生は仮名、簡単な漢字、基本的な語彙や文法などの日本語に関する基礎的な知識を得ている。このような知識を活かして日本での留学生活や、研究室の仲間など他人との交流が少しできるようになったとの声が多かった。また、これまで使ってきた「ます形」以外にも様々な動詞の形が使えるように、自身のより複雑な考えを言語化できるようになったという声もあった。

【中級】

- The course was quite comprehensive, but I mostly learned more grammar patterns and vocabulary! I think the learning style also helped me prepare for JLPT.
- I learned more about microlistening and macrolistening; the former helps me distinguish between similar-sounding words and the latter helps me understand the overall meaning. I also learned the importance of focusing and taking down notes. I think I became a better listener in general because

² JLCSE では上級 2 までであるため、ここでは上級 1 のみを集計した。

of this course.

- I have learned how to begin speaking Japanese more like a native speaker rather than someone who is learning it as a second language. By that, I mean that I am beginning to word sentences in a more "natural" way that a way that sounds like a direct translation from my native language.
- I always wanted to read a lot more Japanese novels, manga, articles, etc. However, not having a background in using and seeing a lot of Kanji, I found it difficult to do so. This course has become my first big step in being able to achieve this and not only that, but it has also taught me many new concepts related to engineering.
- I think my writing skills significantly improved because of this course. I learned how to structure my ideas, argue, and interpret graphs--all in Japanese. I also learned proper writing styles.

上記のように、中級の受講生は総合科目で、日本語力が全体的に大きく向上したと実感する者が多い。また、中級からはスキル別の科目もあるため、「聞く・話す・読む・書く」という四技能を中心として、特定の言語領域における進歩に関する回答も多かった。例えば、聞く力に関して、似ている音を弁別するための局所的な聴取スキルと、大まかな意味を理解するための全体的な聴取スキルを得たという声があった。話す力に関して、母語から直訳するのではなく、より母語話者のように自然に話せるようになったという声があった。読む力に関して、漢字が壁で障壁となりこれまであまり読めなかった小説や漫画などに一歩近づき、工学に関する概念も勉強できたという声があった。書く力に関して、自身の考えを整理したり、議論したり、図表を解釈したりする方法と、適切な作文スタイルを学んだという声があった。

【上級】

- New vocabulary, information regarding social issues in Japan and the surrounding discussion, new grammar forms, and online sources (news YouTube channels, websites, etc.) that I hope to use in the future to continue consuming Japanese news-related content.
- 日本語で発表するのが上達したと思います。
- 読解力が高まったおかげで、長い記事などを短時間で要約できるようになりました。
- After taking this course, I realized that Japanese is everywhere. It's not just a tool for watching anime or reading scientific papers but also an essential part of daily life, appearing in novels, newspapers, websites, and more. Moreover, reading is not just about "reading" but also about understanding and sharing. Fully grasping the context and effectively conveying it to others is much more challenging than simply reading, but it is incredibly rewarding and beneficial.
- In this course, I learned a great deal about Japanese writing styles. By comparing them with English writing, I feel that not only my Japanese but also my English skills have significantly improved. Throughout the semester, we worked together to complete a paper in Japanese and gave

presentations to share its content with others. This experience has boosted my confidence, which I believe will be valuable for my future graduate studies at UTokyo.

- Multicultural understanding and a lot of Japanese speaking practice. I really enjoyed discussing about the different cultures in Japanese with other students.
- この授業をとった後、就職のために自己 PR と志望動機など、エントリーシートの書き方がわかりました。面接の礼儀なども教えて頂きました。ビジネスの場合によく使われる敬語も習いました。

上記のように、上級は中級と同様に、日本語力の全体的な向上や、スキル別の能力の更なる進歩を実感する者が多い。特に、初級・中級の時にあまりできなかった、文化や社会的な事象などのような抽象的な話題について理解したり表現したりできるようになったことに満足しているようである。また、日本語という言語ではなく、学習に関する考え方や他人との協働、自信の向上などの収穫もあった。さらに、上級では「多文化理解プロジェクト」³ や「日本語キャリアデザイン」などの科目もあり、文化背景の異なる相手と文化の違いについて語る楽しさや、就職活動に役立つ実践的な知識を得たと回答した受講生も多い。

(3) 受講生のニーズ

質問 14「現在のカリキュラムにはないが、どんな新しいコースがあるといいか」の結果について述べる。以下ではレベルごとに、自由記述の回答を一部提示する（原文ママ）。

【初級】

- Conversation for beginner.
- talking class for beginners.
- More courses about Japanese use in daily life.
- Something more related to daily Japanese conversations. Such as conversations at a Conbini, or conversations with store keepers, etc. Maybe also a bit about announcements at train stations or inside the buses and trains, because sometimes unique announcements are hard to understand.

「特になし」という回答が多い一方、上記のように、初級では会話コースを求める声が寄せられた。現在、初級レベルのコースは「入門」「初級 1～4」「インテンシブI～II」があるが、いずれも総合系科目である。授業では基本的な文法や語彙を学習してからそれを使って会話練習をするほか、中間発表や期末発表も行っている。(2)で述べたように、日本語で簡単な会話ができるようになったとの声が多かった。一方で、コミュニケーション意欲の高い受講生は、初級の段階から会話に特化したコースを求めているようである。

³ 前述したように、「多文化理解プロジェクト」は中級3も対象となっているが、2024A1A2 学期は上級1の受講生が多かったことから、ここでは便宜上、上級として述べる。

【中級】

- More focus on Kanji in class
 - technical kanji 2
 - Having more courses like this one （筆者注：「専門読解・漢字」というコース） would be great.
- It's great for learning additional vocabulary and learning science related kanji that I see often.

上記のように、中級では漢字やそれを使った専門語彙に関するコースを求める声が寄せられた。現在、「中級 2 専門語彙・漢字」というコースがあるが、中級 1 や中級 3 レベルでも漢字コースのニーズがある。また、2023 年度の報告書で中級レベルの就職活動を求める声が挙がっていると報告したが、2024 年度は中級 3 を対象とした「日本語キャリアブリッジ」の開設により、似たようなニーズがほぼ満たされているようである。

【上級】

- speaking class. But the time zone is hard for me.
- カジュアル日本語のコース・ビジネス日本語のコース

無記入や「特になし」という回答が圧倒的に多い一方、上記のように、上級では会話クラスを履修したいが自身のスケジュールにより参加できないという声があった。この点に関しては、4.2 にあるように、JLCSE では、共に国際教育部門に属するグローバル教育との共催で学期中の金曜日に International Lounge (IL) を開催している。日本語・英語を用いて、日本人学生とも広く交流することが可能である。今後はより多くの受講生に IL を利用してもらいたいと考える。一方、ビジネス日本語コースを求める受講生には引き続き、「日本語キャリアデザイン」の存在を周知していきたい。

最後に、質問 15, 16 では日本語について質問したり日本人学生と練習したりできる「ラーニングアドバイスセッション (LAS)」と、日本語能力試験 (JLPT) の模擬試験について受講生のニーズを把握した。LAS に関しては、43.31%の受講生が「参加したい」、25.70%の受講生が「学期中だったら参加したい」と答えた。JLPT 模試に関しては、受講生の 12.68%が N1 レベル、11.62%が N2 レベル、11.27%が N3 レベル、7.04%が N4 レベル、7.39%が N5 レベルに参加したいと答えた。この回答から、JLCSE の受講生は比較的高いレベルの JLPT 受験を検討していることが窺える。LAS と JLPT 模試については 4.3 で報告する。

2.6.3. まとめ

本節では 2024 年度 A1A2 学期に実施したコース評価アンケートの結果から、(1) 授業と教師に対する評価、(2) 受講生の学び、(3) 受講生のニーズ、の三点について述べた。

(1)に関しては、JLCSE が提供しているコースと授業を担当する教員が、全レベルの受講生に高く評価されている。課題の量も日本語を主専攻としない多忙な工学系の学生に適している。初級において予習・復習にかけ時間が比較的多いことは、ひらがなとカタカナを含む日本語の基礎を築く段階に必要なものとも思われるが、受講生をよりよくサポートしていく方法を今後も引き続き検討していきたい。

(2)に関しては、全レベル（特に上級）において受講生は日本語に対する学習意欲が高まったと感じており、将来に役立つと思っている。具体的な学びとして、初級の受講生は日本語に関する基礎的な知識の習得と日常生活への良い影響など、中級の受講生は日本語力の全体的な向上とスキル別の進歩など、上級の受講生は抽象的な話題に関する理解や表現の能力に加え、学習に関する考え方、他人との協働、自信の向上などを挙げている。

(3)に関しては、多くの受講生は JLCSE が現在提供しているコースに満足している。同時に、初級では会話コースなどを、中級では漢字コースなどを求める声も寄せられた。今後は工学系研究科に属する日本語教育コースという性質を踏まえたうえで、こうしたコースを開設する可能性を検討していきたいと考える。

2.7 言語使用実態調査

工学系日本語教室では、留学生の研究室等における言語使用の実態を把握し、日本語がどのような状況で必要とされているのかを把握するために、毎年、オンラインによる質問紙調査を実施している。2024 年度 A1A2 学期に行った調査の概要は以下の通りである。

2.7.1 2024 年度 A1A2 言語使用実態調査概要

実施期間：2024 年 12 月～2025 年 1 月

対象者：日本語教室在籍の修士、博士、研究生、研究員、交換留学生、配偶者

回答者：計 48 名

実施言語：日本語／英語

主な質問項目：1.母語

2.修了後の進路

3.日本滞在予定期間

4.日本語学習歴

5.日本語を学習する理由

6.研究室での使用言語

7.指導教員から求められる日本語能力

8.留学生自身が目指す日本語能力

9.大学および大学以外の日常生活で日本語ができなくて困ること

2.7.2 結果の概要

(1) 母語

回答者の母語は中国語が 29%と最も多く、続いて英語、フランス語、ドイツ語の順に多かった。その他、スペイン語、インドネシア語、タイ語をはじめ、15 か国語と多岐に渡っていた。

(2) 修了後の進路

図 1 から分かるように、「日本で就職する」(31%)と「日本で進学する」(12%)を合わせた約 4 割の留学生が日本に長期的に滞在したいと考えている。一方で、留学後は「帰国する」が 38%、「分からない」という回答も 19%あった。

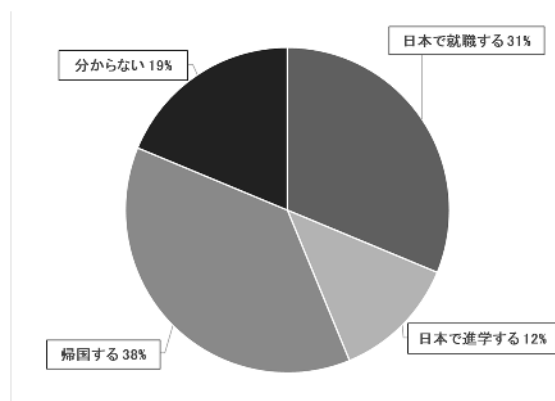


図 1 修了後の進路

(3) 日本滞在予定期間

図 2 に示すように、日本での滞在期間が 2 年以上の学生が 54%と最も多い。大学院での学位取得や日本での就職を目指す留学生がここに含まれると考えられる。一方、滞在期間が 1 年以下の留学生も合わせて 40%程度となっており、交換留学などにより、一定期間に限り日本に留学する学生も多い。

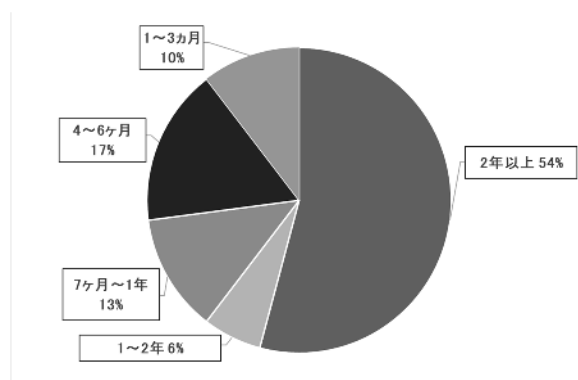


図 2 日本滞在予定期間

(4) 日本語学習歴

来日前の学習歴については、1年以上という回答と1年未満という回答がほぼ同比率で、約4割ずつを占めていた。全体的には何らかの形で日本語学習してから来日している留学生が多い。一方、来日前の日本語学習歴が全くないという回答も12%程度見られた。来日後のスムーズな留学生活や研究生生活を開始するためには、学習歴がない学生に対して日本語教育の面からの手厚い支援が必要だと考えられる。

(5) 日本語を学習する理由

回答数が最も多かったのが「日常生活に必要なため」で、次に「友達を作るため」、続いて「日本のサブカルチャー（アニメ、ゲームなど）に興味があるため」、「日本の伝統文化（茶道、華道、書道など）に興味があるため」「日本で就職をするため」の順に多かった。

表1 日本語を学習する理由（複数回答）

選択肢	回答数
日常生活に必要なため	39
友達を作るため	26
日本のサブカルチャー（アニメ、ゲームなど）に興味があるため	23
日本の伝統文化（茶道、華道、書道など）に興味があるため	22
日本で就職をするため	17
研究に必要なため	14
その他	3

(6) 研究室での使用言語

1) 使用言語と内容および話す相手の関係

研究室内でのコミュニケーションにおける使用言語について調査を行った。研究室での使用言語のうち、内容を「研究に関する会話」と「雑談」の二通り、話す相手を「指導教員」、「日本人学生」、「留学生同士」の三通りに分け、計6パターンの会話場面において、日本語および英語の使用状況を比較した。

図3は「研究」に関する会話での使用言語を示している。研究に関する会話では英語の使用率が総じて高い結果となり、話す相手に関わらず同様の結果が見られた（指導教員75%、日本人学生91%、留学生同士92%）。研究に関して話す場合は主に英語を使用していることが分かる。

図4に「雑談」での使用言語の結果を示す。雑談においては、特に相手が日本人学生の場合、日本語の使用率が上がり、21%という結果であった。日英両方33%と合わせて見てみると、日本人学生との雑談時には約5割以上の状況において日本語で、または日本語と英語を

併用しながら話していることが分かった。

相手が「指導教員」、「留学生同士」の場合においても、研究に関して話す場面に比べ、雑談のほうが日本語を交えて話す場面がやや増加している。

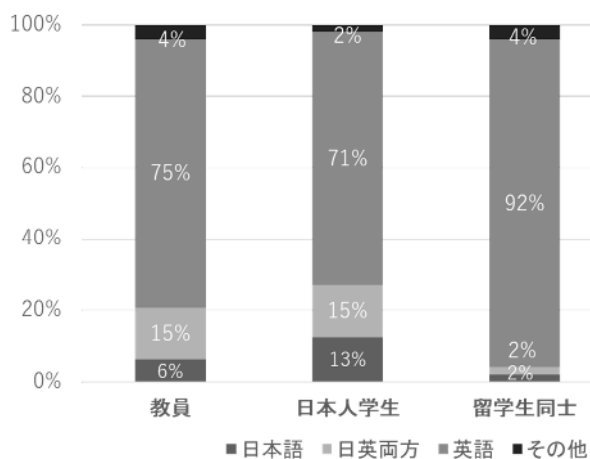


図3 研究に関する会話

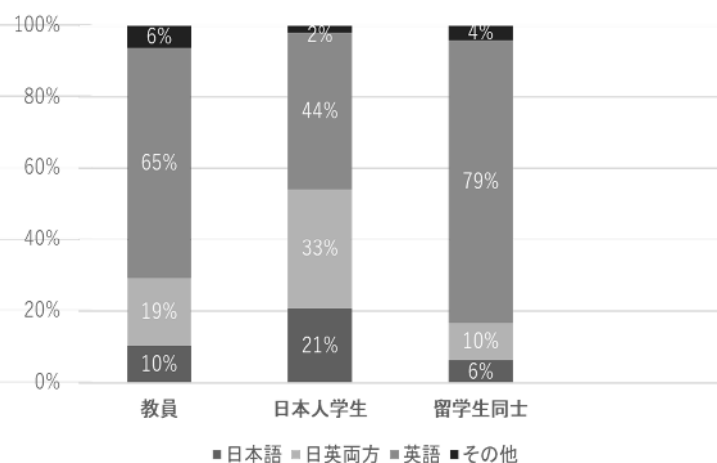


図4 雑談

2) 研究に必要な言語使用の場面

「研究発表」、「打ち合わせ」、「研究」に関する資料の3パターンについて、言語使用状況を見たところ、どの場面においても、英語が使用率 52～62%の割合で多く使用されていることが分かった。ただし、「打ち合わせ」と「資料」では、日本語および日英両方の使用割合が「打ち合わせ」42%、「資料」40%と高くなっていた。研究を行う上では、英語の使用場面が圧倒的に多いが、打ち合わせを中心に、日本語の使用場面も多く存在していると言えるだろう。

(7) 求められる日本語能力・目指す日本語能力

1) 指導教員から求められる日本語能力

指導教員から求められている日本語能力について、「全く求めている」が66%と最も高い。続いて「初級レベル」(14%)、「上級レベル」(10%)であった。

しかし、「どんな時に指導教員から日本語が求められていると思うか」という質問に対しては、「雑談をするとき」(60%)、「書類の手続きをするとき」(35%)という回答が多く、研究上では日本語を求められていないが、指導教員や研究室のメンバーと雑談をしたり、書類手続きを進めたりする際に日本語の必要性を認識していることが分かる。

2) 留学生が目指す日本語能力

留学生自身は非常に高い日本語能力を目指している。留学生が目指すレベルは「超上級レベル」39%、「上級レベル」33%となり、全体の約7割の留学生が上級レベル以上の日本語能力を

力を目指していることが分かった。また、「中級レベル」という回答も 20%と多い。

具体的に身につけたい日本語能力については、非常に多くの留学生が「会話能力の向上」を挙げ、特に、日常会話や友人との会話で自然に、また流暢に話したいという希望が多かった。また、仕事や研究で使える日本語、特にビジネス日本語や敬語、研究に関するメールや書類の手続き、ディスカッションを日本語で行いたい等、高度なスキル・レベルを目指す回答もあった。

(8) 大学および大学以外の日常生活で日本語ができなくて困ること

回答数を見ると、日本ができずに困る場面は大学内では「ない」43%、「あまりない」35%、大学以外の場面では「ない」18%、「あまりない」43%とそれほど多くないが、自由記述の回答から具体例を見てみる。

1) 大学内での場面

学内では、諸手続きや案内、授業に関する情報が日本語のみで提供されていることに困難を感じている。特に、施設利用の案内やポスター、講義やオリエンテーションが日本語のみで行われていることへの戸惑いが多く見られた。また、研究室での打ち合わせやコミュニケーションが日本語で行われているため、理解や参加が難しいと感じており、授業が日本語のみで実施されていることから履修を断念せざるを得ないという声もあった。英語対応があっても内容が簡略化されており不十分だという、英語と日本語の情報の差も指摘されている。

2) 大学以外の場面

学外では、行政手続きや公共機関での対応に困るという回答が多数見られた。また、医療機関での受診、不動産会社とのやり取りといった場面も言語の壁を感じやすいという声があった。さらに、日本人との交流や友人との会話においても、思うように話せず不便を感じる場面があり、日常生活全般において日本語能力の不足が困難な場面に繋がっている様子がうかがえる。

(9) まとめ

今年度の言語使用実態調査からは、以下の傾向が見られた。

1. 回答した留学生の 5 割以上が日本に長期的に（2 年以上）滞在したいと考えている。また、約 4 割は 1 年以下の短期的な滞在である。
2. 日本語を学習する理由は日常生活での必要性が最も多く、その他、友達作りや日本の文化（サブカルチャー・伝統文化）への関心、日本での就職のためなどが多い。
3. 回答者の約 8 割が学習時間の差はあるものの、日本語を学習した上で留学している一方、日本語を全く学習せずに来日する学生もあり、スムーズな留学生活・研究活動のためには日本語教育面からの支援が必要不可欠である。
4. 回答した留学生は、研究活動においては、指導教員から日本語能力を全く求められてい

ないと認識している一方、雑談時や書類の手続きをする際には日本語の必要性を認識している。

5. 留学生自身が目指す日本語のレベルは非常に高く、回答者の約7割が超上級・上級レベルを目標としている。身につけたい日本語のスキルは会話能力の向上が非常に多い。
6. 学内外で日本語ができずに困る場面は様々であり、各種手続きや授業の履修、日常的なコミュニケーションの場面において困難を感じていることから、これらを踏まえて日本語教育を進めていく必要がある。

古市他(2025)⁴では2019～2023年に実施した「言語使用実態調査」の工学系留学生523名の回答データを基に、日本語の使用実態について量的・質的に分析した。その結果、工学系留学生は主に英語で研究を行っているが、相手や場面に応じて日本語の使用を試みていることが明らかになった。一方で、学内外で求められる日本語能力に対して実際の日本語力は不足しており、この日本語力不足という言語面の問題が、工学系留学生の情意面や実践面にも影響を及ぼしていることが示唆された。今回の2024年の調査結果においても同様の傾向が見られ、工学系留学生の自己実現のためには、日本語によるコミュニケーションが不可欠であると考えられる。今後も、このような工学系留学生のニーズに対応する具体的なカリキュラムの開発を引き続き進めていくことが重要である。

また、工学系留学生は上級・超上級と高い日本語力を目指しているにもかかわらず、専門教員は初級・中級で十分だと考える場合が多い(古市他2025)。今後は、専門教員との協働体制を一層強化し、日本語教育に対する理解をより一層促していくことも必要だと考えられる。

⁴ 古市由美子・牛山和子・猪狩美保・劉羅麟「英語で研究する工学系留学生はなぜ日本語を必要とするか—留学生と教員のニーズ調査を踏まえて—」第27回 専門日本語教育学会研究討論会(2025)

第3章 日本文化体験

(1) 落語体験～落語を知っていますか？（5月8日）

落語を研究しているシドニー大学准教授のマシュー・ショアーズさんに、日本語と英語で落語を披露していただいた。演目は「千両みかん」。

落語は初めてという学生がほとんどで、マシューさんの豊かな表情と身振り手振りに、学生達はみんな大笑いだった。

質疑応答では活発な質問が出され、そのひとつひとつにユーモアと、ほろっとさせるエピソードも織り交ぜて丁寧にお返事をされていたのがとても印象的だった。

なかなか体験する機会が少ない落語であるが、この機会に興味を持った学生も多いと思う。



(2) 浴衣ワークショップ（6月5日）～浴衣を着てみよう！

学生達にも人気の高い浴衣を、シニア・ボランティアの方々のご協力を得て、自分でも着ることが出来るようにワークショップ形式で開催した。

帯を締める場面では悪戦苦闘する学生が続出であったが、今年の夏は浴衣を着て花火を見に行きます！と嬉しそうに話す学生もいて、楽しいワークショップになった。



(3) 書道ワークショップ（6月26日・10月23日）

東京大学書道研究会の石原由貴さん、小西優多郎さん、山本航輝さんのご指導のもと、S1S2 学期、A1A2 学期にそれぞれ開催した。

書道に必要とされる「とめ」「はね」「はらい」など基本技法 8 種類が全て含まれる「永」の練習から始まり、最後は自分の好きな漢字を書いてとても和やかな雰囲気のワークショップになった。

漢字に興味を持つ学生が増えている中、書道をもっと多くの学生に楽しんでもらいたいと思う。



(4) 茶道体験（7月3日・1月15日）

東京大学茶道部に所属経験があり表千家のお免状も有している菊池愛美さんに指導をお願いして、S1S2 学期、A1A2 学期にそれぞれ開催した。

お抹茶は飲んだことはあるけれど自分で点てた経験はないという学生が多く、茶筌の扱いに四苦八苦しながらも、楽しそうに茶道の世界を楽しんでいた。



(5) 七夕（7月7日）～願い事をしてみよう。

七夕の笹に学生達が短冊に思い思いの願いをかけた。皆さんの願いが叶いますように。

(6) アニメアテレコ体験（11月6日）～アテレコに挑戦！

声優だけではなく、役者・ナレーター・舞台のプロデュース・ボイストレーニングなど幅広い分野でご活躍されている羽野大志郎さん、声優・役者・翻訳者としてご活躍されている三本みりさんをお招きして、アニメやマンガを題材にしたアテレコに挑戦するイベントを開催した。

声の出し方や独特のイントネーションなど、プロの方々の素晴らしいパフォーマンスに学生達は目を丸くして聞き入り、自分達もいざ挑戦！と笑いに包まれたひとときとなった。



(7) 着物体験（11月20日）

大変人気のある着物体験を、シニアボランティアの方々に着付けのお手伝いをお願いして開催した。

女子は色とりどりの華やかな着物で、男子はサムライの恰好を真似て、それぞれ楽しそうに撮影大会！

日本では着物を着る機会が減っているが、留学生達の着物に対する関心は高く、素晴らしい日本の着物文化を知って欲しいと思う。



(8) 折り紙ワークショップ (12月4日)

折り紙をはじめ、様々なボランティア活動をしている野城ゆうこさんに、折り紙の世界をワークショップ形式で開催していただいた。

折り図を見ながら真剣に折っていく学生達の、完成するまでひたすら真剣に集中する姿はさすが！

最後は紙飛行機大会で童心に帰り、リラックスしたひとときであった。



(9) お汁粉体験 (1月17日) ～おしるこ屋さん開店！

毎年恒例の「おしるこ屋さん」を開き、学生に熱々のお汁粉をふるまった。

この真っ黒い食べ物は？とびっくりする学生も多かったが、ひと口食べると美味しい！と直ぐ笑顔に。

寒いこの時期にぴったりの、大繁盛のおしるこ屋さんだった。



第4章 国際交流支援

国際交流支援は、当日本語教育コース（JLCSE）が掲げる五つの大きな目標の一つである（1.1 章参照）。東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構国際教育部門に属する JLCSE は、グローバル化が進む国際社会で活躍できる人材の育成にも重きを置き、総合的な教育・文化・国際交流活動の場の提供を目指している。

本章では、キャンパス内国際交流の活動である「学生授業ボランティア」、学生と日本人学生の交流の場となる多言語交流会（International Lounge、略称 IL）、修士・博士の学生が留学生の日本語をサポートする「ラーニングアドバイスセッション（LAS）」について紹介する。

4.1 学生授業ボランティア

学生授業ボランティアは、2012 年度冬学期から始まり、今年度で 13 年目を迎える。この活動は、JLCSE の全コースのうち、教員から希望があったクラスに日本人学生がボランティアとして参加し、教員と協働して JLCSE の受講生の日本語学習を支援することを目的としている。ただし、一方的な学習支援ではなく、授業ボランティアである日本人学生にとっても、日本語学習者の質問に応えることで母語である日本語を再発見したり、言語・文化背景の異なる人々と交流することで多文化理解力を養ったりすることも目標である。

4.1.1 募集方法

学生授業ボランティアの募集方法は二つある。一つ目は学内の体験活動推進チームの「体験活動プログラム」を通じての募集である。これは、4 月に募集を開始し、書類審査を経た学生が A1A2 学期からボランティア活動に参加するものである。二つ目は、JLCSE からの募集に直接応募するというもので、日本人学生は学内のポスター、ウェブサイト、ポータルサイト等を見て活動に応募する。

いずれの募集方法でも、ボランティア活動に先立ち、説明会への参加が必須となっている。説明会では主に、①JLCSE の概要、②初級～上級コースの紹介、③学生授業ボランティアに期待する役割について説明した。

4.1.2 活動内容

学生授業ボランティアの活動に応募し、ボランティアとして特定のコースに参加することが決まった学生はコース担当教員と連絡を取り、教員から当該コースで求められる役割を学生に説明する。この役割については担当教員の裁量に任されているが、JLCSE の方針としては、上記の説明会で学生に説明したとおり、日本語学習の支援、意見交換や議論への参加、多文化理解のための情報交換の三つである。日本語学習の支援については、授業

内容に関する個別サポート、仮名・漢字・作文の書き指導やサポート、会話練習のパートナーや発表のコメンテーターなどである。意見交換や議論への参加は主に中級・上級レベルにおいて、特定のテーマに関するディスカッションにいち参加者として関わることで、日本語学習者の発話を促したり思考を深めたりするファシリテーターである。多文化理解のための情報交換は、「日本／〇〇人は〇〇」のような大雑把でステレオタイプの情報ではなく、個人の視点から国・地域の文化や習慣について語り合うことで、留学生と日本人学生双方の多文化理解力を向上させていく。このような活動をして授業が終わった後に、ボランティアは JLCSE のオフィスに立ち寄り、その日の所感を報告書に記載する。

4.1.3 ボランティア参加者数と内訳

図 1 にボランティア参加者数の推移を示す。コロナ禍の影響で参加者数が低迷していた時期もあったが、それを経て 2024 年度に延べ 37 名の日本人学生が参加した。また、1 名の学生が 2～3 コースに参加することもあり、留学生との交流に対する日本人学生の高い意欲が肌で感じられる。

一方で、JLCSE の受講生は工学系に所属している学生が多いものの、ボランティアの日本人学生の専攻は工学系はもちろん、文学・法学・理学・医学・薬学・農学・経済学・教育学・公共政策学など多岐にわたる。こういった専攻の垣根を越えた交流も、学生授業ボランティアという活動の意義の一つだと考えられる。

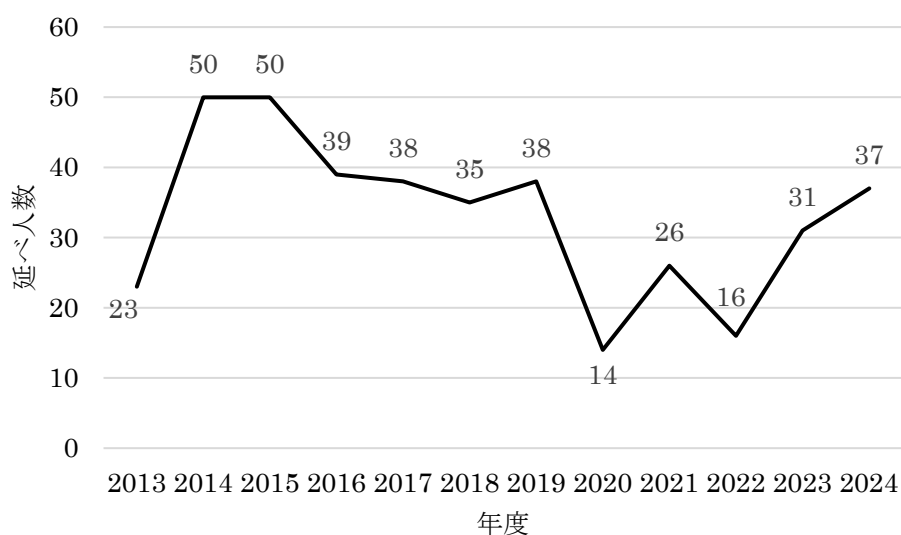


図 1 ボランティア学生数の推移（単位：人）

4.1.4 授業ボランティア参加者アンケート結果

2024S1S2 および A1A2 学期終了後に、ボランティア活動に関する振り返りアンケートを実施し、計 19 名から回答を得た。以下、アンケート結果をいくつか報告する。

まず、「留学生との交流はスムーズだったか」という質問に対し、「とてもスムーズだった」と答えたのは両学期それぞれ 71.4%、91.7%である。年度を通して参加するボランティアも多いことを考えると、ボランティアとしての経験を重ねていくうちに、交流がスムーズになっていったと思われる。一方で「スムーズだったが、ときどき困ったこともあった」と答えた学生は、その理由を自由記述で回答した。主には、学習者相手に使う日本語の調整、ペアワークやグループ活動時の進め方、自身が詳しくない日本の地域に関する質問への対応などが挙げられた。

次に「今回の活動で、留学生へのサポートや国際交流ができたと思うか」という質問に対し、「十分にできたと思う」と答えたのは両学期それぞれ 14.3%、0%にとどまった。ほとんどの参加者は「できたと思う」と答えており、おおむねよかったが思い残すものものはないという印象が持たれた。その理由について、アンケートの最後の自由記述で、以下のように授業外でもっと交流したかったという声が寄せられた。

- ・セメスター中に授業時間外でボランティアの学生と留学生の交流の機会を設けてもらえるとより深い交流ができると思った（授業だけではなかなか授業時間外での自発的な交流は生まれにくいと思う）。
- ・やはり留学生との授業外での距離のつめ方はまだ難しい気がした。授業では留学生全員と交流する機会が設けられていたが、授業外で特定の誰かだけと出かけるというところがまだハードルが高い。（こちらから誰かにだけ声をかけるということができない。）最初の段階でもう少しウェルカムであることを伝えて受け身の交流ならできそう。
- ・自分の能力不足かもしれませんが、留学生たちとの授業時間以外の交流がほぼなかったことが残念でした。授業前後の時間に余裕がないことも関係していると思いますが、留学生たち（特に英語圏からのみなさん）と気楽に雑談する方法についてまだよく分からず、これから考えていきたいと思います。

一方で、「参加したコースの授業時間外で留学生との交流はあったか」という質問に対し、「あった」と答えたのは両学期それぞれ 100%、66.7%と割合が高かった。その詳細を見ると、SNS 交換とチャット、食事、スポーツ、学内外のイベントなどがあった。日本人学生と留学生との交流の促進はまさに本活動の目的の一つであるため、今後はこのような交流を促す方法を考えていきたい。

最後に、「今回のボランティア活動を通して、学びや気づきがあったか」に関する自由記述をいくつか紹介して本節を終わらせたい。

[母語である日本語に関する再発見]

- ・日本語を学習者としての視点から見つめたことは今までなく、自分でも説明できないような文法事項に何度か遭遇したので新鮮な経験だった。また、留学生がとても熱心に日本語を勉強している姿に感銘を受けた。
- ・留学生の質問から、日本語の面白さや不思議に気づくことができ、自分にとっても勉強になった。
- ・留学生の素朴な疑問のおかげで、普段当たり前のように使っている日本語の文法を見直す良い機会になりました！

[日本語力の高さに対する驚き]

- ・留学生の方の日本語能力の高さに驚いた。
- ・予想よりも日本語能力が高くて驚いた。
- ・海外での就職活動の難しさを感じたが、みんな日本語が上手で驚いた。
- ・生徒さんたちの日本語能力がとても高く、自分も外国語を勉強するモチベーションが上がりました。
- ・日に日にレベルが上がっていくのを側で見られて楽しかったです。アウトプットの機会が多いのが良いなと思いました。

[文化交流の楽しさとそのために必要なもの]

- ・授業中に色々な国の文化の違いを実感できたのがとても楽しかったです。
- ・日本についてもっと知ることが大事。

4.2 International Lounge

International Lounge (IL) は、2012 年度より、留学生と日本人学生および教職員との学内での国際交流、多文化理解を目的として、学期中の毎週金曜日の昼休みに開催され、国際教育部門が運営している。参加者は開催期間中、自由に参加することができ、英語や日本語で活発な交流が行われている。随時、様々なイベントを織り込み実施することで参加者同士の交流促進を図っている。また、留学生と日本人学生の Language Assistant (LA) が交流活動やイベントのファシリテーターとしての役割を担っている。

1)開催日時：毎週金曜日

2024S1S2：2024年4月26日～2024年7月12日 12:10～13:10（全10回）

2024A1A2：2024年10月18日～2025年1月10日 12:00～13:00（全11回）

2)開催場所：工学部11号館（HASEKO-KUMA HALL）

2024S1S2：2階ラウンジ／2024A1A2：1階ラウンジ

3) イベントの開催

2024S1S2：ウェルカムパーティー、ピクニック（屋外開催）、かき氷パーティー

2024A1A2：ウェルカムパーティー、キャンパスツアー、ハロウィンパーティー、
各国紹介デー、Happy Holiday パーティー、日本の遊び体験（けん
玉、折り紙など）

4) IL 開催の周知方法：キャンパス内ポスター掲示、日本語教育コースから受講生への周知メール、HP および Instagram 等により周知した。

毎回、留学生・日本人学生、職員の方々を含め数十名が継続して参加しており、国際交流や仲間づくりの場となっている。今後も、いつでも気軽に参加できる国際交流の場としてさらに充実・活性化させていきたい。

4.3 日本語ラーニングアドバイスセッション

2024年8月～9月および2025年2月～3月の間、「オンキャンパスジョブ ダイバーシティ&インクルージョンキャンパス推進支援事業」の予算を用い、日本語ラーニングアドバイスセッション（以下、LAS）を実施した。LASとは、JLCSEの受講生がより良く勉学・研究できるよう、日本人大学院生がアドバイザーとして、日本語の聞く・話す・読む・書くという四技能と、アカデミックスキルに関する学習支援を提供する場である。アドバイザーとなる日本人大学院生もまた、これまで培ってきたアカデミックスキルを活かす機会や、留学生との交流を通して異文化コミュニケーション力と国際的な感覚を身につける機会を得ると考えられる。

サポート内容は次の通りである。

- ・リスニング：聴解能力やそのスキルの向上に役立つ聞く方法と素材に関する相談など
- ・スピーキング：日常会話の練習、就職活動のための面接練習、敬語に関する質問など
- ・リーディング：読解能力やそのスキルの向上に役立つ読む方法と素材に関する相談など
- ・ライティング：作成した文章のネイティブチェック、奨学金や仕事に必要な応募書類に関するアドバイスなど
- ・アカデミックスキル：授業ノートの取り方、参考文献や資料の探し方、大学生活に役立つ情報の紹介など

LASの実施にあたり、JLCSE受講生にメーリングリストで案内を送信した。案内とほぼ同時に申し込みが殺到し、最終的に計89件の申し込みがあった。その内訳は、工学系所属の受講生から46件、情報理工学系等所属の受講生から13件、その他専攻の受講生から30件であった。重複した申し込みや予約取り消しを除き、最終的に計80回のセッションが行われた。

1回のセッション1時間でできることを考慮し、申し込みの際はリスニングからアカデミックスキルまでの5つの選択肢から、最も相談したい内容を一つだけ選択してもらった。また、セッションの際にLASを担当する日本人大学院生は、申込者と話し合いながら、セッションの内容を決めて行った。1回に複数のスキルについて言及するケースが多いが、主な内容で合計すると、リスニング6回、スピーキング66回、リーディング2回、ライティング2回、アカデミックスキル0回、その他4回となった。その他については、日本語学習全般に関する相談や就職活動に役立つノウハウに関する相談などがあった。

2023年度では、申し込み時に相談したい内容を複数選択した場合、最も話したいことを確認することに時間がかかり、その後の相談が時間不足になってしまう場合があった。今回は上記のように最も相談したい内容を一つに絞ったうえで、セッションで詳しく話すという形にしたため、2024年度は前述の問題が解決された。また、リマインドメールを送信する回数とタイミングを検討したことで、セッション当日の急遽キャンセルや無断欠席といったケースも大幅に減少した。一方で、これまで足りていなかったセッション数を、LAS担当者を1名増やす形で解決しようとしたところ、予想ほどの申し込み件数がなかった。今後は適切なセッション数について引き続き検討し、担当者と申込者のより良いマッチングを模索していきたい。

最後に、セッションでも度々話題に上がった日本語能力試験（JLPT）について、LASの一環としてその模擬試験を企画し開催した。2024年9月にN1・N2・N5レベル、2025年3月にN1・N3・N4レベルの模擬試験を行った。その結果、N1は20名、N2は6名、N3は14名、N4は5名、N5は9名の申込者があった。2.6のコース評価アンケートでもJLPT模擬試験のニーズについて調査したが、同じくN1のニーズが最も高いことがわかった。この二つの結果から、JLCSEの受講生は高い日本語能力の習得を目指し、N1合格を目標として設定している者が多いことが窺える。

2025年度も継続して、夏季・冬季の休み期間にLASを実施する予定である。2024年度においてスピーキングに関する相談のニーズが突出して高いことを踏まえ、留学生により良いサポートを提供したいと考える。

第5章 海外協定校とのネットワークの構築と連携

現在、東京大学大学院工学系研究科では、研究者および留学生の交流を推進するため、世界各国の約 130 の大学と学術交流協定を締結している。工学系研究科日本語教育コースにおいては、これらの海外協定校とネットワークの構築を図っている。2024 年度は、国際連携(特別)実習、海外体験活動プログラム、さくらサイエンスプログラム、サマープログラムにおける日本語講義支援を通じて、協定校との連携を深めるとともに、工学系研究科および東京大学の国際化教育に寄与している。また、本年度より、ケンブリッジ大学工学部との短期プログラムも新たに開始した。

1. 国際連携(特別)実習 VI

本実習では、カリフォルニア工科大学（Caltech: California Institute of Technology）で日本語を学ぶ学生と東京大学の学生がグループに分かれ、多文化理解および国際的な視野を広げるための協働学習と交流活動を行っている。2024 年度も Caltech の平井講師の協力を得て、学生の派遣および来日を含む「対面—COIL 型」のプロジェクトワークを実施した。

2. 海外体験活動プログラム

本プログラムは、従来のスウェーデン王立工科大学での活動に加え、2024 年度より新たにケンブリッジ大学においても体験活動を実施した。さらに、インドでの体験活動については、今年度よりインド工科大学マドラス校において新たに展開した。

3. さくらサイエンスプログラム

本プログラムは、工学系および情報理工学系に関連する学術的背景を持ち、日本文化や社会への関心が高く、日本語学習経験を有するインド工科大学ハイデラバード校およびマドラス校の優秀な学生を対象に実施した。東京大学大学院工学系研究科の教員との連携のもと、各研究室において最新の研究成果の共有および情報交流を図った。

4. ケンブリッジ大学短期受入れプログラム

2024 年度より、ケンブリッジ大学工学部に所属し、日本文化および社会に高い関心を持ち、日本語学習経験を有する優秀な学生を受け入れる短期プログラムを開始した。本プログラムを通じて、学生間の相互理解と学術的交流を推進した。

5. 海外協定校との連携

2024 年度は、ミュンヘン工科大学（TUM）より 5 月に Denise Lichtig 言語センター長、2025 年 3 月に宮山麻里枝日本語講師が来訪し、本コースの概要説明に加え、日本語を学ぶ TUM の留学生の様子について情報共有を行った。また、6 月にはスウェーデン王立工科大

学（KTH）の調亜紀子日本語講師が来訪され、KTH 留学生の状況や今後の連携について意見交換を行った。さらに、12 月にはマサチューセッツ工科大学（MIT）の相川孝子日本語講師が来訪され、MIT の交換留学生に関する情報共有と将来的な連携の展望について議論を行った。2024 年 8 月には短期プログラムとして来校されたサウジアラビアのプリンセス・ヌーラ・ビント・アブドゥルラフマン女子大学（Princess Nourah bint Abdulrahman University）の学生を対象に、浴衣の着付けと茶道体験を実施した。2025 年 2 月に来校された精華大学の学生を対象に、工学系日本語教育コースについて紹介を行った。

以下、上記の 1 から 4 の項目について、詳細を記述する。

5.1 国際連携(特別)実習 VI

国際連携(特別)実習 VI は 2022 年度 A1A2（冬季集中）から工学系共通科目として単位化（1 単位）され、カリフォルニア工科大学（以下 Caltech）の学生との協働学習プログラムおよび派遣・来日を含む学生間交流を行っている。協働作業として、Project Based Learning (PBL) 型の活動を日米双方の学生に提案し、互いの文化、社会への理解を深め、個々の学生の国際化教育に資することを目指している。2024 年度の参加者は 23 名（東大 12 名 Caltech 11 名）である。

5.1.1 渡米準備および活動内容

1) 学内説明会での周知

2024 年 10 月 2 日に開催された東大の学部 3、4 年生および大学院生向けオンライン説明会「国際連携（特別）演習・実習」で、本実習について紹介した。

2) オリエンテーション

オリエンテーションは全 4 回（Zoom 2 回（11 月 7 日、12 月 12 日）、対面 1 回（1 月 30 日）実施し、参加者同士が知り合う機会を設け、Caltech との協働活動について基本的な枠組みを共有した他、渡米のために必要なさまざまな手続きについての説明を行った。また、対面で実施した第 3 回オリエンテーションでは、渡米準備の最終確認、参加者同士の懇談、部屋割りの他、現地での活動などについて質疑応答を行った。4 回目は 2025 年 1 月 11 日に Zoom を使用して、合同オリエンテーションを行った。当日はブレイクアウトルームなども使用し、学生同士が交流できる時間を設けた。また、チームリーダーを決め、企画書作りに向けて各チームでどのようなツールを使って連絡を取り合うかなどについても話し合いを行った。

5.1.2 プロジェクトワーク

表 1 は渡米中にスケジュールである。米国滞在中、Caltech は学期中であったため、学生たちは対面での作業のほか、グループごとに時間を調整して連絡を取り合い、日米両語を用いて COIL 型の活動も行った。

発表の大きなテーマは、以下の3つであった。

- a. ジェンダーイコリティ (Gender Equality)
- b. 環境と生活・社会 (Environment and Our Lives)
- c. エンターテインメントと生活・社会 (Entertainment and Our Lives)

このプロジェクトでは、対面-COIL型の協働学習を通した3つの能力（コミュニケーション能力 (Communication Skill)、言語能力 (Language Competence)、異文化理解能力 (Cross Cultural Competence)）の伸長の他、国際的な視野を広げ、将来の留学に繋がる経験の場となることも目指して活動を行った。

日本への帰国後、学生たちは、オンラインツールを用いてチームごとに連絡を取り合い、1) プロジェクトワークの「企画書」の作成、2) Zoomでの中間発表、3) 中間報告シートの作成・提出を順次行い、教員はそれぞれの活動に対して Google Classroom からフィードバックを行った。

表1 渡米中のスケジュール

2月11日(火)	東京(羽田)発 ロサンゼルス(LAX)着 Caltech Hameetman Centerにてミーティング Caltech 日本人研究生およびアメリカ人研究生のレクチャー Caltech-UT メンバー交流会
2月12日(水)	Joseph Falson 先生 (Material Science) による UT 生向けセミナー プラネタリウム科学 Labo・キャンパス内見学など Caltech 学生寮(ダブネ寮)の見学+学生寮での夕食
2月13日(木)	Joseph Falson 先生の修士課程の講義に参加 マテリアル工学 Labo の見学 ランチ+ノートン・サイモン美術館の見学 平井先生の日本語クラスに参加+プロジェクトワーク Griffith Observatory の見学
2月14日(金)	ハンティントンライブラリー&ガーデン見学 Caltech Robotic Labo の見学 Caltech-UT プロジェクトワーク/交流活動
2月15日(土)	Caltech-UT プロジェクトワーク (グループ別) ロサンゼルス、サンタモニカ、パサデナ見学
2月16日(日)	ロサンゼルス(LAX)発 東京(羽田)着 2月17日(月)着

マスターコースの授業を聴講



Caltechの校名プレートの前で



質疑応答形式のセミナー



プロジェクトワーク



Caltech研究生によるセミナー



Caltech日本語クラスに参加



アメリカでの交流活動から

5.1.3 Caltechメンバーの来日中の活動

2月に行われた東大からの渡米に続き、3月20日から5泊6日の日程で、Caltechより平井律子講師と学生7名が来日し、以下の活動を行った。

表2 Caltech生の来日中のスケジュール

3/20 (木)	Caltech 平井講師と学生7名が来日
3/21 (金)	東大本郷キャンパス 8号館 #88L ウェルカムドリンク 最終発表に向けてのグループワーク キャンパスツアー 防災に関する講義(英語)および質疑応答 講師: 先端科学技術センター: 大津山堅介先生、四井早紀先生 活動のまとめなど → 東大生のアテンドによる交流活動
3/22 (土)	Discover Japan (1) 東大-Caltech 交流活動 東大生によるアテンド
3/23 (日)	Discover Japan (2) 東大-Caltech 交流活動 東大生のアテンド
3/24 (月)	プロジェクト最終発表 (1) 3グループ 懇親会 プロジェクト最終発表 (2) 3グループ プロジェクトアンケート 六義園の夜桜鑑賞など
3/25 (火)	帰国

最終発表では6つの学生チームが、それぞれのプロジェクトテーマに沿って協働学習の

成果を発表した。東大生は学習言語である英語を、Caltech の学生も日本語と英語を使って以下のような内容で発表を行った。

表 3 プログラム

Grp.2 (Environment)	Green Infrastructure in the U.S. and Japan: Different Approaches 日本とアメリカのグリーンインフラへの取り組みの違い
Grp.6 (Entertainment)	Comparative Analysis of Movie Protagonists and Cultural Stereotypes in Japan and the U.S / 日米映画に見る主人公の特性とステレオタイプの比較
Grp.1 (Gender)	Gender Gap in STEM majors of U.S. and Japanese Universities / 日米の大学における STEM 専攻のジェンダーギャップ
Grp.5 (Entertainment)	Disney anime vs. Japanese anime /ディズニー vs. 日本アニメ
Grp.3 (Environment)	Analysis and Management of Wildfires in LA through a Comparison of the US, Japan, and Australia / 米日豪の比較を通じた LA における山火事の分析と管理手法検討
Grp.4 (Entertainment)	From comparison between Japanese and American baseball, we will investigate different thoughts toward entertainment. / 日米の野球の比較からエンターテインメントに対する考え方の違いを調査する

5.1.4 活動のまとめと今後の展望

1) 活動の成果物

- ・企画書、中間発表、中間報告書：各チームで作成
- ・最終発表：スライド/PPT を用いた各チーム約 20 分の発表および質疑応答
- ・最終レポート（振り返りレポート）：東大側学生のみ

2) プログラム終了後のアンケート

プログラム終了後にアンケートを実施し、23 名中 20 名（東大側 12 名、Caltech 側 8 名）から回答を得た。アンケートは選択式・記述式合わせて全 14 問からなり、選択式の回答には 4 件法の評価スケールを用いた。問 1 のプロジェクトの実施期間は適切であったかという問いには、全員が適切であったと回答した。また、チームとしての協働作業時間以外に 1 人で活動した時間に関しては、東大側が平均 6.9 時間、Caltech 側が平均 7.1 時間という数値であったが、10 時間（東大 2 名、Caltech 2 名）、15 時間（Caltech 1 名）、20 時間（東大 1 名）という回答もあった。活動の手段に関しては、図 1 のような回答が得られ（複数回答可）、学生が複数のコミュニケーションツールを使って COIL 型の協働作業を進めていたことがわかる。その他として、今年度は Slack を挙げた学生が 4 名いた。

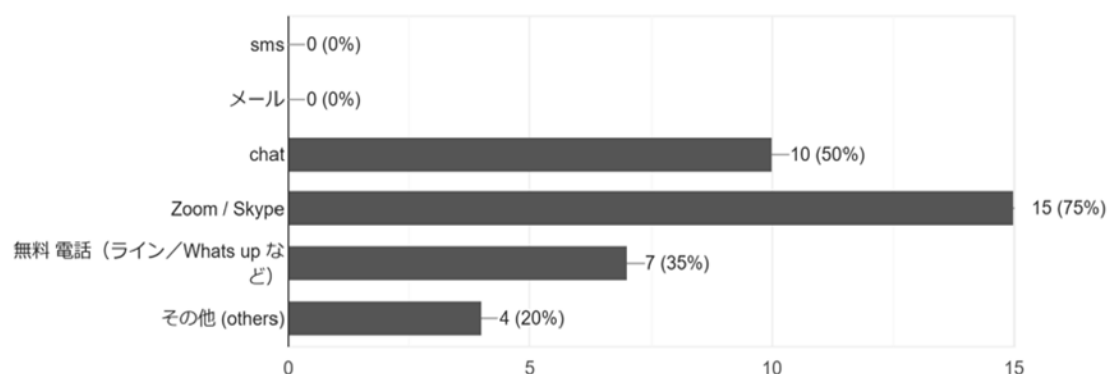


図1 協働学習・コミュニケーションのための手段

選択式アンケートの結果を図2、図3で示す。下記の選択式の質問において、東大側の学生12名中6名は英語だけでなく、日本語の表現力もとても伸びた（3名）と回答しており、こうした能力は日米両語を使った交流活動の中で育まれたと言えよう。東大も Caltech の学生とともに満足度が高い。

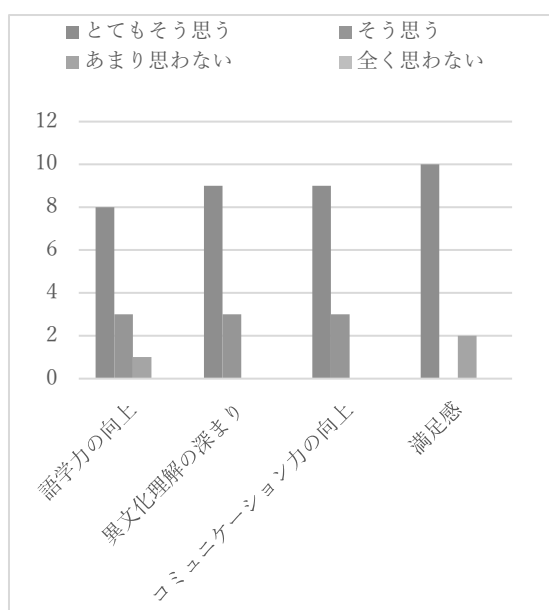


図2 UT の結果

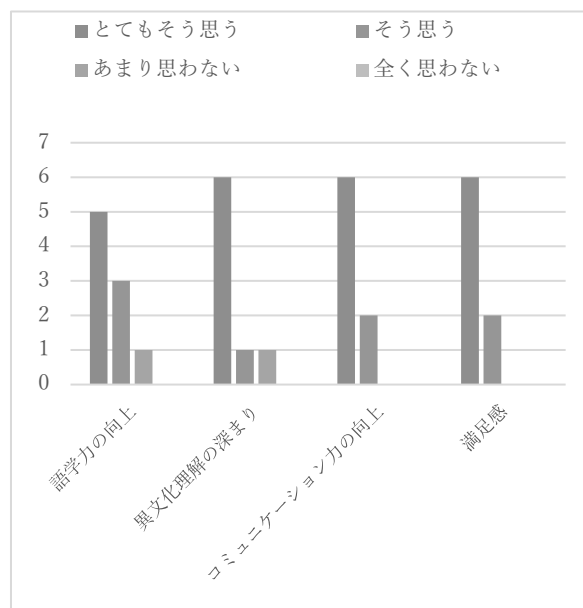


図3 Caltech の結果

次に記述式の質問への回答の中で、「本プログラムへの参加目的は何か」、という問いへの回答を多い順に示すと、東大生は Caltech の学生との交流（7名）、英語力の向上（5名）異文化理解（4名）、Caltech への興味・関心（2名）だった。Caltech 生は日本、日本文化への興味と関心・理解を深めたい（5名）が最も多く、次いで UT の学生との交流・新しい友人を作りたい（4名）、UT の学生とプロジェクトワークがしたい・深めたい（2名）、日本語の練習がしたい（1名）、プロジェクトそのものに興味を持った（1名）という回答だった。

「この授業に参加して残念だったことはなにか」についての東大生は支援金の額、アメリカ滞在中の大雨、滞在期間の短さや自由時間の少なさ、予定の共有が十分ではなかった、チーム活動への貢献度の違い、などが挙げられた。また日本での活動においては、「学科の予定と重なり、参加できない活動があったこと」という回答もあった。「このプロジェクトに参加して一番よかったことは何か」という問いには全員からコメントがあった。回答をみると、友だちができた・Caltech/UT の学生と親しくなれた・交流ができた（東大側 9 名、Caltech 側 5 名）、渡米・来日ができたこと（東大側 4 名、Caltech 側 2 名）、英語・日本語のコミュニケーション能力向上（東大側 3 名、Caltech 側 2 名）などの他、留学体験ができた・今後の留学へのモチベーションとなった（東大側 2 名）などがあった。

3) 活動レポート（振り返りレポート）から見るプロジェクトワークの意味

本プロジェクトの最後に、国際連携(特別)実習 VI のまとめとして、東大の学生には「振り返りレポート」を書いてもらったが、それぞれに考察に富んだ、読み応えのあるレポートであった。紙面の関係でその中からいくつか、学生諸子のコメントを抜粋する。(原文ママ)

- ・今回のプログラムで得られた大きな成果の一つは、UT メンバーや Caltech メンバーとの関係である。分野も興味も異なる、非常に優秀な仲間たちと関わることができたことは大変刺激的であった。

- ・授業の枠組みを超えて、一生ものになるかもしれないコミュニティが作れたのは、語学力の向上や文化理解を差し置いて、ともすると最も重要な収穫だったと思います。

- ・今回の国際連携実習 VI では、単なるロサンゼルス訪問や学生との交流にとどまらず、異なる価値観や背景を持つ他者との協働を通じて、自分自身の意識や行動様式を相対化する貴重な機会となった。

上記のコメントから学生間交流、異文化・多文化理解、語学力の伸長、留学への意欲の芽生えなど、国際連携(特別)実習 VI の成果として期待されていることの他、過去 2 回の振り返りレポート同様、新たな友人との出会い、自己の成長といったこともコメントから読み取れ、東大と Caltech の協働学習と交流活動の意義を示してくれているように思う。今後も本実習が国際交流プログラムの一つとして、さらに発展していくことを切に願う次第である。

5.2 海外体験活動プログラム

体験活動プログラムとは、東京大学の学部学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムで 2012 年度より実施されている。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」に必要な基礎力である、自ら新しいアイディアや発想力を生み出す力を身に付けることが目指されている。(体験活動プログラム PR 用パンフレット、<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html#10> 2025 年 5 月)

5.2.1 インド体験活動プログラム

今年度は2月16日から2月24日にかけて、インド工科大学マドラス校（以下 IITM）において「インド人学生との学生交流およびインド文化体験活動—日本語教育ワークショップ・企業訪問を通して—」を実施した。当コースでは2017年度からインド工科大学カンパール校（IITK）でインド体験活動を実施してきたが、今年度は IITM における初めての実施となり、IITM Department of Engineering Design の Vasa 教授、国際交流担当の窓口である Sivaguru 氏の全面的なサポートにより幅広い体験活動を行うことができた。

今年度は23名の学生から応募があり、その内6名の学部生と2名の修士の学生を選抜した。表2に示すスケジュールに従い、体験活動を実施した。

表4 インド体験活動のスケジュール

日程	活動内容
2月16日	デリー空港に集合し、チェンナイへ移動、 IITM ゲストハウス
2月17日	午前：IITM キャンパスツアー 午後：日本語授業（入門クラス）ボランティア チェンナイ市内見学
2月18日	午前：工学系研究室見学 午後：日本語授業（入門クラス）ボランティア チェンナイ市内見学（博物館、マリーナビーチ）
2月19日	午前：IITM リサーチパーク 午後：プレゼンテーション、カンパール市内見学
2月20日	チェンナイ近郊見学（世界遺産マハーバリプラム等）
2月21日	午前：チェンナイ発、デリー着 午後：JICA 訪問
2月22日	デリー市内見学
2月23日	午前：デリー市内見学 午後：デリー発
2月24日	帰国

(1)実施前の準備

オリエンテーションは1回から3回まではオンライン、4回目は対面で行った。内容は以下のとおりである。

1) 第1回（7月2日）概要説明、自己紹介、役割分担など

2) 第2回（11月6日） 講義：「インド社会・文化について」

講師：加藤隆宏教授（東京大学大学院人文社会系研究科）

3) 第3回(12月3日): 学生の調査発表(インドの気候・食文化)、航空券、VISAの確認、
さくらサイエンスプログラムの受け入れとその役割分担

4) 第4回(2月6日): 学生の調査発表(IITM、チェンナイ・デリーについて)

IITMでの活動の最終確認

(2) プログラム中の主な活動

1) IITM

・日本文化体験ワークショップ: 100名を超えるインド人学生に対し、折り紙、書道、浴衣の着付け体験を行い、交流を深めた。

・IITMの日本語クラスへの参加: 2日間に渡り、日本語クラスに参加した。日本語の先生からのリクエストで、東京大学や日本の食べ物について参加学生が紹介し、またクラス活動として、箸の使い方や箸袋を用いた箸置きを作成などをインド人学生とともに行った。実際の教室内で、日本語を学習するインド人学生と直接交流することができた。

・複数の研究室、大学内の研究施設 Research Park 訪問: これらの訪問により、IITMでの最新の研究内容や起業事例について知ることができ、研究者・学生とのやり取りの中でインドの研究事情に触れることができた。

・チェンナイ市内および近郊の博物館・遺跡見学: インド人学生とともに各所を訪問し、インドの歴史と文化に対する知識を深めた。

2) デリー

・JICA インド事務所訪問: 東京大学の卒業生でもある駐在員2名の方に、インドまたは海外における国際協力事業についてお話を伺った。体験活動参加者の学生たちが将来のキャリアを考えていくうえで、新たな視点を得る良い機会となった。

・インド史跡訪問: ラール・キラ、オールドデリー、アグラセンの階段井戸、世界遺産フマユーン廟、クトゥブ・ミナールの他、異なる宗教の寺院を複数訪ねることにより、インドの宗教的精神性や多様性を体験した。

(3) 体験活動の成果

体験活動終了後に実施した学生アンケート結果は下記のとおりである(表3)。全員がプログラムに新奇性を感じており、7名が充実した体験ができたこと、また、将来にも役立つと捉えていることから、プログラムの充実度は高かったと評価できる。さらに自由回答からも、今回の体験活動を通して、インドや異なる文化に対する新たな気づきや理解を得ていること、自身の将来のキャリアに対してより広い視野で考える機会となったことがうかがえる。

表5 インド体験活動実施後のアンケート結果

	とても そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう思 わない
プログラムに新奇性があった	8				
充実した体験だった	7	1			
困難を伴った		3	2	1	2
自身の長所・短所を理解した	3	3	2		
将来に役立つ	7	1			

自由記述としては、以下のコメントが寄せられた。

- ・今まで、インドに対して漠然なイメージを持っていたが、今回のプログラムを通じて新たな視点を多く獲得することができ、多くの気づきや経験を得ることができた。
- ・このプログラムを通じてインドについてよく知ることができ、IIT の学生と十分交流できたので、とても満足するとともに、インドについてより興味が湧いた。
- ・少し先に行く先輩方が何をやってきて何を問題と感じどう行動に移してきたかを具体的にお聞きすることができて、自分の今後の東大生としての生活のモチベーションになった。
- ・大学主催のプログラムで行ったことで、普通の海外旅行ではできない現地学生との交流や JICA 訪問、熱意ある日本人学生との交流など、とても貴重な経験をすることができた。行って良かったと心から思えるプログラムだった。



研究室にて



日本文化イベント

5.2.2 スウェーデン・英国体験活動

日本語教育コースは、海外協定校であるスウェーデン王立工科大学（KTH）に加え、今年度は、新たにケンブリッジ大学における体験活動プログラムを実施した。本プログラム「スウェーデン王立工科大学・ケンブリッジ大学における異文化理解体験活動 一学生交流と企業訪問を通じて一」は、男女各4名、文理混合の8名を選抜した。

本体験活動においては、KTH では学生交流、大学講義の聴講、ノーベル賞博物館の見学等を通じて、多角的な視点からスウェーデン社会の現状について理解を深めた。一方、英国

では、ケンブリッジ大学を拠点に学生交流および講義への参加を行い、留学の意義について考察する機会とした。また、本プログラム全体を通して、多様な価値観に触れ、グローバルな意識を涵養することを目的とした。具体的な活動内容は以下のとおりである。

1. 国際交流

KTH およびケンブリッジ大学の学生との交流を通じて、国際交流の意義やその在り方について考察した。また、異文化理解を深め、多様性を受容する姿勢を育む機会とした。

2. 大学講義の受講

KTH およびケンブリッジ大学において実施された講義に参加し、学問への探究心を深めるとともに、留学の意義や自己研鑽の重要性について理解を深めた。

3. 企業見学

スウェーデンの企業を訪問し、企業文化や現地での業務状況を学び、学生の視野拡大を図った。

4. 博物館見学（ノーベル賞博物館／大英博物館）

ノーベル賞博物館および大英博物館を見学し、自然科学および文化に関する知見を深めた。

体験活動の実施に先立ち、事前オリエンテーションを3回にわたって実施した。第1回では参加学生による自己紹介を行い、第2回では活動全体のスケジュールの共有に加え、スウェーデンおよびKTHに関する学生による発表を実施した。第3回では、体験活動に関する注意事項や確認事項の説明、さらに質疑応答を通じて学生の理解を深める機会とした。

体験活動のスケジュールは以下のとおりであり（表6参照）、今回はスウェーデンおよびイギリスの二か国をそれぞれ5日間ずつ訪問した。

スウェーデンでは、KTHを訪問し、日本語・スウェーデン語・英語およびポリマーに関する講義を受講した。さらに、キャンパスツアーや化学系研究室（ラボ）の見学、日本語、スウェーデン語のランゲージカフェへの参加を通じて、KTHにおける学習・研究環境を体験した。また、最終日にはKTHの学生の案内によりストックホルム市内を見学した。

イギリスでは、ケンブリッジ大学を訪問し、工学部の施設紹介および複数のカレッジの見学を行った。アフタヌーンティー等、英国文化に関する講義を受講するとともに、ケンブリッジ伝統のパンティング（ボート遊び）を体験し、さらに大学カレッジにおけるディナーにも招待された。最終日には、大英博物館やバッキンガム宮殿など、ロンドン市内の主要な文化施設や観光名所を見学した。

表6 スウェーデン体験活動のスケジュール

日程	活動内容
9月10日(火)	東京発→ストックホルム着 1. 1 キャンパスツアー

	2. 日本語講義 サポート
9月11日(水)	1. ランゲージカフェ (スウェーデン語) 2. 英語講義を受講 (Technical English)
9月12日(木)	1. スウェーデン語講義を受講 2. 会社訪問 (Atlas Copco)
9月13日(金)	1. 工学講義を受講 2. ラボツアー 3. ランゲージカフェ (スウェーデン語)
9月14日(土)	1. ノーベル博物館、市庁舎見学 2. KTH/UT 学生交流会
9月15日(日)	ストックホルム→ケンブリッジへ移動
9月16日(月)	1. Cambridge 言語センター訪問 2. ケンブリッジ大学工学部ツアー
9月17日(火)	1. 英語講座を受講 2. Cambridge 市内ツアー
9月18日(水)	1. 英国文化に関する講座 2. Punting 3. Formal Dinner
9月19日(木)	1. 英国の歴史に関する講義 2. 英国庭園見学
9月20日(金)	Cambridge→ロンドンへ移動
9月21日(土)	ロンドン市内見学 ロンドン発→東京着 9月22日

実施後のアンケート結果は下記のとおりである（表7参照）。体験活動では、全員の学生が充実した体験、将来に役立つ体験だと捉えていることがわかる。困難を伴ったと思う学生は3名のみで長所や短所などを再認識した学生は約半数だった。

表7 体験活動実施後のアンケート結果

	とても そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	全く そう思わない
プログラムに新規性がある	6人	2人			
充実した体験	<u>8人</u>				
困難を伴った	<u>3人</u>		<u>3人</u>	2人	
長所・短所を理解	4人	3人	1人		
将来に役立つ	<u>8人</u>				

自由記述においては、プログラム活動の充実度や、将来的な留学に対する示唆を含む内容が多く見受けられた。10日間という短期間の体験活動ではあったが、学生が国際的な学術環境に身を置き、現地学生との交流を通じて、留学に対する具体的なイメージを形成する契機となったと考えられる。以下に、自由記述の一部を抜粋して示す。

・期待通り(期待以上に)、海外のアカデミックな場で研究することへの具体的なイメージと自分に必要なことがわかり、帰国後も、まずは何事も積極的に学んで自分の研究したいことをはっきりさせ、積極的に英語でアウトプットし、友人らとたくさんのアカデミックな議論を積極的にして、将来海外に飛び立つ基礎体力をどんどんつけたいというモチベーションが一気に上がった。本当に刺激的な体験だった。

・留学に対するハードルは大きく下がり、治安についても適切に対策すれば問題なく生活できると思えるようになりました。今回、KTH、ケンブリッジでも現地の学生にとってもお世話になったので、向こうの学生が東京に来た時には何か手伝いたい。

・より留学したいと思えるようになった。日本の大学とは異なる魅力を感じたため、外国の大学で学んでみたいという気持ちが強くなった。それに関連して、英語の必要性を痛感した日本での常識とは違う文化や価値観に実際に触れることができたのがすごく貴重な経験になった。

・将来留学したいけども海外経験がないため、まず海外はどういうものなのか知ろうと思ったためであったが、とても刺激的で楽しい10日間であり、留学したいという思いが強固なものになった。留学のために必要な能力も知ることができ、とても有意義なものであった。



KTH にて



英語講座



Formal Dinner



英国文化に関する講座

5.3 さくらサイエンスプログラム

さくらサイエンスプログラムは、工学系、情報理工学系に関連する学術的な背景を持ち、日本文化、社会への関心が高く、日本語学習経験がある優秀なインド人学生を対象に、「インドの工学・情報技術を担う高度人材のための最新技術体験と交流促進プログラム」を実施した。このプログラムでは、工学系研究科の教員と連携し、日本の災害とその復興を含む様々な技術開発の成果に触れ、最新の研究成果の共有と各研究室で情報交流を図ることを目的とした。さらに日本の社会的、文化的背景について知識を深める機会を提供した。

2024年12月11日から12月17日まで、インド工科大学マドラス校、ハイデラバード校より合計8名の学生（教員1名を含む）を招へいた。スケジュールは下記のとおりである（表8参照）。

表8 さくらサイエンスプログラムスケジュール

日程	プログラム
12月11日（水）	到着
12月12日（木）	午前：ガイダンス、キャンパスツアー 午後：情報理工学講義、茶道体験
12月13日（金）	午前：日本語コース 授業に参加 午後：工学系研究科 ラボツアー
12月14日（土）	午前：みやぎ東日本大震災津波伝承館見学 午後：石巻市震災遺構門脇小学校見学
12月15日（日）	午前：池袋防災館見学 午後：日本未来科学館見学
12月16日（月）	午前：プレゼンテーション 午後：修了式
12月17日（火）	帰国

12月11日（水）に本プログラム参加者8名が来日し、翌12日（木）より東京大学においてさくらサイエンスプログラムが開始された。初日は午前中にオリエンテーションを実施し、その後、日本人学生によるキャンパスツアーに参加した。午後は、情報理工学系研究科の講義を受講し、コンピュータサイエンス専攻の学生を中心に、本学における情報理工学分野の専門的な教育および研究の一端を体感する機会となった。その後、日本文化理解の一環として茶道体験を実施した。

13日（金）の午前は、参加学生それぞれの日本語能力に応じた日本語コースの授業に参加し、日本語運用能力の向上を図った。午後は、工学系研究科における最新の研究成果の紹介および各研究室の見学を通じて、先端研究の現場に触れ、研究者との情報交換を行った。

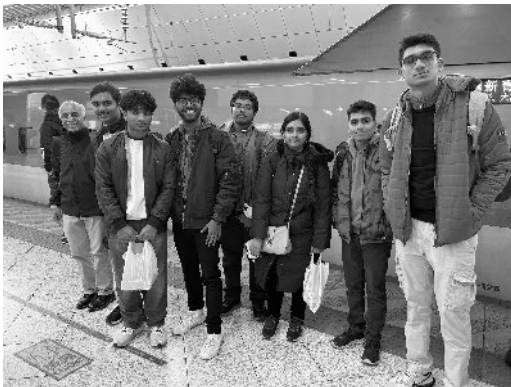


キャンパスツアー（三四郎池）



文化体験（茶道）

12月14日（土）は、日本とインドの共通課題の一つである災害と復興について、それぞれの専門知識・技術的な見地に立ち、東京大学工学部における最新の研究成果の共有と情報交流を図った。さらに、石巻にある「みやぎ東日本大震災津波伝承館」「震災遺構門脇小学校」を見学した。伝承館で、学生たちは三陸の津波被害の歴史、東日本大震災津波、復興の取り組みに関わる映像、写真、被災物などの展示物について、ガイドの説明を熱心に聞き入っていた。



東北新幹線



みやぎ東日本大震災津波伝承館

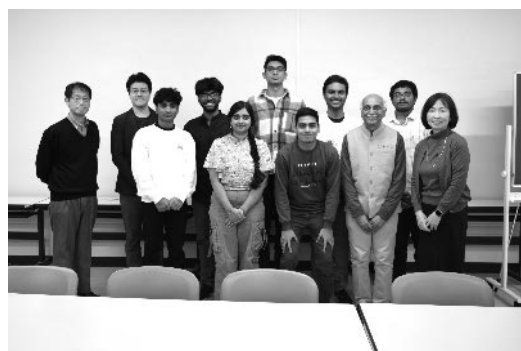
15日（日）午前は、東大生と池袋防災センターで地震体験ツアーに参加した。午後は日本科学未来館を見学し、日本の新しい科学技術の魅力や進歩が社会にどのように関わっているのかを実感することができた。

16日（月）は、日本滞在を振り返り、各自が主に日本語でプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションでは、日本語学習への動機づけが高まり、日本文化への理解が深まったことが示唆された。うち1名は、これまでの人生で最も充実した時間だったと語った。本プログラムをサポートしてくれた日本人学生は、2月にインド工科大学を訪問し、IIT マドラスの学生さんと再会を果たし、交流を深めることができた。最後に、国際教育部門長の高鍋先生から参加者全員（8名）に修了証が授与された。

今後もさくらサイエンスプログラムをととして、日本語教育コースは、本学とインド工科大学とのネットワークの強化に貢献し、日本及び世界の科学技術・イノベーションの発展に寄与していきたい。



日本未来科学館見学



修了式

5.4 ケンブリッジ大学短期受入れプログラム

2023 年にケンブリッジ大学を訪問した際、Centre for Languages and Inter-Communication (CLIC) の David Tual 教授および日本語講師である中野美沙氏と面会し、双方向の交流プログラムを計画した。そして、2024 年 4 月にケンブリッジ大学短期受入れプログラムの実施に至った。本プログラムは、ケンブリッジ大学工学部の学生と東京大学 (UT) の学生との交流を中心に構成され、双方の工学系講義の受講、研究室の見学、日本語および英語の講義の受講、日本文化および英国文化への理解を深める活動を通じて、相互理解を促進することを目的としている。

2024 年度に初めて実施された短期受入れプログラムのスケジュールは、表 9 のとおりである。

表 9 Cambridge 大学短期プログラムスケジュール

日程	プログラム
4 月 11 日 (木)	午前：到着 午後：ガイダンス、キャンパスツアー
4 月 12 日 (金)	午前：工学系研究科 ラボツアー 午後：根津神社見学
4 月 13 日 (土)	午前：日本未来科学館見学 午後：都内観光
4 月 14 日 (日)	自由行動
4 月 15 日 (月)	午前：日本語コース参加 午後：情報理工学系研究科 講義に参加
4 月 16 日 (火)	午前：日本語コース参加

	午後：浴衣の着付け体験、茶道体験
4月17日（水）	午前：日本語コース参加 午後：プレゼンテーション、懇談会
4月18日（木）	帰国

この短期プログラムでは、9月にケンブリッジ大学を訪問予定の東京大学（UT）の学生が、キャンパスツアーや根津神社等のフィールドトリップ、都内見学に参加し、ケンブリッジ大学工学部の学生との交流を図った。工学系および情報理工学系の授業や研究室を見学し、東京大学における最先端の研究内容を理解・共有する機会を得た。また、ケンブリッジ大学の学生は日本語学習の経験を有しており、それぞれの日本語能力に応じたクラスに3日間参加した。さらに、日本文化理解の一環として、浴衣の着付け体験および茶道体験を実施した。プログラムの最終日には、日本滞在の経験をテーマとした学生によるプレゼンテーションが日本語で行われ、日本語教育コースの教員もこれに加わり、学術的かつ文化的な振り返りの場となった。



中央図書館前



根津神社



浴衣着付け・茶道体験



プレゼンテーション

第6章 研究活動・教材作成

工学系研究科日本語教育コースでは、日本語教育および交流活動、国際化教育の実践研究を行い、その成果を広く周知するとともに、改善・発展を目指している。本章では、まず、当教育コースで行っている教育活動に関する研究について述べる。次に、各教員が行った専門分野における研究成果について記述する。

6.1 JLCSE における日本語教育の実践研究

1 研究発表

古市由美子・猪狩美保・市原明日香・牛山和子・劉羅麟（2024/06）「工学系留学生は日本語教育に何を求めるかー言語使用実態調査のデータを用いてー」第1回 JGELS ネットワーキングイベント

【要旨】本発表では、工学系研究科日本語教育コースの受講者を対象とした言語使用実態調査の結果を報告した。言語使用において、研究に関する会話では主に英語が使用されており、教員との間では 70～87%、日本人学生とは 64～73%、留学生同士では 77～93%が英語であった。研究場面ごとの使用言語では、発表・資料・打ち合わせにおいても英語の使用が半数近くを占めていた。

また、学内で留学生が困難を感じている場面としては、研究室内においては「研究室内のやりとり（雑談）」「打ち合わせ」「実験の遂行」「研究発表」の4つが挙げられた。研究室外では、「研究に関連する会話」「履修科目の選択」「授業参加」「ワークショップ参加」「事務手続き」「資料の収集」「専攻選択」「奨学金申請」の8つの場面で困難を抱えていることが示された。これらの結果は、工学系大学院における留学生支援のあり方や日本語教育の環境整備に示唆を与えるものである。

古市由美子・牛山和子・猪狩美保・劉羅麟（2025/03）「英語で研究する工学系留学生はなぜ日本語を必要とするかー留学生と教員のニーズ調査を踏まえてー」第27回 専門日本語教育学会

【要旨】本発表では、本研究では、言語使用実態に関する留学生対象のアンケート（調査①、2019-2023 年、523 名分）に加え、教員対象のアンケート（調査②、2024 年、123 名）のデータを量的、質的に分析した結果を報告した。調査の結果、教員が困っている場面は、研究指導、研究室運営、事務手続き、打ち合わせの4つであった。本研究の結果から、英語で研究する工学系留学生は、相手や場面に応じて日本語を使用しており、学内外で日本語の使用が求められているにも関わらず、日本語力が不足し、困難を抱えていることがわかった。こうした日本語力の不足という言語面の問題が、工学系留学生の実践面（実験遂行や打ち合わせなど）や情意面（人間関係構築や授業参加など）にも影響を及ぼしている。

このように、工学系留学生が自己実現を達成するためには、日本語によるコミュニケーションが不可欠であり、日本語教育の重要性が示唆された。また、留学生と専門教員が求める日本語力の認識の相違を解消するために、専門教員との協働体制を一層強化していきたい。

2 研究会誌

猪狩美保（2024/09）「専門読解」コースにおける反転授業の実践－異なるレベルの分析と比較の試み－『日本語教育方法研究会誌』Vol.31, No.1, pp.94-95

【要旨】本研究は工学系大学院生を対象とする日本語読解コースにおける反転授業の実践に対して、学習者の学びの観点から分析・比較したものであり、反転授業を実施している中級後半レベルの「専門読解」コースを対象に、学習者の学びを分析し、先行研究での結果と比較した。分析結果から、中級後半レベルでは、反転授業において学習者が負担なく事前学習を行い、読解のスキルや語彙・漢字を習得し、さらに読解後のディスカッションを肯定的に捉えていることが分かった。また、事前学習を通して、自分自身の既有知識や体験を言語化することで、事前学習を通して得た学習者自身の学びを対面授業へと繋げ、学びを深めることができる可能性が示唆された。

3 報告会

劉羅麟（2024/09）「理工系の初級日本語学習者向けの教室活動」早稲田大学日本語教育学会 2024 年度大会，早稲田大学

【要旨】発題者は現在、主に工学系の留学生を対象に日本語教育を実施している。LSP（Language for Specific Purposes）、即ち「特定の目的のための言語」という考え方があるが、初級の段階では目標言語の一般的な基礎知識に焦点を当てる場合が多い。発題者がこれまで実践した、連体修飾節の応用練習としての「ロボット作り」の活動を例に紹介しつつ、理工系の初級日本語学習者にも実施可能な教室活動について、意見交換やブレインストーミングを行った。

6.2 各専門分野における研究成果

1 科学研究費

劉羅麟（2024～2026 年度）「学習者の母語と母方言を活用したオンライン日本語発音講座の開発とその検証」日本学術振興会，科学研究費助成事業，若手研究

2 研究論文

劉羅麟・趙氷清（2024/06）「日本語教師の音声教育観と指導実態に関する文献研究－先行研究の質問項目と調査結果の整理－」『早稲田日本語教育学』36, pp.269-278

【要旨】本稿では日本語教師の音声教育観と指導実態に関する先行研究を収集し、文献研究を行った。まず、研究が行われた年代や、調査の地域・対象の分布を整理した。次に、調査の方法と工夫をまとめ、その質問項目を Liu (2023) に基づいて分類した。続いて、先行研究の調査結果を音声教育観と指導実態の両側面から概観した。音声教育観については「なぜ」「なにを」「どのように」指導するかの三つから、指導実態については指導の「概要」と「詳細」および教師の「背景」の三つから、各先行研究の調査結果を整理し、総合的に考察した。本稿で行った文献研究を踏まえ、今後の研究の方向性へ提言を行った。

劉羅麟 (2024/08)「日本語学習者による拗音の誤用パターンと内省ー中国語話者を対象とした発音授業の結果からー」『音声研究』28(2), pp.27-35

【要旨】本稿では、中国語話者の日本語学習者が提出した発音課題を分析し、拗音の誤用パターンを次の五つに分類した。①拗音化：拗音でない2拍を拗音1拍で発音する。②長音化：短音の拗音を伸ばす。③短音化：長音の拗音の長さが足りない。④母音違い：拗音「ゅ」と「ょ」を混同する。⑤中国語の母音：拗音の母音を母語の母音で代用する。また、学習者が記入した振り返りシートから、拗音に対する学習者の内省を抽出した。それを誤用パターンと照合し、誤用が生じる原因、誤用が多発する音環境、誤用と母方言との関係、発音する際の意識について考察した。

劉羅麟 (2024/12)「音声教育のための BEO モデルー日本語教師を対象とした調査の枠組みー」『早稲田日本語教育学』37, pp.147-156

【要旨】21 世紀の日本語教育では、音声教育の必要性が再認識されるようになり、日本語教師の音声教育観と指導実態に関する研究も盛んに行われている。先行研究における用語の不一致や共通の枠組みの欠如を解決するために、本稿では BEO モデル（理念・経験・意見モデル）を提案した。このモデルでは、理念・経験・意見という三つの分類といくつかの下位分類を設けており、樹木をモチーフとしたイメージ図を提示している。本モデルに基づいてアンケートやインタビュー調査の質問項目を作成する方法や、本モデルと併用できるほかの理論的枠組みについても紹介した。研究者が本モデルを援用することで、調査をデザインしやすくなると思われる。それだけでなく、研究を参照する者にとってもその調査結果を比較することで、分野の全体像を把握しやすくなると期待される。

3 研究発表

劉羅麟 (2024/08)「中国各地の大学の非母語話者教師は日本語の発音をどのように指導しているのかー学習者の母語と母方言の活用に焦点を当ててー」（原題：How do NNS Teachers in Universities across China Instruct on Japanese Pronunciation: Focusing on the use of student's L1 and L1 dialect.）ICJLE 2024 日本語教育国際研究大会，ウィスコンシン大学マディソン校，アメリカ

【要旨】これまで、教師が日本語の発音をどのように指導しているかについていくつかのアンケート調査が行われてきたが、共通のモデルがないため結果を比較して全体像を把握することは困難であった。本研究では、先行研究のレビューを通して「理念・経験・意見モデル」を提案した。このモデルに基づき、中国各地の 37 大学の教師 100 名にアンケート調査を実施した。半数以上の教師は学習者の母語や母方言を活用して日本語の発音を指導する方法を共有した。これらの方法を、①焦点を当てる音声項目、②母語の活用方法（劉 2023 の枠組み「TP-SD」）、という二つの観点から分類した。

劉羅麟（2024/09）「体系的・非体系的な発音指導を行う日本語教師の比較—中国の大学教師の回答から体系的な音声教育について考える—」第 38 回日本音声学会全国大会予稿集，pp.141-146

【要旨】日本語教育において音声の重要性が再び提起されるようになったが、発音指導は「音声教育の専門家」にしか行えないと考える教師も少なくない。教師の音声教育観と指導実態を解明するために、本研究では中国の 37 大学の中国人日本語教師 100 名にアンケート調査を実施した。本発表では体系的な発音指導を行う教師と非体系的な発音指導を行う教師の回答を比較しながら両者の違いを分析し、発音指導の体系性に対する教師の認識に関係する要因について考察した。

劉羅麟（2024/12）「発音指導の実態と教師の音声教育観を知るには—BEO モデル（理念・経験・意見モデル）のすすめ—」東京音声研究会発音フェスタ，早稲田大学

【要旨】ほかの教師や教育機関はどのように発音指導を行い、どのような音声教育観を持つのか。音声教育の実践者・研究者として、日々の教育活動をより良くしていくために、知りたいところである。本発表では先行研究のメタ分析から構築した BEO モデル（理念・経験・意見モデル）について説明し、本モデルを用いて発音指導の実態と教師の音声教育観について調査する方法を紹介する。その上で各自が行っている発音指導について内省してもらい、来場者と意見交換を行う。

劉羅麟（2025/03）「母語を活用した発音指導を受けた学習者による清音と濁音の生成と内省」，中国語話者のための日本語教育研究会第 57 回大会，東洋大学白山キャンパス

【要旨】中国語話者の日本語学習者は、日中両言語における音韻対立の違いによる影響で、日本語の清音と濁音を混同するケースが多い。本研究では、日本語学習者が母語を活用した発音指導を受けた後に、無声音と有声音の違いを理解したうえでよりよく発音できるようになるかを検証した。学習者の発音課題と振り返りシートを分析した結果、清音と濁音を意識した状態で語レベルの音読でも誤用が多かったが、指導を受けてほとんどの学習者に異なる程度の改善があった。また、学習者は清音と濁音について内省できるようになり、それが今後の発音学習にも繋がると期待される。

第7章 今後の課題

工学系研究科日本語教育コースは、留学生・研究員を取り巻く環境づくりの一環として、円滑な研究生生活および日常生活の実現のための日本語教育・日本文化事情教育を提供することを目的としている。今年度実施したことを振り返り、来年度のよりよい留学生支援に向けて、次の5項目、1日本語教育、2日本文化事情教育、3国際交流支援、4国際化教育、5実践研究と教材開発について、課題と展望を検討する。

7.1 日本語教育

1 カリキュラム

2024 年度の受講状況並びに、学生のニーズに応え、来年度以降、カリキュラムの見直しを行いたい。

・初級コースの受講者が増加

工学系研究科においては、研究活動に使用する言語は主に英語である。しかしながら、日本社会における日常生活では、基礎的な日本語運用能力が不可欠である。そのため、本コースでは留学生の多様なニーズに応じて、スモールステップコース、インテンシブコース、ならびに S2A2 から始まる入門コースなどを提供している。これらのコースは、近年いずれも受講者数が定員を上回る状況が続いている。加えて、専攻日本語教育コースの閉鎖を受け、今後もこの傾向は継続すると予測される。さらに、交換留学生の増加に伴い、初級日本語コースの増設が必要だと考える。

・上級コースの受講者が減少

毎年実施している言語背景調査の結果によれば、留学生全体の 7 割以上が上級レベル以上の日本語能力の習得を目標としている。これを受けて、2024 年度は上級 2 レベルにおいて各スキル別のコースを開講した。しかしながら、1 年間を通じて上級 2 レベルの受講者数は当初の予想に反して伸び悩んだ。この結果を踏まえ、2025 年度以降は、上級 2 コースを「上級 2 聴解・会話」「上級 2 読解・文章」へと再編し、より効果的なスキル別編成を図りたいと考えている。加えて、上級レベルへの日本語学習の継続を促すには、学習意欲の維持と支援体制の充実が不可欠であることから、今後はより効果的な教育手法の導入と、学習者支援の強化を図っていきたい。

2 授業方法の見直し

「はじめに」で述べたように、近年、ICT の発達に伴い、オンライン教材やデジタルツールの活用が進み、学習者主体の授業設計が求められるようになってきた。こうした背景の中、従来の講義中心の授業に代わり、反転授業やアクティブラーニングなど、学習者の主体的な学びを促す教育手法への関心が高まっている。本コースにおいても、今後はこのような授業

方法を積極的に取り入れていきたい。

7.2 日本文化事情教育

今年度は、各学期において日本文化体験・ワークショップを4回ずつ実施した。「書道ワークショップ」や「茶道体験」については、東京大学の学生サークルと連携し、日本人学生が指導者として留学生に日本文化を紹介する機会を設けた。こうした活動は、同世代の学生から直接学ぶことで留学生にとって親しみやすく、双方にとって有意義な学びとなっている。このように、学内での交流を今後さらに活性化させていきたいと考えているが、いくつかの課題が明らかとなった。第一に、指導者となる学生の卒業により、活動の継続性が確保しにくい点が挙げられる。第二に、該当サークルが他のキャンパスを拠点としていることから、調整や連携に困難が伴うことである。また、「書道ワークショップ」や「茶道体験」、「着物の着付け体験」などは非常に高い人気を集めており、今年度は実施回数を増加させたものの、依然として全ての希望者に対応することは困難であった。さらに今年度は、伝統文化に加えて現代のポップカルチャーにも焦点を当て、「アニメのアテレコ体験」を新たに実施した。今後は、こうした多様な文化的関心や留学生のニーズに基づき、より幅広い文化理解を促す新たなプログラムの開発と実践を進めていきたい。

7.3 留学生と日本人学生の国際交流支援

授業ボランティアは、日本人学生がボランティアとして日本語授業に参加し、教員と協働して留学生の日本語学習を支援することを目的としている。本プログラムを通じて、日本人学生にとっては、自らの母語である日本語を再発見し、その特徴や使用実態を見つめ直す貴重な機会となるだけでなく、留学生との交流の場でもある。

今年度は、37名の日本人学生が授業ボランティアとして参加し、教員の当初の想定を上回る人数となった。今後は、授業内容や留学生の学習状況に応じて、授業ボランティアと教員とのより効果的なマッチングを検討し、より充実した学習支援体制の構築を図りたいと考えている。

International Lounge は、留学生と日本人学生および教職員との学内における国際交流および多文化理解の促進を目的として実施している。今年度は、全体の参加者数が増加傾向にあったが、留学生の参加率は日本人学生に比べてやや低い状況であった。本プログラムでは、日本人学生・留学生を問わず誰もが参加しやすいよう、英語が使用されることが多い。しかしながら、今後は日本語と英語の両言語を併用することで、参加者にとって言語習得の機会を提供しつつ、留学生の参加意欲を高めることを目指したいと考えている。

日本語ラーニングアドバイスセッションは、夏季休業および春季休業中に日本人大学院生がアドバイザーとなり、留学生に対して日本語の四技能（聞く・話す・読む・書く）およ

びアカデミックスキルに関する学習支援を提供することを目的としている。今年度は、日本人学生を1名多く募集し、より効果的な支援を試みたが、結果として実施回数は想定を下回った。今後は、実施期間・回数・時間帯に関するニーズ調査を行い、その結果に基づいて体制の見直しと強化を進めていく予定である。

7.4 国際化教育

体験活動プログラムは、日本人学生が海外の協定校において、これまでの生活とは異なる文化や価値観に触れることを通じて、新たな発想力や創造力を養うことを目的としている。今年度は2名の教員が引率し、今回はインド工科大学マドラス校（IITM）において実施した。さらに、ケンブリッジ大学においても初めて体験活動を実施した。

本プログラムは、第5章でも述べたように、事前オリエンテーションの実施、滞在校および現地教員への調整依頼、約1週間にわたる海外引率など、教員の業務負担が非常に大きい。今年度は新たな海外体験活動を成功裏に実施したが、限られた教員数では継続的な実施に限界がある。今後は、国際化教育および国際交流の推進に向けて、人的・制度的リソースをより効果的に活用する必要がある。

さくらサイエンスプログラムは、工学系および情報理工学系に関連する学術的背景を有し、日本文化や社会への関心が高く、日本語学習経験を持つ優秀なインド人学生を対象として、昨年度に引き続き第2回目を実施した。今年度は、インド工科大学（IIT）マドラス校およびハイデラバード校から8名の学生を招聘した。招聘の準備として航空券や宿舍の手配、さらには複雑な事務手続きの遂行は容易ではないが、本プログラムを通じて、東京大学とインド工科大学との間における学術的ネットワークを一層強化し、本学への留学の関心を高めるとともに、日本および国際社会における科学技術・イノベーションの発展に寄与していきたい。

7.5 実践研究および教材開発

初級コースおよびキャリア教育コースの受講者数が増加していることから、初級レベルの日本語力や、就職活動・職場対応に必要な日本語能力に対するニーズの高さがうかがえる。こうした背景を踏まえ、今後は初級日本語およびキャリア関連の日本語に特化したオンライン教材を作成し、学習者が自分のペースで学べる環境を整備していきたい。

2024年度S1S2工学系研究科日本語教室時間割

対象: 工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2024年4月5日～2024年7月24日

履修登録: HP <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録期間: 3月5日～4月12日 修正期間: 4月13日～4月19日 (入門コース 6月13日迄)

連絡先: 113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室

古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話: 03-5841-8826 FAX: 03-5800-2436

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ(4コース:21コマ)、初級Ⅱ(3コース:12コマ) 中級Ⅰ(5コース:9コマ)

中級Ⅱ(7コース:11コマ) 中級Ⅲ(6コース:10コマ)、上級Ⅰ(6コース:7コマ)、上級Ⅱ(5コース:5コマ) 計36コース、75コマ

	8:30 - 10:15	10:25 - 12:10	13:00 - 14:45	14:55 - 16:40
月	インテンシブ初級Ⅰ 劉 123			
	初級2A 鈴木 324B 初級2B 猪狩 132	初級1A 東平 324C 初級1B 鈴木 324B 初級1C 市原 722		
	中級2 会話A 牛山 702 中級2 会話B 東平 324C			
	中級3 総合A 佐藤 88L 中級3 総合B 大西 88M	中級3 会話A 大西 88M 中級3 会話B 佐藤 88L		
	上級1 読解 市原 722	上級2 聴解 猪狩 132		
火	インテンシブ初級Ⅱ 佐藤 722		入門 [6/4-] 劉 88L	
	初級4A 猪狩 324B 初級4B 東平 324C	初級3A 猪狩 324B 初級3B 東平 324C		
	中級1 総合A 牛山 123 中級1 総合B 内田 54	中級1 会話A 劉 55 中級1 会話B 宮瀬 88M		
	【中級3】日本語キャリアブリッジ 古市 88L	中級2 総合A 牛山 123 中級2 総合B 内田 54		
	上級1 総合 宮瀬 88M	【上級1, 2】日本語キャリアデザイン 佐野 88L		
水	インテンシブ初級Ⅰ 中村 123		ビジターセッション&日本文化体験 (イベント:13:30-) 市原・早坂 [4/24-] 88M/88L	チュートリアル (14:00-15:40) 牛山 [6/5-] 88M/123
	初級2A 劉 324C 初級2B 藤井 324B	初級1A 劉 324C 初級1B 藤井 324B 初級1C 片岡 722		
	中級2 聴解 片岡 722	中級1 専門読解 猪狩 54		
	中級3 総合A 牛山 132 中級3 総合B 鈴木 88M	中級2 文章 鈴木 88M		
	上級2 総合 市原 54			
木	初級4A 久田 324B 初級4B ハワード123	初級3A 久田 324B 初級3B 内田 88M	入門 中村 [6/6-] 88M	
	中級1 聴解 内田 88M	中級1 文章 米谷 722	【中級3・上級1・2】 多文化理解プロジェクト 牛山 88L	
	中級2 読解 米谷 722	中級2 専門語彙・漢字 古市 88L		
	中級3 専門読解 市原 132	中級3 聴解 中村 132		
	上級1 聴解 藤井 324C	上級1 会話 ハワード 123		
	上級2 読解 牛山 88L	上級2 文章 藤井 324C		
金	インテンシブ初級Ⅱ 米谷 88L		International Lounge (12:10-13:10) 猪狩・山畑	
	インテンシブ初級Ⅰ 武田 324C	初級1A 武田 324C 初級1B 劉 324B 初級1C ハワード 722		
	中級1 総合A ハワード 722 中級1 総合B 劉 324B	中級3 文章 宮瀬 88M		
	中級2 総合A 宮瀬 88M 中級2 総合B 猪狩 123	上級1 総合 市原 123		
	上級1 文章 片岡 54	上級2 会話 片岡 54		

2024年度S1S2 工学系研究科日本語教室概要

対象:工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者、工学部学部生、全学交換留学生

授業開講期間: 2024年4月5日～2024年7月24日

履修登録:HP <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録期間:3月5日～4月12日 修正期間:4月13日～4月19日
(入門コース 6月13日迄)

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室
古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話:03-5841-8826

単位: 1コマ2単位(「入門」は1コマ1単位)初級Ⅰ(4コース:21コマ)初級Ⅱ(3コース:12コマ)中級1(5コース:9コマ)
中級2(7コース:11コマ)中級3(6コース:10コマ)上級1(6コース:7コマ)上級2(5コース:5コマ) 計36コース、75コマ

コース	対象	時間	担当	教材
入門 * 1コマ1単位 (6月4日～)	はじめて日本語を勉強する人 短期滞在者	火 13:00-16:40 木 13:00-14:45	劉・中村	『Basic Japanese for Students はかせ1』 (スリーエーネットワーク)
インテンシブ 初級Ⅰ	はじめて日本語を勉強する人	月・水 8:30-12:10 金 8:30-10:15	劉・中村・武田	『大地Ⅰ メインテキスト』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク), 『にほんごチャレンジN4-5[かんじ]』(アスク)
初級1A 初級1B 初級1C	はじめて日本語を勉強する人	月・水・金 10:25-12:10	A: 東平・劉・武田 B: 鈴木・藤井・劉 C: 市原・片岡・ハワード	『大地Ⅰ メインテキスト(L1-12)』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
初級2A 初級2B	初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人、またはCEFR A1.1相当	月・水 8:30-10:15	A: 鈴木・劉 B: 猪狩・藤井	『大地Ⅰ メインテキスト(L13-22)』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
インテンシブ初級Ⅱ	初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当	火・金 8:30-12:10	佐藤 米谷	『大地Ⅱ メインテキスト』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)『にほんごチャレンジ N4-5[かんじ]』(アスク出版)
初級3A 初級3B	初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当	火・木 10:25-12:10	A: 猪狩・久田 B: 東平・内田	『大地Ⅱ メインテキスト(L23-32)』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
初級4A 初級4B	初級3の修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A2.1相当	火・木 8:30-10:15	A: 猪狩・久田 B: 東平・ハワード	『大地Ⅱ メインテキスト(L33-42)』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
中級1 総合A 中級1 総合B	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2相当	火・金 8:30-10:15	A: 牛山・ハワード B: 内田・劉	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』(スリーエーネットワーク)
中級1 聴解	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2相当	木 8:30-10:15	内田	『5分でできるにほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク), 『<テーマ別> 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』(研究社)
中級1 会話A 中級1 会話B	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2相当	火 10:25-12:10	A: 劉 B: 宮瀬	『会話に挑戦! 中級前期からの日本語 ロールプレイ』(スリーエーネットワーク)
中級1 専門読解	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	水 10:25-12:10	猪狩	自主教材

中級1 文章	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2相当	木 10:25-12:10	米谷	「おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文」(凡人社)
中級2 総合A 中級2 総合B	中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	火 10:25-12:10 金 8:30-10:15	A: 牛山・宮瀬 B: 内田・猪狩	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版』(スリーエーネットワーク) ※テキストは緑色の表紙
中級2 聴解	中級1聴解コースの修了者、またはJLPTN3相当、CEFR B1相当	水 8:30-10:15	片岡	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中級】』(スリーエーネットワーク)
中級2 会話A 中級2 会話B	中級1会話コースの修了者、またはJLPTN3相当、CEFR B1相当	月 8:30-10:15	A: 牛山 B: 東平	『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』(凡人社)
中級2 読解	中級1読解コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	木 8:30-10:15	米谷	『留学生のための読解トレーニング(読む力がアップする15のポイント)』(凡人社)
中級2 文章	中級1文章コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1 相当	水 10:25-12:10	鈴木	『小論文への12のステップ』(スリーエーネットワーク)
中級2 専門語彙・漢字	中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	木 10:25-12:10	古市	自主教材
中級3 総合A 中級3 総合B	中級2総合コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	月・水 8:30-10:15	A: 佐藤・牛山 B: 大西・鈴木	『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』(スリーエーネットワーク) * テキストは水色の表紙
中級3 聴解	中級2聴解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 10:25-12:10	中村	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中上級】』(スリーエーネットワーク)
中級3 会話A 中級3 会話B	中級2会話コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	月 10:25-12:10	A: 大西 B: 佐藤	自主教材
中級3 専門読解	中級2読解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 8:30-10:15	市原	自主教材
中級3 文章	中級2文章コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	金 10:25-12:10	宮瀬	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語②作文編』(アルク)
【中級3】 日本語キャリアブリッジ	中級2総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当。研究生は除く	火 8:30-10:15	古市	自主教材
【中級3・上級1・上級2】 多文化理解プロジェクト	中級2総合または中級3総合コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 13:30-14:30	牛山	自主教材

【上級1・上級2】 日本語キャリアデザイン	日本語 中級3総合を修了した人、又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当。研究生は除く	火 10:25-12:10	佐野	自主教材
上級1 総合	中級3総合コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	火 8:30-10:15 金 10:25-12:10	宮瀬・市原	『留学生のための時代を読み解く上級日本語』第3版 スリーエーネットワーク
上級1 聴解	中級3聴解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 8:30-10:15	藤井	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【上級】』(スリーエーネットワーク)
上級1 会話	中級3会話コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 10:25-12:10	ハワード	『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』(スリーエーネットワーク)
上級1 読解	中級3読解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	月 8:30-10:15	市原	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編 アルク
上級1 文章	中級3文章コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	金 8:30-10:15	片岡	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』(アルク)
上級2 総合	上級1総合コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当	水 8:30-10:15	市原	自主教材
上級2 聴解	上級1聴解コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当	月 10:25-12:10	猪狩	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 動画で学ぶ大学の講義』(スリーエーネットワーク)
上級2 会話	上級1会話コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当	金 10:25-12:10	片岡	自主教材
上級2 読解	上級1読解コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当	木 8:30-10:15	牛山	自主教材
上級2 文章	上級1文章コースの修了者、JLPT N1レベル以上、またはCEFR C1相当	木 10:25-12:10	藤井	『大学生と留学生のための論文ワークブック』(くろしお出版)

Cultural Exchanges and Events

ビジターセッション・ 日本文化体験 (4/24～)	全レベル対象	水 13:00-14:30	市原 早坂	
International Lounge	全レベル対象	金 12:10-13:10	猪狩 山畑	
チュートリアル (6/5～)	全レベル対象	水 14:00-15:40	牛山	

2024年度A1A2工学系研究科日本語教室時間割

対象:工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2024年10月2日～2025年1月29日

履修登録:HP <http://www.ilcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録期間:9月5日～10月8日 修正期間:10月9日～10月15日 (入門コース 12月5日迄)

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室

古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@ilcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話:03-5841-8826

単位:1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ(4コース:21コマ)、初級Ⅱ(3コース:12コマ) 中級1(5コース:9コマ)

中級2(7コース:11コマ)中級3(6コース:10コマ)、上級1(6コース:7コマ)、上級2(5コース:5コマ) 計36コース、75コマ

	8:30 – 10:15	10:25 – 12:10	13:00 – 14:45	14:55 – 16:40
月	インテンシブ初級Ⅰ 劉 722			
	初級2A 鈴木 324B 初級2B 猪狩 55 初級2C 大西 88M	初級1A 東平 123 初級1B 鈴木 324B 初級1C 市原 324C		
	中級2 会話A 牛山 702 中級2 会話B 東平 123			
	中級3 総合 佐藤 88L	中級3 会話A 大西 88M 中級3 会話B 佐藤 88L		
	上級1 読解 市原 324C	上級2 聴解 猪狩 55		
	火	インテンシブ初級Ⅱ 佐藤 722		
初級4A 猪狩 324B 初級4B 東平 324C		初級3A 猪狩 324B 初級3B 東平 324C		
中級1 総合A 牛山 123 中級1 総合B 内田 54		中級1 会話A 劉 55 中級1 会話B 宮瀬 88M		
【中級3】日本語キャリアブリッジ 古市 88L		中級2 総合A 牛山 123 中級2 総合B 内田 54		
上級1 総合 宮瀬 88M		【上級1・2】日本語キャリアデザイン 佐野 88L		
水		インテンシブ初級Ⅰ 中村 722		
	初級2A 劉 123 初級2B 藤井 324B 初級2C 鈴木 88M	初級1A 劉 123 初級1B 藤井 324B 初級1C 片岡 324C		
	中級2 聴解 片岡 324C	中級1 専門読解 猪狩 54		
	中級3 総合 牛山 88L	中級2 文章 鈴木 88M		
	上級2 総合 市原 54			
	木	初級4A 久田 324B 初級4B ハワード722		
中級1 聴解 内田 88M		中級1 文章 米谷 123	【中級3・上級1・2】 多文化理解プロジェクト 牛山 88L	
中級2 読解 米谷 123		中級2 専門語彙・漢字 古市 88L		
中級3 専門読解 市原 55		中級3 聴解 中村 55		
上級1 聴解 藤井 324C		上級1 会話 ハワード 722		
上級2 読解 牛山 88L		上級2 文章 藤井 324C		
金	インテンシブ初級Ⅱ 米谷 88L		International Lounge (12:10-13:10) 猪狩・佐々木 [10/11-]	
	インテンシブ初級Ⅰ 武田 123	初級1A 武田 123 初級1B 劉 324B 初級1C ハワード 324C		
	中級1 総合A ハワード 324C 中級1 総合B 劉 324B	中級3 文章 宮瀬 88M		
	中級2 総合A 宮瀬 88M 中級2 総合B 猪狩 722	上級1 総合 市原 722		
	上級1 文章 片岡 54	上級2 会話 片岡 54		

2024年度A1A2工学系研究科日本語教室概要

対象: 工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生
 研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2024年10月2日～2025年1月29日

履修登録: HP <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録期間: 9月5日～10月8日 修正期間: 10月9日～10月15日
 (入門コース 12月5日迄)

連絡先: 113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室

古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話: 03-5841-8826

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ(4コース:21コマ)、初級Ⅱ(3コース:12コマ)、中級Ⅰ(5コース:9コマ)

中級Ⅱ(7コース:11コマ) 中級Ⅲ(6コース:10コマ)、上級Ⅰ(6コース:7コマ)、上級Ⅱ(5コース:5コマ) 計36コース、75コマ

コース	対象	時間	担当	教材
入門 *1コマ1単位 (11月28日～)	はじめて日本語を勉強する人 短期滞在者	火 13:00-16:40 木 13:00-14:45	劉・中村	『Basic Japanese for Students はかせ1』 (スリーエーネットワーク)
インテンシブ 初級Ⅰ	はじめて日本語を勉強する人	月・水 8:30-12:10 金 8:30-10:15	劉・中村・武田	『大地Ⅰ メインテキスト』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク), 『にほんごチャレンジN4-5[かんじ]』(アスク)
初級1A 初級1B 初級1C	はじめて日本語を勉強する人	月・水・金 10:25-12:10	A: 東平・劉・武田 B: 鈴木・藤井・劉 C: 市原・片岡・ハワード	『大地Ⅰ メインテキスト(L1-12)』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
初級2A 初級2B 初級2C	初級Ⅰの修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人、またはCEFR A1.1相当	月・水 8:30-10:15	A: 鈴木・劉 B: 猪狩・藤井 C: 大西・鈴木	『大地Ⅰ メインテキスト(L13-22)』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
インテンシブ初級Ⅱ	初級Ⅱまたはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当	火・金 8:30-12:10	佐藤 米谷	『大地Ⅱ メインテキスト』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 『にほんごチャレンジ N4-5[かんじ]』(アスク出版)
初級3A 初級3B	初級Ⅱまたはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当	火・木 10:25-12:10	A: 猪狩・久田 B: 東平・内田	『大地Ⅱ メインテキスト(L23-32)』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
初級4A 初級4B	初級Ⅲの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A2.1相当	火・木 8:30-10:15	A: 猪狩・久田 B: 東平・ハワード	『大地Ⅱ メインテキスト(L33-42)』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
中級Ⅰ 総合A 中級Ⅰ 総合B	初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2相当	火・金 8:30-10:15	A: 牛山・ハワード B: 内田・劉	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』(スリーエーネットワーク)
中級Ⅰ 聴解	初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2相当	木 8:30-10:15	内田	『5分でできるにほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク), 『<テーマ別> 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』(研究社)
中級Ⅰ 会話A 中級Ⅰ 会話B	初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2相当	火 10:25-12:10	A: 劉 B: 宮瀬	『会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク)
中級Ⅰ 専門読解	初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	水 10:25-12:10	猪狩	自主教材

中級1 文章	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2相当	木 10:25-12:10	米谷	「おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文」(凡人社)
中級2 総合A 中級2 総合B	中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	火 10:25-12:10 金 8:30-10:15	A: 牛山・宮瀬 B: 内田・猪狩	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版』(スリーエーネットワーク) ※テキストは緑色の表紙
中級2 聴解	中級1聴解コースの修了者、またはJLPTN3相当、CEFR B1相当	水 8:30-10:15	片岡	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中級】』(スリーエーネットワーク)
中級2 会話A 中級2 会話B	中級1会話コースの修了者、またはJLPTN3相当、CEFR B1相当	月 8:30-10:15	A: 牛山 B: 東平	『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』(凡人社)
中級2 読解	中級1読解コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	木 8:30-10:15	米谷	『留学生のための読解トレーニング(読む力がアップする15のポイント)』(凡人社)
中級2 文章	中級1文章コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1 相当	水 10:25-12:10	鈴木	『小論文への12のステップ』(スリーエーネットワーク)
中級2 専門語彙・漢字	中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	木 10:25-12:10	古市	自主教材
中級3 総合	中級2総合コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	月・水 8:30-10:15	佐藤・牛山	『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』(スリーエーネットワーク) *テキストは水色の表紙
中級3 聴解	中級2聴解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 10:25-12:10	中村	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中上級】』(スリーエーネットワーク)
中級3 会話A 中級3 会話B	中級2会話コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	月 10:25-12:10	A: 大西 B: 佐藤	自主教材
中級3 専門読解	中級2読解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 8:30-10:15	市原	自主教材
中級3 文章	中級2文章コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	金 10:25-12:10	宮瀬	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語②作文編』(アルク)
【中級3】 日本語キャリアブリッジ	中級2総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当。研究生は除く	火 8:30-10:15	古市	自主教材
【中級3・上級1・上級2】 多文化理解プロジェクト	中級2総合または中級3総合コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 13:30-14:30	牛山	自主教材

【上級1・上級2】 日本語キャリアデザイン	日本語 中級3総合を修了した人、 又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相 当。研究生は除く	火 10:25-12:10	佐野	自主教材
上級1 総合	中級3総合コースの修了者、また はJLPT N1相当、CEFR B2+相当	火 8:30-10:15 金 10:25-12:10	宮瀬・市原	『留学生のための時代を読み解く上級日 本語』第3版 スリーエーネットワーク
上級1 聴解	中級3聴解コースの修了者、また はJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 8:30-10:15	藤井	『留学生のためのアカデミック・ジャパニー ズ聴解【上級】』(スリーエーネットワーク)
上級1 会話	中級3会話コースの修了者、また はJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 10:25-12:10	ハワード	『日本語超級話者へのかけはし きちんと 伝える技術と表現』(スリーエーネットワ ーク)
上級1 読解	中級3読解コースの修了者、また はJLPT N1相当、CEFR B2+相当	月 8:30-10:15	市原	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③ 論文読解編』アカデミック・ジャパニー ズ研究会編 アルク
上級1 文章	中級3文章コースの修了者、また はJLPT N1相当、CEFR B2+相当	金 8:30-10:15	片岡	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④ 論文作成編』(アルク)
上級2 総合	上級1 総合コースの修了者、また はJLPT N1レベル以上、CEFR C1 相当	水 8:30-10:15	市原	『新訂版トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級』 (スリーエーネットワーク)
上級2 聴解	上級1 聴解コースの修了者、また はJLPT N1レベル以上、CEFR C1 相当	月 10:25-12:10	猪狩	『留学生のためのアカデミック・ジャパニー ズ 動画で学ぶ大学の講義』 (スリーエーネットワーク)
上級2 会話	上級1 会話コースの修了者、また はJLPT N1レベル以上、CEFR C1 相当	金 10:25-12:10	片岡	自主教材
上級2 読解	上級1 読解コースの修了者、また はJLPT N1レベル以上、CEFR C1 相当	木 8:30-10:15	牛山	自主教材
上級2 文章	上級1 文章コースの修了者、 JLPT N1レベル以上、または CEFR C1相当	木 10:25-12:10	藤井	『これで書ける!理系作文の鉄則46 ぜひ 知っておきたい最強のコツとテクニック』 (化学同人)

Cultural Exchanges and Events

ビクターセッション・ 日本文化体験 (10/16～)	全レベル対象	水 13:00-14:30	市原 早坂	
International Lounge (10/11～)	全レベル対象	金 12:10-13:10	猪狩・佐々木	
チュートリアル (12/4～)	全レベル対象	水 14:00-15:40	牛山	

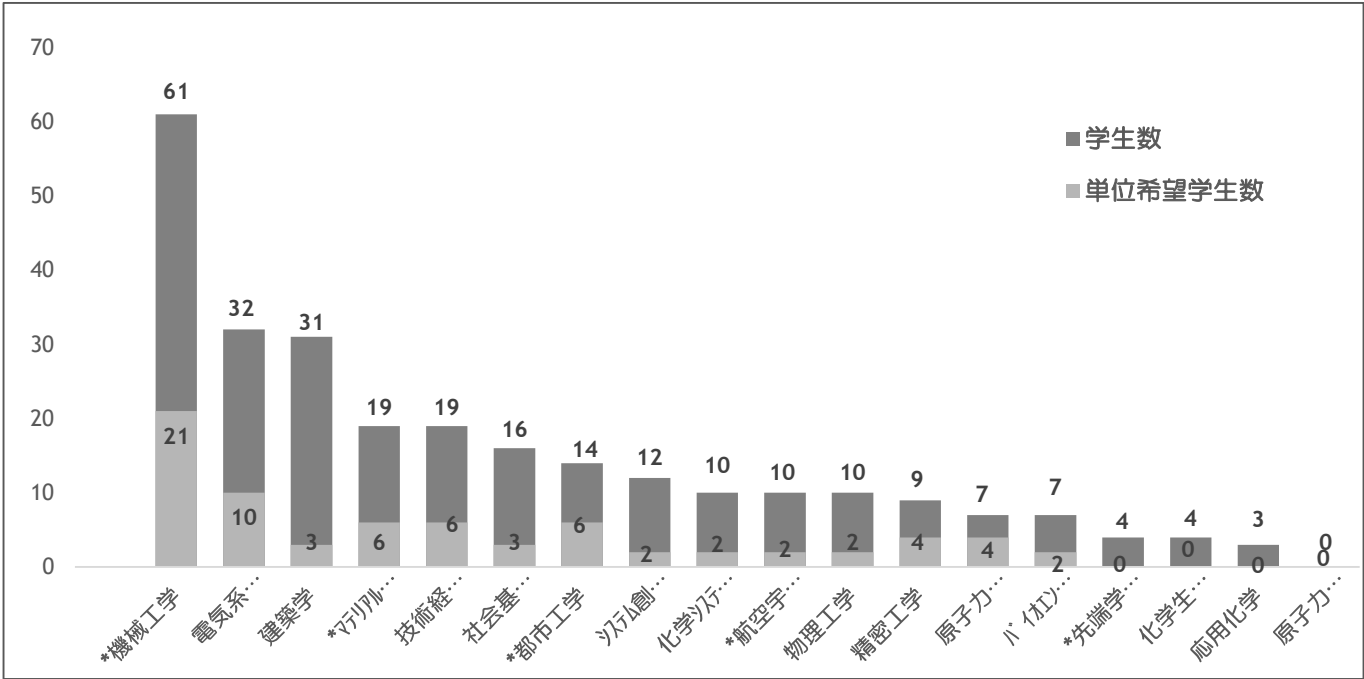
1. 2024年度S1S2 工学系研究科日本語教室受講者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位希望学生数

研究科		レベル	初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科			67	38	47	37	36	27	16	268(73)	212(60)
②情報理工学系			22	6	7	7	21	16	2	81(31)	64(27)
③新領域創成科学研究科			1		1	7	7	4		20(6)	13(6)
④他研究科	公共政策 大学院		7	2	3	4	10	6	1	33(19)	29(17)
	情報学環・学際情報学府		1	1	2	7	5	6	4	26(20)	21(15)
	理学系研究科		3	2	2	4	3	2		16(3)	12(3)
	医学系研究科		2	1	5	3				11(0)	7(0)
	総合文化研究科		2		1	2	3		2	10(5)	7(4)
	経済学研究科		1	1		1	4	1		8(4)	6(4)
	農学生命科学研究科		1		4	3		2	1	11(4)	5(1)
	生産技術研究所		1			3				4(0)	2(0)
	法学政治学研究科			1						1(1)	1(1)
	地震研究所				1					1(0)	1(0)
	④計		18	8	18	27	25	17	8	121(56)	91(45)
⑤USTEP			10	8	9	0	3	7	3	40(35)	29(25)
合計①～⑤			118	60	82	78	92	71	29	530(201)	409(163)

2) 専攻別



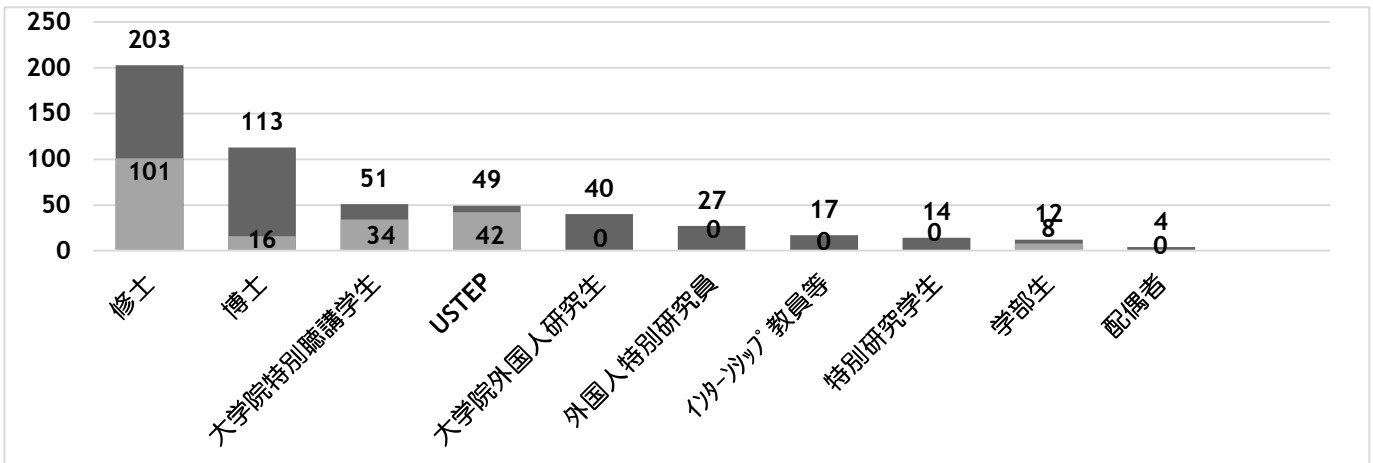
* : 単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

	国籍	レベル	初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
1	中国		22	12	34	31	52	54	16	221	167
2	フランス		19	9	5	2	5			40	36
3	ドイツ		15	7	0	1	0	3	1	27	26
4	韓国		2	2	3	5	9	5	1	27	22
5	アメリカ合衆国				5	11	2	1	1	20	11
6	インド		7	2	4		1			14	11
7	インドネシア		5	1	6	1				13	10
8	イタリア		7	1		1	3			12	10
9	台湾		1		3	4	2	3	1	14	9
10	カナダ		3	2		2	4	1	2	14	9
11	スイス		8	2						10	9
12	スウェーデン		1	3			5			9	6
13	タイ		1		2	4			2	9	5
14	ロシア		2			4	2			8	5
15	シンガポール		1		8					9	4
16	マレーシア			1		1	4		1	7	4
17	オーストリア			2	1	2				5	4
18	日本				1	1		1	1	4	4
19	英国		1	2		1				4	4
20	ウクライナ		2			3				5	3
21	フィリピン		2	1						3	3
22	スペイン		2				1			3	3
23	ニュージーランド		1					2		3	3
24	ノルウェー		3							3	3
25	オーストラリア				1	1			1	3	3
26	スリランカ		1	2						3	3
27	トルコ		2					1	1	4	2
28	モンゴル		1		1	2				4	2
29	ミャンマー		1		2					3	2
30	ベトナム		1		2					3	2
31	バングラデシュ		1	1						2	2
32	イラン				1				1	2	2
33	メキシコ			2						2	2
34	* その他		6	8	3	1	2			20	18
合計			118	60	82	78	92	71	29	530	409

* その他(実数1名) : アルゼンチナ・アルバニア・エクアドル・エジプト・コソボ・シリア・スリナム・セルビア・チェコ・デンマーク・ニカラガ・パキスタン・ブラジル・ボスニアヘルツェゴビナ・マルタ・香港・ヨルダン・ポーランド

4) 身分別



2. 3専攻日本語教室受講者数(実数)

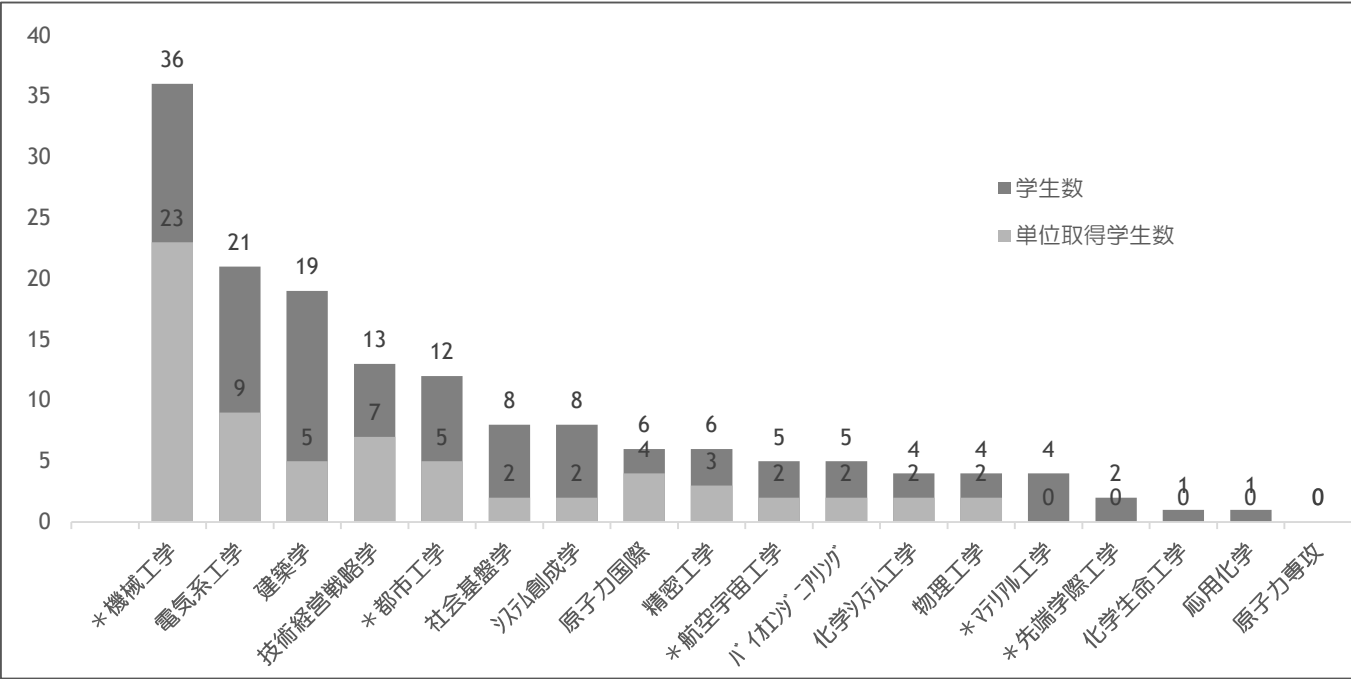
社基		初級1A	初級1B	初級2	合計
	社会基盤学日本語教室	4	7	10	21
シス創	単位コース選択者	4	7	9	20
	システム創成系日本語教室	システム創成系:1/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:1/その他工学系:0/他研究科:1		
IME	単位コース選択者	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0		
	IME日本語教室	IME:4/その他工学系:0/他研究科:0	IME:3/その他工学系:1/他研究科:0	IME:7/その他工学系:1/他研究科:0	

*【シス創】中級Iは複数コース受講者有り、合計は実数

1. 2024年度S1S2 工学系研究科日本語教室修了者数

1) 研究科別ーレベル別			* ()は単位取得学生数								
研究科 \ レベル			初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科			35	24	33	13	25	14	11	155(68)	128(58)
②情報理工学系			13	2	5	5	19	4	2	50(29)	42(25)
③新領域創成科学研究科			1		1	2	6	4		14(13)	11(7)
④他研究科	公共政策 大学院		6	2	2	3	4	2	1	20(16)	20(15)
	情報学環・学際情報学府		1	1	2	7	5	4	4	24(20)	17(14)
	理学系研究科		1	1	1	1	3	2		9(3)	7(3)
	農学生命科学研究科		0	0	3	1	0	1	0	5(4)	3(1)
	医学系研究科		0	1	3	2				6(0)	5(0)
	経済学研究科		1	1			1	1		4(3)	4(3)
	総合文化研究科		1		1	2	3		2	9(6)	6(4)
	地震研究所				1					1(0)	1(0)
	法学政治学研究科			1						1(1)	1(1)
	④計		10	7	13	16	16	10	7	79(53)	64(41)
⑤USTEP			9	8	9	0	3	7	3	39(34)	28(24)
合計①～⑤			68	41	61	36	69	39	23	337(197)	273(155)

2) 専攻別



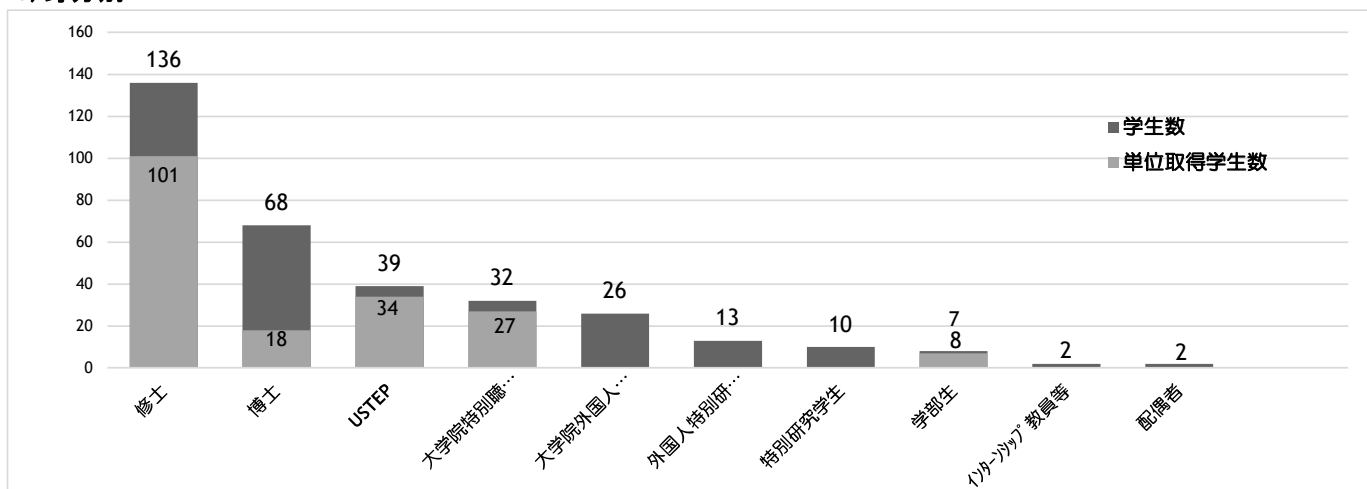
* :単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

	国籍	レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
1	中国		12	7	22	19	42	31	13	146	118
2	フランス		15	5	5		3			28	25
3	ドイツ		7	5		1		2	1	16	15
4	韓国		1	2	2	3	4	4		16	13
5	カナダ		2	2		1	3	1	2	11	8
6	アメリカ合衆国				3	1	3		1	8	6
7	台湾				2	3	2		1	8	6
8	インドネシア		2	1	6					9	6
9	スイス		4	2						6	6
10	インド		4		1		1			6	5
11	スウェーデン			3			5			8	5
12	タイ		1		2	4			2	9	5
13	イタリア		2	1			2			5	4
14	英国		1	2		1				4	4
15	マレーシア			1			2		1	4	3
16	オーストラリア			2	1					3	3
17	ロシア		1			1	1			3	3
18	日本				1			1	1	3	3
19	スリランカ			2						2	2
20	バングラデシュ		1	1						2	2
21	ミャンマー		1		2					3	2
22	メキシコ			2						2	2
23	シンガポール				7					7	2
24	イラン				1				1	2	2
25	トルコ		2							2	2
26	ウクライナ		2							2	2
27	ノルウェー		2							2	2
28	ベトナム				2					2	1
29	ボスニアヘルツェゴビナ				2					2	1
30	モンゴル				1	1				2	1
31	* その他		8	3	1	1	1			14	14
合計			68	41	61	36	69	39	23	337	273

* その他(延べ・実数共に1名)：アルジェリア・アルバニア・オーストラリア・スペイン・スリナム・セルビア・チェコ・デンマーク・ニカラグア・ニュージーランド・パキスタン・フィリピン・ポーランド・香港

4) 身分別



2. 3専攻日本語教室修了者数(実数)

		初級1	初級2A	初級2B	合計
社基	社会基盤学	3	10	7	20
	単位コース選択者	3	9	7	19
シス創		中級 I 創成系総合	合計		
	システム創成系日本語教室 (学生内訳)	システム創成系:1/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:1/その他工学系:0/他研究科:1		
	単位コース選択者	0	0		
IME		中級	上級	合計	
	IME日本語教室	IME:1/その他工学系:0/他研究科:0	IME:3/その他工学系:1/他研究科:0	IME:4/その他工学系:1/他研究科:0	

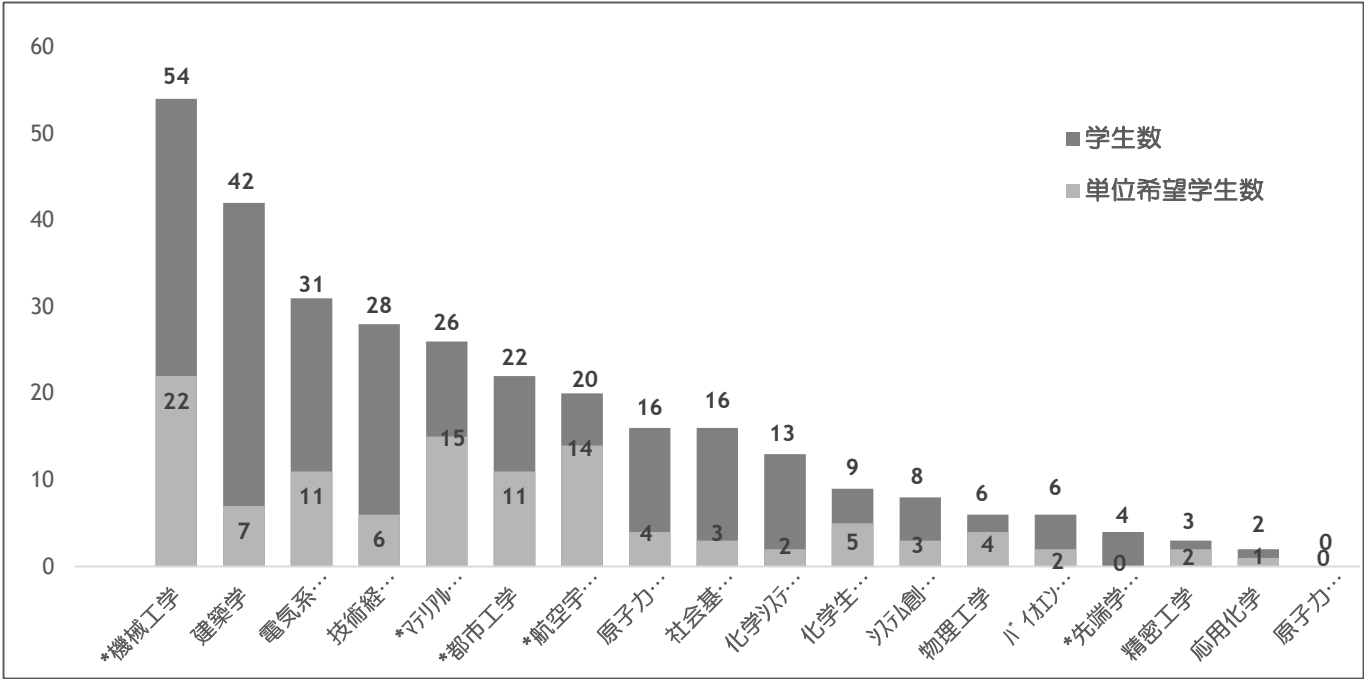
1. 2024年度A1A2 工学系研究科日本語教室受講者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位希望学生数

研究科 \ レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科		64	48	63	61	44	18	8	306(112)	232(92)
②情報理工学系		21	13	8	9	11	6	1	69(32)	63(29)
③新領域創成科学研究科		2	0	11	3	5	9	6	36(19)	24(13)
④他研究科	公共政策 大学院	16	9	4	5	8	13	0	55(35)	43(27)
	情報学環・学際情報学府	1	1	4	2	12	8	4	32(13)	25(11)
	理学系研究科	4	4	2	4	4	1		19(5)	16(5)
	農学生命科学研究科		1			3			4(0)	3(0)
	医学系研究科			10	3	3		1	17(2)	7(1)
	経済学研究科	1	1				1		3(1)	3(1)
	総合文化研究科		1	8	2	1	2	2	16(6)	7(4)
	地震研究所				1				1(0)	1(0)
	人文社会系研究科						1	2	3(2)	3(2)
	④計	22	17	28	17	31	26	9	150(64)	108(51)
⑤USTEP		14	4	1	9	12	4	4	48(32)	35(27)
合計①～⑤		123	82	111	99	103	63	28	609(259)	462(212)

2) 専攻別

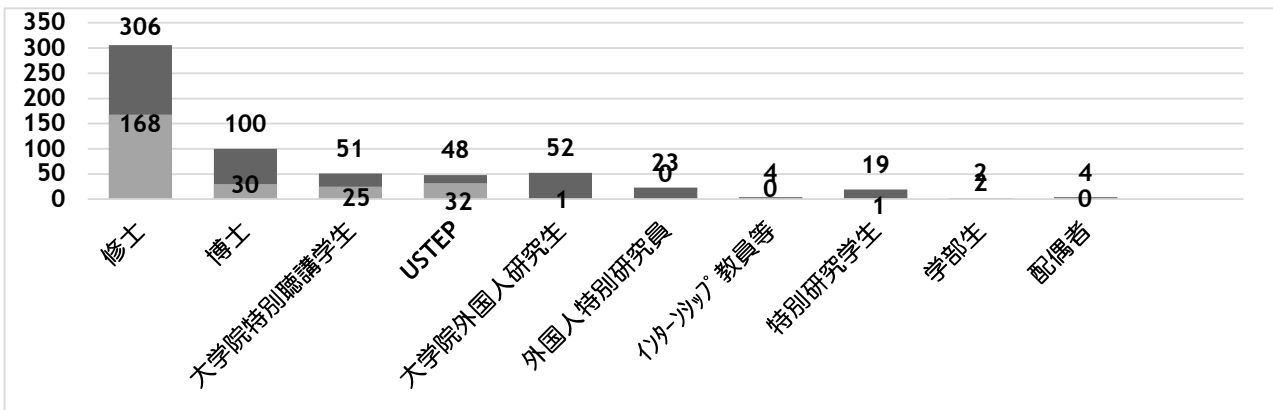


* : 単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

	国籍	レベル	初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
1	中国		26	32	45	52	66	36	15	272	213
2	フランス		17	5	5	8	4	6		45	31
3	ドイツ		14	11	5		2		2	34	32
4	インドネシア		7	1	7	1	1	1		19	16
5	アメリカ合衆国		3		6	8		1		18	11
6	台湾			2	3	4	3	3	3	18	10
7	インド		4	2	1	4	3	1		15	10
8	フィリピン		4	1	6	1				12	8
9	韓国			1		2	5	3		11	9
10	マレーシア			1	5	3	1	1		11	5
11	イタリア		8	1	1					10	10
12	カナダ		1	1			2	4	2	10	8
13	日本			1			5	2	2	10	5
14	タイ		2	3	1		1		2	9	7
15	オーストラリア				1	3	4			8	4
16	スウェーデン		2		5					7	3
17	英国		4		1	1				6	5
18	スペイン		4	1			1			6	6
19	香港			1		1	4			6	4
20	コロンビア		1		2	3				6	4
21	アルジェリア				5					5	1
22	ニカラグア				5					5	1
23	ブラジル		1	1	3					5	3
24	オーストリア		3	1						4	4
25	スイス		2	1						3	3
26	シンガポール		1			1		1		3	3
27	ウクライナ		1	1				1		3	3
28	スリランカ		1		2					3	3
29	モンゴル			1		1	1			3	2
30	ベトナム					3				3	1
31	オランダ		3							3	3
32	エジプト		1	2						3	3
33	メキシコ		1	2						3	3
34	イスラエル							2		2	1
35	トルコ		1	1						2	2
36	パキスタン		1	1						2	2
37	ポーランド					2				2	1
38	ロシア							1	1	2	2
39	* その他		10	7	2	1				20	20
合計			123	82	111	99	103	63	28	609	462

* その他(実数1名)：アイルランド・イラン・ウズベキスタン・エリトリア・オマーン・コソボ・スリナム・リベリア・チェコ・デンマーク・ネパール・ルウェー・マカオ・モリシャス・ハイチ・バングラデシュ・フィリピン・ベルギー・ボスニアヘルツェゴビナ・ポルトガル



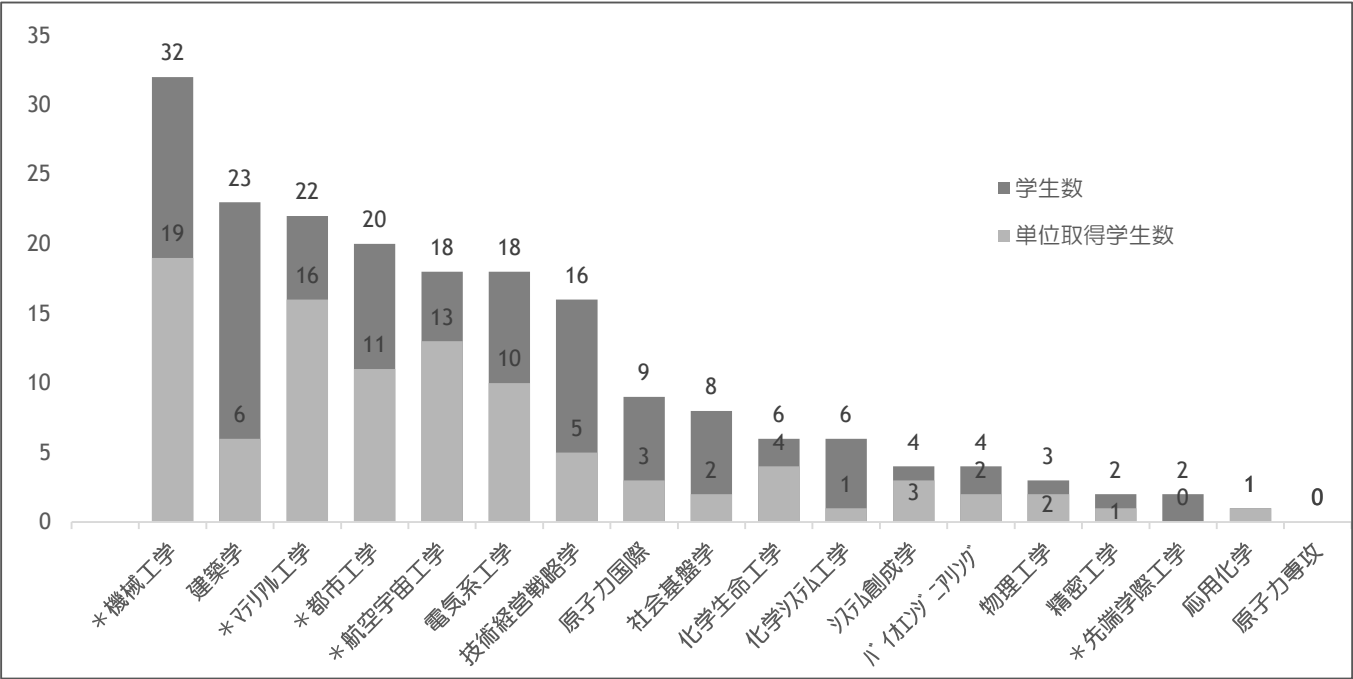
2. 3専攻日本語教室受講者数 (実数)

社基	社会基盤学日本語教室	初級1A	初級1B	初級2	合計
	単位コース選択者	7	6	7	20
シス創	システム創成系日本語教室	システム創成系:2/その他工学系:1/他研究科:1	システム創成系:2/その他工学系:1/他研究科:1		
	単位コース選択者	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0		
IME		中級	上級	*【シス創】中級 I は複数コース受講者有り、合計は実数	
	IME日本語教室	IME:0/その他工学系:1/他研究科:0	IME:2/その他工学系:1/他研究科:0		
				IME:2/その他工学系:2/他研究科:0	

1. 2024年度A1A2 工学系研究科日本語教室修了者数

1) 研究科別ーレベル別			* ()は単位取得学生数								
研究科		レベル	初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科			36	38	39	36	26	13	6	194(99)	151(83)
②情報理工学系			12	6	8	5	6	4	0	41(26)	38(24)
③新領域創成科学研究科			0	0	7	3	3	5	4	22(16)	16(10)
④他研究科	公共政策 大学院	14	7	4	3	6	12			46(35)	35(27)
	情報学環・学際情報学府		1		1	10	6	3		21(13)	15(9)
	理学系研究科	2	3	1	3	2				11(4)	9(2)
	農学生命科学研究科		1							1(0)	1(0)
	医学系研究科			9	2	2		1		14(2)	6(1)
	経済学研究科	1	1							2(1)	2(1)
	総合文化研究科		1	8	1	1	2	1		14(6)	8(4)
	地震研究所				1					1(0)	1(0)
	学部						1	1		2(2)	2(2)
	④計	17	14	22	11	21	21	6		112(63)	79(46)
⑤USTEP			14	2	0	6	9	3	3	37(27)	29(24)
合計①～⑤			79	60	76	61	65	46	19	406(231)	313(187)

2) 専攻別



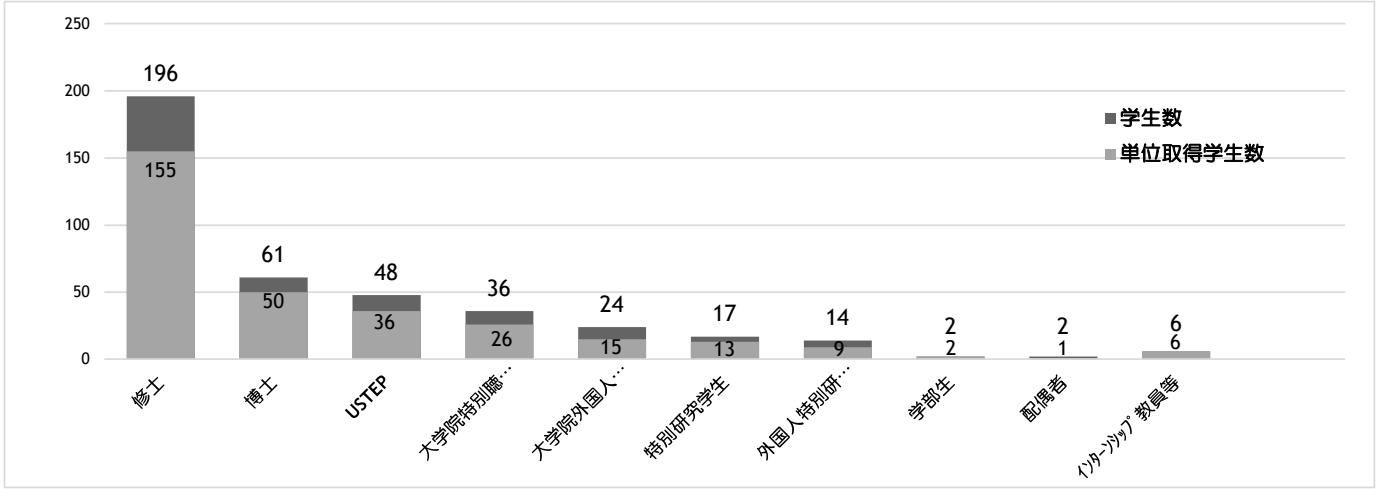
* : 単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

	国籍	レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
1	中国		12	25	30	30	39	25	10	171	142
2	フランス		13	3	3	5	4	5		33	22
3	ドイツ		11	9	4		2			26	24
4	アメリカ合衆国		3		6	8		1		18	11
5	台湾			1	3	4	3	2	3	16	9
6	インドネシア		5	1	4		1	1	1	13	12
7	フィリピン		4	1	5	1				11	7
8	タイ		1	4	1		1		1	8	7
9	インド		2	1	1	4		1		9	6
10	日本			1			4	2	2	9	5
11	韓国			1			5	2		8	6
12	マレーシア			1	5	1		1		8	4
13	カナダ			1			1	3	2	7	5
14	オーストラリア				1	2	4			7	3
15	コロンビア		1		2	3				6	4
16	アルジェリア				5					5	1
17	ニカラグア				5					5	1
18	英国		3		1					4	4
19	スペイン		3	1						4	4
20	イタリア		2	1						3	3
21	スイス		2	1						3	3
22	ウクライナ			1				1		2	2
23	エジプト		1	1						2	2
24	オーストリア		1	1						2	2
25	シンガポール		1			1				2	2
26	スリランカ		1		1					2	2
27	トルコ		1	1						2	2
28	イスラエル							2		2	1
29	ベトナム					2				2	1
30	* その他		7	8			1			16	16
合計			74	64	77	61	65	46	19	406	313

* その他(延べ・実数共に1名)：ウズベキスタン・エクアドル・オマン・オランダ・スウェーデン・スリナム・チリ・デンマーク・ネパール・ノルウェー・パキスタン・フィンランド・ブラジル・マカオ・モリシャス・香港

4) 身分別



2. 3専攻日本語教室修了者数(実数)

社基	初級1		初級2A	初級2B	合計
	社会基盤学		7	6	19
	単位コース選択者		5	6	17
シス創	中級 I 創成系総合		合計		
	システム創成系日本語教室(学生内訳)		システム創成系:1/その他工学系:1/他研究科:1	システム創成系:1/その他工学系:1/他研究科:1	
	単位コース選択者		システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	
IME	中級		上級	合計	
	IME日本語教室		IME:1/その他工学系:1/他研究科:0	IME:1/その他工学系:2/他研究科:0	

聞く		話す		
初	1	相手の名前・専攻・研究室が聞いている	1	あいさつができる
1	2	物の値段が聞いている	2	名前・出身地・専攻・研究室を言うことができる
2	3	日常生活や大学で使う物の名前が聞いている	3	今日の予定や昨日したことを言うことができる
3	4	ゼミやミーティングの日程や時間が聞いている	4	自己紹介をした後の質問に答えられる
4	5	物や建物の場所が聞いている	5	物や建物の場所を聞くことができる
初	6	電車の行き先や乗り換えが聞いている	6	日常生活・家族について話すことができる
2	7	友達に誘われた時、聞いている	7	友だちに誘ったり、誘われた時の返事ができる
初	8	時間や場所を問いつけた時、答えが聞いている	8	大学の窓口で質問ができる
3	9	大学の窓口で必要な説明が聞いている	9	遅刻・欠席・早退の理由を話すことができる
4	10	駅や空港のアナウンスで必要なことが聞いている	10	自分の部屋や研究室、町の描写ができる
初	11	身近な話題に関する意見が聞いている	11	身の回りの変化について話すことができる
4	12	身近な人からの電話の用件が聞いている	12	自分の仕事・専門・趣味について説明できる
13	13	日常的話題において出された提案が聞いている	13	研究室の環境、好き嫌いなどについてプレゼンテーションができる
中	14	緊急放送・地震訓練放送などが聞いている	14	図や表の説明ができる
1	15	天気予報が聞いている	15	自己紹介の場面で敬語が使える
16	16	電話の録音メッセージが聞いている	16	授業で先生に質問ができる
17	17	研究室・クラブ活動での指示・説明が聞いている	17	実験方法や研究方法を順序だてて話すことができる
中	18	大学の教職員の事務的な説明が聞いている	18	友達や教員にアドバイスを求めることができる
19	19	専門的なプレゼンテーションの要点がわかる	19	研究室の人や友達と雑談ができる
2	20	研究室のミーティングの内容が聞いている	20	ミーティングなどの日程に関して自分の希望を述べ調整できる
21	21	アニメ・ドラマ・映画のストーリーがわかる	21	研究計画などを論理的に話すことができる
22	22	専門の授業全体の流れが聞いている	22	大学の教職員に質問したり、説明することができる
中	23	研究に関する指導教員のコメントが聞いている	23	ゼミで発表することができる
3	24	テレビのニュースやドキュメンタリーがわかる	24	ニュースの要旨を話すことができる
25	25	ゼミの発表が聞いている	25	講義の途中や後で、教員に敬語を用いて質問ができる
26	26	ゼミの発表後の質疑応答の内容がわかる	26	初対面の人と雑談することができる
上	27	就職などの面接で質問されたことがわかる	27	就職などの面接で質問に適切に答えることができる
1	28	歓迎会など公式の場でのスピーチがわかる	28	歓迎会など公式の場でスピーチができる
29	29	自分の専門分野の学会発表や講演が理解できる	29	自分の専門分野の学会でのディスカッションで意見が言える
30	30	自分の専門分野での話題での議論を聞いて理解できる	30	会議や打ち合わせで意見をまとめたり進行役を務めたりできる
上	31	抽象的で複雑な内容を聞いて要点がわかる	31	母語話者同士の活発な会話に積極的に参加できる
2	32	くだけた表現から改まった表現まで幅広くスタイルが変化する話を聞いて問題なく理解できる	32	学会で口頭発表と質疑応答が適切にできる
33	33	専門外の分野の学会発表や講演を聞いて問題なく理解できる	33	フォーマルな会議やシンポジウム等で意見をとりまとめたり進行役を適切に務めたりできる
34	34	専門外の分野の話題での活発な議論を聞いて問題なく理解できる	34	自分の専門外の話題の議論で流暢かつ正確に意見を言うことができる

読む		書く	
1	ひらがなを読むことができる	1	ひらがなを書くことができる
2	日本語で書かれた自分の名前がわかる	2	自分の名前をカタカナで書くことができる
3	ひらがなとカタカナのメニューがわかる	3	今日のスケジュールを書くことができる
4	日本語で書かれた自宅と大学の住所がわかる	4	自分の大学名・研究室名・専門を漢字で書くことができる
5	日本語で書かれた自分の大学名・研究室名・専門がわかる	5	自宅と大学の住所を漢字で書くことができる
6	スケジュール変更のお知らせがわかる	6	自分の国や自分の紹介を書くことができる
7	駅や食堂の券売機の表示画面がわかる	7	簡単なメッセージのメモを書くことができる
8	研究室・実験室の注意書きがわかる	8	趣味や得意なことについて書くことができる
9	駅・銀行・大学の案内表示がわかる	9	自分のことについて、SNSなどに書きこむことができる
10	カード・はがきが読んでもわかる	10	カード・はがきなどを書くことができる
11	広告・チラシがわかる	11	日本語で日記を書くことができる
12	友達からのテキストメッセージが読んでもわかる	12	友達にテキストメッセージを書くことができる
13	自分の専門分野の論文・専門書の題名・履修科目名がわかる	13	打ち合わせで、メモを書きとめることができる
14	易しい科学技術／専門の文章がわかる	14	履歴書を書くことができる
15	事務からの書類が読んでもわかる	15	事務的な書類に必要なことを記入することができる
16	身近な人からの電子メールが読んでもわかる	16	お礼の手紙を手書きで書くことができる
17	公共料金のお知らせ、不在配達通知がわかる	17	奨学金の申請書類に記入することができる
18	漫画のストーリーがわかる	18	身近な人に電子メールを書くことができる
19	板書が見てわかる	19	講義を聞いて、ノートをとることができる
20	ゼミの発表資料(PPTスライド・レジュメ)がわかる	20	ゼミの発表資料(PPTスライド・レジュメ)を書くことができる
21	論文の要旨が読んでもわかる	21	推薦状の依頼書を書くことができる
22	大学内の掲示板が見てわかる	22	論文の要旨を書くことができる
23	専門に関する資料の内容がわかる	23	研究計画書を書くことができる
24	ニュースレター・メールマガジンが読める	24	授業のレポートを書くことができる
25	映画やテレビなどの字幕が見てわかる	25	プレゼンの発表原稿を書くことができる
26	研究会や会議の報告書が読める	26	状況に応じた許可願いや謝罪文を書くことができる
27	パソコンや携帯電話の説明書(マニュアル)がわかる	27	就職のための自己PRや志望動機などを書くことができる
28	WEBサイトや会社案内の情報がわかる	28	研究会や会議の報告書を書くことができる
29	論文・専門書が読んでもわかる	29	抽象的な内容についてある程度まとまった長さの意見文が書ける
30	一般的な内容の新聞・雑誌・書籍が読んで理解できる	30	フォーマットにしたがって、さまざまな用途の通信文(メール等)が書ける
31	専門外の記事や論文の概要を理解できる	31	関心のある作品や文献の批評文が書ける
32	専門書を含む幅広い書籍や論文を読み、その背景や意見を問題なく読み取ることができる	32	場面や受け手、内容に合わせて適切な文体を使い、フォーマルからインフォーマルまで幅広い通信文(メール等)が書ける
33	様々な通信文・通知文を読み、問題なく理解できる	33	研究の助成金等の申請書を書くことができる
34	複雑な内容の契約書、就業規則などを正確に読み取ることができる	34	学術論文や長い説明文が書ける

1. 専攻：
2. 身分： ☐ 研究生 ☐ 修士 ☐ 博士 ☐ 研究員 ☐ 交換留学生 ☐ USTEP ☐ 学部生 ☐ 配偶者 ☐ その他：
3. 身分で「その他」と答えた方は詳しく教えてください。
4. 母語
5. 現在の留学が終わった後の予定 日本で就職する/日本で進学する/帰国する/分からない
6. 日本にどのくらい滞在する予定ですか。
☐ 1～3ヶ月 ☐ 4～6ヶ月 ☐ 7ヶ月～1年 ☐ 1～2年 ☐ 2年以上
7. 日本語学習歴(自国)
☐ なし ☐ 1～3ヶ月 ☐ 4～6ヶ月 ☐ 7ヶ月～1年 ☐ 1～2年 ☐ 2年以上
8. 日本語学習歴(日本)
☐ なし ☐ 1～3ヶ月 ☐ 4～6ヶ月 ☐ 7ヶ月～1年 ☐ 1～2年 ☐ 2年以上
9. どうして日本語を学習していますか。該当する項目を全て選んでください。
日常生活に必要なため/研究に必要なため/日本で就職をするため/友達をつくるため/日本の伝統文化（茶道、華道、書道など）に興味があるため/日本のサブカルチャー（アニメ、ゲームなど）に興味があるため/その他
10. その他と答えた方は、詳しく教えてください。
11. 現在取っている科目のレベル
☐ 初級Ⅰ（入門・初級Ⅰ・初級Ⅱ・インテンスⅠ 初級Ⅰ） ☐ 初級Ⅱ（初級Ⅲ・初級Ⅳ・インテンスⅠ 初級Ⅱ） ☐ 中級Ⅰ ☐ 中級Ⅱ ☐ 中級Ⅲ ☐ 上級Ⅰ ☐ 上級Ⅱ
12. 研究室で指導教員と研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
☐ 日本語 ☐ 英語 ☐ 日英両方 ☐ その他
13. 研究室で日本人学生と研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
☐ 日本語 ☐ 英語 ☐ 日英両方 ☐ その他
14. 研究室で留学生同士で研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
☐ 日本語 ☐ 英語 ☐ 日英両方 ☐ その他
15. 研究室で指導教員との雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
☐ 日本語 ☐ 英語 ☐ 日英両方 ☐ その他
16. 研究室で日本人との雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
☐ 日本語 ☐ 英語 ☐ 日英両方 ☐ その他
17. 研究室で留学生同士の雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
☐ 日本語 ☐ 英語 ☐ 日英両方 ☐ その他
18. 研究室での研究発表には、主に何語が使われていますか。
☐ 日本語 ☐ 英語 ☐ 日英両方 ☐ その他
19. 研究室での打ち合わせには、主に何語が使われていますか。
☐ 日本語 ☐ 英語 ☐ 日英両方 ☐ その他
20. 研究に関する資料は、主に何語が使われていますか。
☐ 日本語 ☐ 英語 ☐ 日英両方 ☐ その他
21. 指導教員は、あなたにどの程度の日本語能力を求めていますか。
☐ 全く求めていない ☐ 初級レベル ☐ 中級レベル ☐ 上級レベル ☐ 超上級レベル
22. あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか。
☐ 全く目指していない ☐ 初級レベル ☐ 中級レベル ☐ 上級レベル ☐ 超上級レベル
23. 具体的に、どんな日本語能力を身につけたいですか。
24. 大学のあらゆる場面において、日本語ができなくて困ることがありますか。
☐ ない ☐ あまりない ☐ ある ☐ よくある

25. どんな場面があるか、具体的に書いてください。
26. 大学以外の日常生活で、日本語ができなくて困ることがありますが、どんな場面か具体的に書いてください。
☐ない ☐あまりない ☐ある ☐よくある
27. どんな場面か具体的に書いてください。
28. 日本語教室に期待していることはなんですか。該当する項目を全て選んでください。
☐日本語学習 ☐日本文化体験 ☐日本人学生との交流 ☐留学生との交流 ☐大学生生活・就職などのための日本語支援 ☐その他
29. No. 28 で「その他」と答えた人は、具体的な内容を書いてください。
30. 日本語教室のドリンクコーナーを利用したことがありますか。
☐はい ☐いいえ
31. NO. 30 で「いいえ」と答えた人は、ドリンクコーナーを利用しない理由を書いてください。

このアンケートは、日本語プログラム/コースの評価のためのものです。回答結果は、日本語教室の報告書に掲載します。回答の内容によって成績は変わりません。また個人が特定される情報は公開しません。御協力をお願いいたします。

1. 身分 :

まったく思わない

あまり思わない

そう思う

強くそう思う

2. コースおよび授業内容について、質問 2～11 に答えて下さい。

コースの目標は明確だった。

1

2

3

4

3. 授業のスピードは適切だった。

1

2

3

4

4. 授業内容は分かりやすかった。

1

2

3

4

5. 授業の課題の量はどうか。

多すぎる

適切である

少ない

課題が出ていない

1

2

3

4

まったく思わない

あまり思わない

そう思う

強くそう思う

6. 担当教員は熱意を持って授業を行っていた。

1

2

3

4

7. このコースの授業を受けて学習意欲が高まった

1

2

3

4

8. このコースは自分にとって将来役に立つと思う。

1

2

3

4

9. あなたは、この授業科目の予習・復習に
毎週どれくらい時間を使いましたか。

まったく予習・復習しなかった

1時間未満

1～2時間

2～3時間

3～5時間

5時間以上

1

2

3

4

5

6

10. このコースに出て、どんなことができるようになりましたか。

11. このコースについて自由にコメントして下さい。(教室、受講者数、テスト、宿題、試験、印象に残ったことなど)

12. 現在、講義を受講しているまたは研究を行っているメインのキャンパスはどこですか。

本郷/駒場/柏/東海村/その他

13. No. 12 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

14. 履修登録の手続きとプレイスメントテストについて、次の項目に答えて下さい。 履修登録の手続きは分かりやすかった。

まったく思わない/あまり思わない/そう思う/強くそう思う

15. No. 14 で 1 または 2 を選んだ人は、どうしてそう思うか理由を教えてください。

16. プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた。

まったく思わない/あまり思わない/そう思う/強くそう思う

17. プレイスメントテストに関するコメントがあったら書いてください。(テストの説明、時間など)

18. 日本語教室に期待していることはなんですか。該当する項目をすべて選んでください。

日本語学習/日本文化体験/日本人学生との交流/留学生との交流/大学生活・就職などのための日本語支援/その他

19. No.18 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

20. 日本語学習サポート（チュートリアルや日本語ラーニングアドバイスセッション）を受けることを希望しますか。
希望する/希望しない

21. 誰に日本語学習サポートを受けることを希望しますか。該当する項目をすべて選んでください。
日本語教室の先生/日本人の大学院生/留学生の大学院生

22. 日本語学習サポートでどんなサポートを受けたいですか。該当する項目をすべて選んでください。
日本語の学習方法、復習など/ JLPT 対策/日本語のアカデミック・ライティング/奨学金の申し込み/アカデミックスキル（ノートテイキングなど）/

23. 日本語学習サポートを希望する場合、どの時期に参加を希望しますか。該当する項目をすべて選んでください。
学期中/夏休みや冬休みなど

学生授業ボランティア募集

日本語教室で留学生と学びませんか

工学系研究科日本語教室では、初級から上級までさまざまな日本語コースがあり、約400名、55か国以上の留学生が日本語を学んでいます。留学生の日本語学習を支援してくださる学生授業ボランティアを募集しています。皆さまのご参加をお待ちしています。(学期途中からの参加も歓迎です)

主催：大学院工学系研究科日本語教室

<https://www.jlcs.t.u-tokyo.ac.jp/ja/>

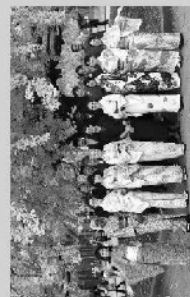
活動期間：2024年4月15日(月)～7月24日(水)

活動場所：工学部8号館 他

活動頻度：週1コマ(105分)～希望に合わせて調整できます

募集人数：30名程度

活動内容：グループワークへの参加、会話の練習相手、その他の学習サポート、及び留学生との多文化交流など(担当教員から説明があります)



学生授業ボランティア申込先：

東京大学大学院工学系研究科

国際工学教育推進機構 国際教育部門 日本語教室 (JLCSE)

工学部8号館 128号室

☐ : nihongo@jlcs.t.u-tokyo.ac.jp

☎ : 03-5841-8826



International
Lounge at UTokyo

INSTITUTE FOR INNOVATION IN
INTERNATIONAL ENGINEERING
EDUCATION (IIIEE)

PRESENTS

International Lounge

Want to make
international friends?

Want to enjoy a

multilingual atmosphere?

Want to learn about
other cultures?

Come join us now!

Every Friday

12:10-13:10
(2024S1S2)

April 26th-July 12th)

Venue : Engineering Building #11
2F (Above Starbucks)



インターナショナルな友達がいい？
多言語交流を楽しみたい？
他文化を学びたい？
さあ今すぐ来よう！



工学系研究科国際工学教育推進機構
ilatutokyo@gmail.com



Do you know RAKUGO?

Traditional Japanese Storytelling in Japanese and English

みなさん、落語を聞いたことがありますか？

Matt Shores さんが日本語と英語で落語を披露してくれます。

Have you ever listened to RAKUGO?

Mr. Matt Shores shows RAKUGO in both Japanese and English.

Please register through STAR system at JLCSE homepage.

日時：5月8日（水）13:30～15:00

Date : May 8th (Wed) 13:30 - 15:00

会場：工学部 8 号館 2 階 88L 教室

Place : Engineer Bldg#8, 2F, Room88L



Matt Shores

2014: Ph.D. in Japanese Literature, University of Hawai'i at Mānoa

2010-2012: apprenticeship with rakugo master Ilayoshiya Somemaru IV

2007: M.A. in Japanese Language and Literature, Portland State University

2004: M.A. in Traditional Japanese Cultures, Tezukayama University

2002-2004: apprenticeship with rakugo master Katsura Bunshi V

1977: born in Portland, Oregon USA

Website: msshores.com

落語を知ってみたいかな？

茶道体験 Tea Ceremony Experience

We are going to have the tea ceremony Experience. Let's make a cup of traditional Japanese green tea!

Date : 3rd July (Wednesday)

1st session 13:30 - 14:00

2nd session 14:15 - 14:45

Venue : Room 88L (2nd floor of Eng. Bldg. No.8)

We will be accepting applications through STAR system.

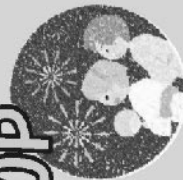
Participants will be determined by drawing lots.

We will notify successful participants by email on June 27.

Reservation through email will not be accepted.



浴衣を着よう！ YUKATA WORKSHOP



We are having a workshop where you can learn how to wear yukata.
After the workshop, we are sure that you can wear Yukata by yourself!
Please register using our STAR system.
Participants will be determined by drawing lots.
We will notify successful participants by email on May 30.

June 5th (Wednesday)

1st session : 13:30-14:10 : 13 students(women)
2nd session : 14:10-14:40 : 13 students(men)

Place: Eng. Building #8, 1F, Room 132



Calligraphy Workshop

書道に挑戦してみませんか？

We are going to have the calligraphy workshop.
We will be accepting applications through STAR system.
Participants will be determined by drawing lots.
We will notify successful participants by email.



Date : June 26th (Wed)

1st session 13:30 - 14:30

2nd session 14:40 - 15:40





はの だいしろう
羽野大志郎先生
来学!!

待望のアテレコイベント!
Challenge to be a voice actor

WANGA

日本語教室

**Engineering Bldg.8
2F 88L**

11/6 WED 13:30~15:00




着物を着てみましょう!
Let's wear kimono!

Have you ever worn Kimono, traditional Japanese clothing?
We are going to have a Kimono wearing session.
We will be accepting applications through STAR system.
Participants will be determined by drawing lots.
We will notify successful participants by email.

Date : Nov. 20th (Wed)
1st session : 13:30 - 14:00 : 6 students (female)
2nd session : 14:00 - 14:30 : 6 students (female)
3rd session : 14:30 - 15:00 : 12 students (male)

Place : Engineer Bldg#8, 1F, Room 132

折り紙ワークショップ

Welcome to the

ORIGAMI ART

Date: 4th Dec. (Wed.)

13:30 - 14:30

Venue: Room 88L
(2nd floor of Eng. Bldg. No.8)

We will be accepting applications through STAR system.

Participants will be determined by drawing lots.
We will notify successful participants by email.

There's a paper airplane competition !!



しるこ お汁粉を食べよう! Let's try OSHIRUKO! (Sweet bean soup)

日時: 1月10日(金) 10:00-16:00

Date: Fri, 10th, January 10:00-16:00

場所: 日本語教室 (工学部8号館1階128B)

Place: JLCSE office(128B, 1st floor, 8 Bldg.)

みなさんは「おしるこ」を知っていますか?

お汁粉は、お正月に神様や仏様にお供えした餅(鏡餅)を焼いて、
お粥(かき)と煮た小豆汁の中に入れた、正月の代表的な食べ物の一つです。
おいしいですよ。

Do you know "oshiruko" ?

It's a traditional new year's
sweet in Japan. Basically, it's
a bowl of sweet bean soup
with grilled rice cakes which
had been offered to the god.
Try oshiruko.
It will show you another
sweet world.



執筆・編集者

教授	古市	由美子
特任准教授	市原	明日香
	牛山	和子
特任講師	猪狩	美保
特任助教	劉	羅麟
特任専門職員	佐々木	知子
事務補佐員	早坂	美和子

執筆者

非常勤講師	内田	あゆみ	中村	亜美
	大西	由美	ハワード	文江
	片岡	さゆり	東平	福美
	米谷	章子	久田	美菜
	佐藤	瑞恵	藤井	明子
	鈴木	恵理	宮瀬	真理
	武田	聡子	佐野	理恵

発行 日：2025 年 3 月 31 日

編集兼発行者：東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構
国際教育部門日本語教育コース

発行責任者：古市由美子

113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構

国際教育部門日本語教育コース

E-mail：nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp

電話：03-5841-8826 <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>
